

秋 田 市

上新城中学校遺跡

林道工事・小グランド造成に伴う

緊 急 発 挖 調 査 報 告 書

1980. 3

秋 田 市 産 業 部
秋 田 市 教 育 委 員 会

序

上新城地区は秋田市における埋蔵文化財の密集地の一つで重要な地域であります。

この度、上新城中学校の西側に林道、北側に小グラント造成に伴う発掘調査を実施し、縄文時代晚期の墓が多数発見されました。縄文時代の葬制については学会でも注目されているところであり、今回、多大の成果をあげることができました。これもひとえに地元関係者の御協力によるものと感謝いたしております。

報告書の発刊にあたりまして、本書が広く文化財保護啓蒙の一助となれば幸いに存じます。

昭和55年3月

秋田市教育長 佐藤博之

例　　言

1. 本書は、秋田市上新城五十丁字小林に所在する上新城中学校遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、A地区秋田市林務課、B地区秋田市教育委員会であり、調査員は秋田市社会教育課　菅原俊行である。
3. 報告書作成にあたって、秋田城跡発掘調査事務所の佐々木栄孝所長、小松正夫、石郷岡誠一、日野　久、安田忠市、西谷　隆、西島羽礼子の協力を得て、菅原俊行が執筆、編集をした。
4. 石質の鑑定は、秋田県立博物館の渡部　茂氏に御教示をいただき、土器は、秋田県文化課の富樫泰時氏に御教示をいただいた。
5. II章は、「上新城中学校遺跡とその周辺遺跡」（1973・秋田市教育委員会）の遺跡の環境の文章を利用し、調査区層序を付加えた。
6. 図版1の航空写真は、上新城中学校保管のものを複写したものである。
7. 土塙墓内（実測図）の④小玉・⑤勾玉・▲石鏃はそれぞれの出土地点である。◎はベニガラ、○は炭化物の散布範囲を示す。

目 次

序	
例言	
I 調査に至るまでの経過・調査体制	1
1.林道工事	1
2.小グランド造成工事	1
3.調査体制	1
II 遺跡の位置と立地	2
1.遺跡の位置	2
2.遺跡付近の地形	2
3.遺跡付近の地質・土壤	4
III 調査の方法と経過	4
1.A地区	4
2.B地区	6
IV 遺構と遺物	7
1.A地区	7
集石遺構	7
土塙墓	7
土塙	15
出土遺物	16
2.B地区	43
土塙墓	43
出土遺物	72
V まとめ	73
1.遺物について	73
2.遺構について	73

I 調査に至るまでの経過・調査体制

1. 林道工事

上新城中学校遺跡の西側（一部通学路）に林道を通す計画が決定したのが昭和53年11月の初めであった。市林務課が事業主体であり、この地域は昭和30年の発掘調査の結果、縄文時代晩期の遺跡（「上新城中学校遺跡とその周辺遺跡」1973、秋田市教育委員会）であることが確認され、遺跡破壊を防ぐため林道予定コース変更の協議を重ねたが、地元住民の問題、地形的にも、このコース以外に林道を通す所はないとの判断であった。

そこで緊急発掘調査を実施することとし、調査日程、調査費等の関係で11月24日～27日まで事前に試掘調査（4m × 4m グリッド）をした結果、遺物、石（中疊～巨疊）の出土が多く、冬を迎える時間的にも、作業には時間がかかりそうだと判断した。12月8日、林務課、教育委員会担当課、上新城中学校長が集まり、今後の日程、生徒の通学路の問題等を協議し、雪どけを待って調査をすることにしたのである。2月26日、多少の雪はあるが調査区に残る木の抜根作業をブルドーザーで行う。調査区北半部は木の根の密集で抜根により遺構等は破壊されて、結果は期待できない状態であった。そして、3月5日から発掘調査を開始したのである。

2. 小グランド造成工事

林道工事に伴う発掘調査の整理中に、さらに中学校の裏側（北東側）に小グランド造成の話を持ち上った。それまで中学校のグランドは250m 離れた標高約60m の高台にあり、授業に支障をきたしているということであった。上新城中学校遺跡の範囲確認調査は行なっていないため、小グランド造成予定地（この地域は戦後、開墾して畑として使用したことがあるという。その際、多少の遺物が出土したらしい）の予備調査をした結果、予定地（約2,300m²）の道路を含めた東側の大部分は、以前にスキーヤーのための駐車場を造るために削平され、遺構検出については断念せざるを得ない状態であった。調査対象の西側（約800m²）は笹竹の繁茂が著しく、遺物は確認出来なかつたが、この状態では発掘調査は困難であるため、笹竹の根のおよぶ表土までブルドーザーで排除し、発掘調査を実施することとし、9月17日から調査を開始したのである。

3. 調査体制

林道工事（A地区）

調査期間 昭和54年3月5日～4月14日

調査主体者 秋田市産業部林務課

調査担当者 秋田市教育委員会

調査員 菅原俊行 秋田市教育委員会

調査補佐員 安田忠市 秋田城跡発掘調査事務所

調査協力員 石郷岡誠一、小松正夫、日野 久、西谷 隆、西島羽礼子、秋田城跡発掘調査事務所

本間 宏	秋田高校学生、鈴木雅則 東京農大付属高校生
調査作業員	秋田城跡発掘調査作業員 地元有志
小グランド（B地区）	
調査期間	昭和54年9月17日～11月1日
調査主体者	
秋田市教育委員会施務課	
調査担当者	
秋田市教育委員会	
調査員	菅原俊行 秋田市教育委員会
調査補佐員	安田忠市 秋田城跡発掘調査事務所
調査協力員	石郷同誠一、秋田城跡発掘調査事務所、谷口重光 秋田考古学協会会員
調査作業員	秋田城跡発掘調査作業員、地元有志

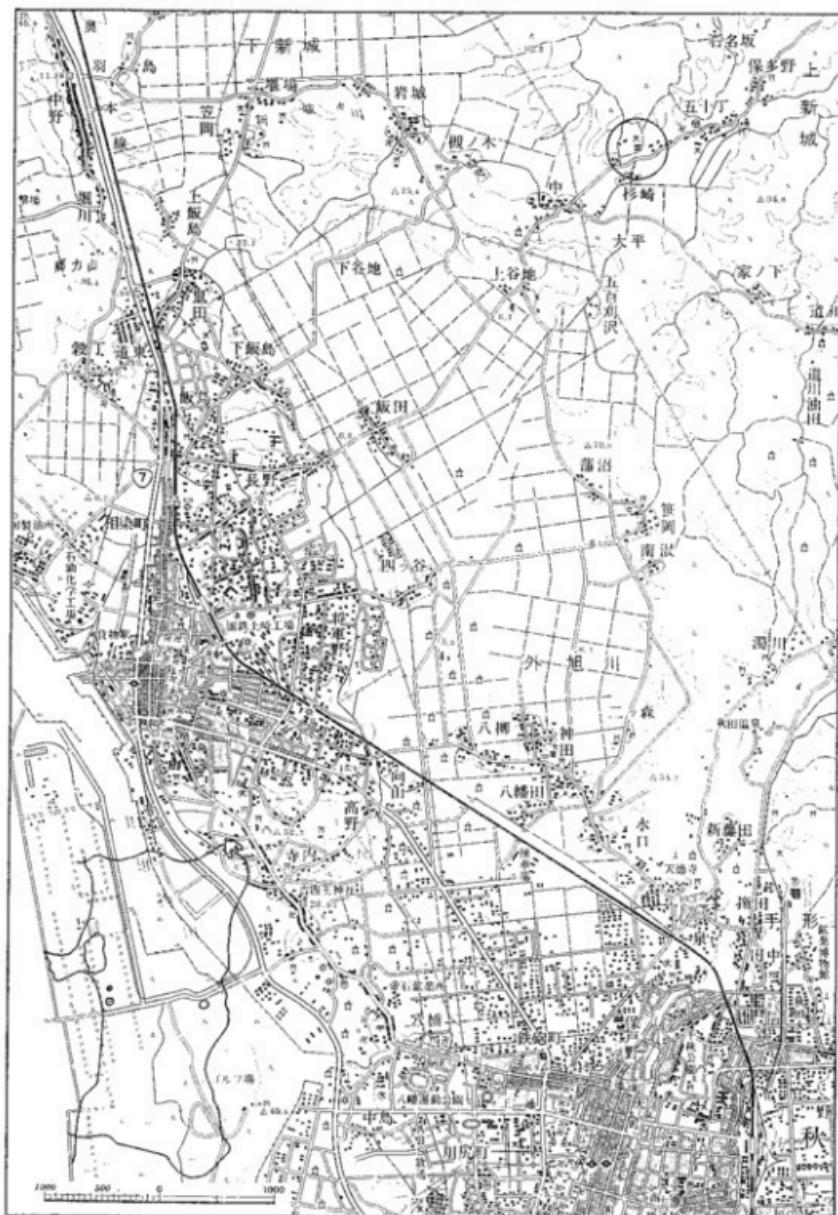
II 遺跡の位置と立地

1. 遺跡の位置

遺跡は、秋田市上新城五十丁字小林にあり上新城中学校を中心とした一帯である。秋田市街から北へ直線距離にして約9kmの地点で、秋田から土崎を通り、飯島字長野、飯田を経て、秋田中央交通バス停宿所「中学校前」の斜面の道路を登り切った標高約45m 前後の南面する段丘上に存在する。中学校の東側は沢になっていて小グランド造成予定地の東側奥まで入り込んでいる。

2. 遺跡付近の地形

秋田平野を北西流する雄物川の旧河口に発達した土崎市街地の北方に太平山塊に源を発し、日本海に注ぐ新堀川という長さ約20kmの小河川がある。上新城はこの河川の上流域に当り、新堀川とその支流の愛染川との細長く二又に分岐した谷底平野と、それを映すように分布する丘陵地から成る。この上新城丘陵は標高60～200m のかなりの開拓を受けた地形であり、谷密度は30～50/km²、また、起伏量は100～150/km²の地域が大部分を占めている。この丘陵の末端を南西流する新堀川沿いには数段の段丘が知られている。五十丁集落付近には上下2段がみられ、上段は開拓を受けた標高60～65m の面でゆるやかな傾斜をもって背後の丘陵に連続し、その堆積物は直径20～30m の並円礫を含む礫層で10m 前後は認められる。また、下段は40～50m の標高を示し、約10m の比較的急な斜面で上段と境される。この面の表面は大変平坦であり、両端10cm前後の礫を主体とする礫層が5mほどみられる。しかし、空中写真と地形図から判断すると杉崎付近から五十丁集落にかけて少なくとも上下3段の段丘が確認できると思われる。前述の上下2段の段丘のほかに標高25～30m の面である。



第1図 遺跡の位置 ○上新城中学校遺跡

3. 遺跡付近の地質・土壤

遺跡付近の丘陵地並びに段丘を構成する地層について述べると、基盤は新第三系中新世船川層で、その上には暗灰一灰色泥岩およびシルト岩から成る天徳寺層が覆っている。本層の固結度は船川層より低く、風化面では大角状にこわれ容易に泥化する。本層に伴う火成岩は羽黒山安山岩で、石英、黒雲母、角閃石を含む混成の輝石ないし角閃石安山岩から成る。天徳寺層を覆うのは笹岡層で、下部はシルト岩ないし砂質シルト岩で上方に漸次砂質化し、上部は微細粒の砂岩となる。下新城付近では路側や川筋に急崖をなして露出している。固結しているが風化しやすく崩れやすく、特に上部の砂岩はもろく、崩れて砂となる。本層に火成岩は伴なわないが、凝灰岩や浮石はしばしば認められる。この鮮新世笹岡層の上には寒風火山の噴出によるといわれる1~2mの黄褐色の粘土質火山灰土が堆積し、最上位には亜円礫の混入がみられる黒色土が覆っている。これは、いわゆる高岡2統で黒色の色調はそれほど強くない。一次鉱物を見ると火山ガラスが混入しており、火山灰が関係しているものと推定される。現水田はシルトが主体の沖積層（西山統）である。

調査における層序は、A地区では第1層（表土）第2層（暗褐色土）、第3層（暗褐色土）、第4層（ローム層）に分けたが、第2層、第3層は両層とも黒っぽい褐色で、層序は明確ではない。第3層には炭化物が多く含み、焼土（粒）等を含んでいることで分けた。第2、3層は遺物包含層である。B地区は第1層（表土）、第2層（黄褐色土）、第3層（ローム層）に分けられる。第1層は黒色腐植土で厚く、第2層はロームに近いもので粘質性があり、木根等による攪乱もみられた。第1、2層とも遺物包含層ではない。

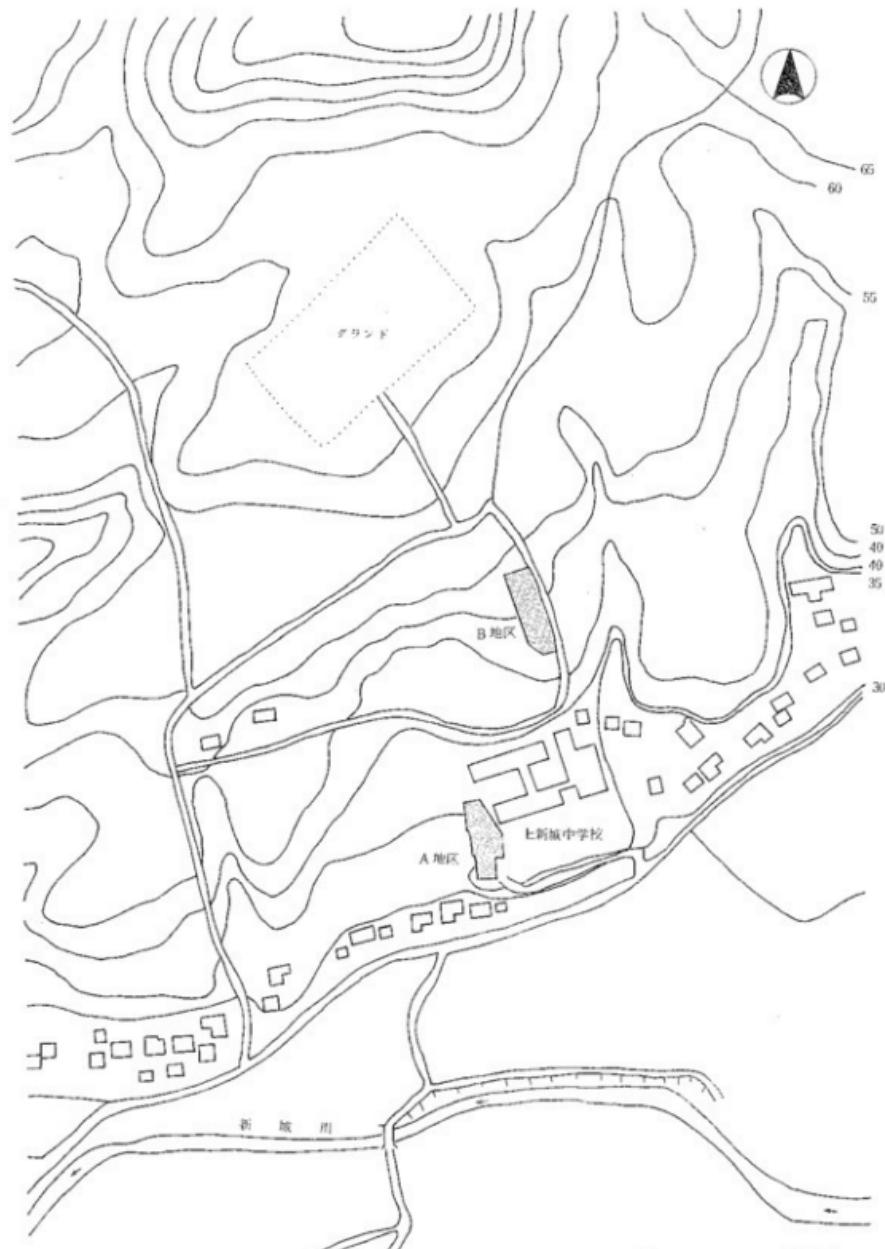
III 調査の方法と経過

林道工事に伴う中学校西側の調査区をA地区、小グランド造成に伴う中学校北東側の調査区をB地区と呼称する。

1. A地区

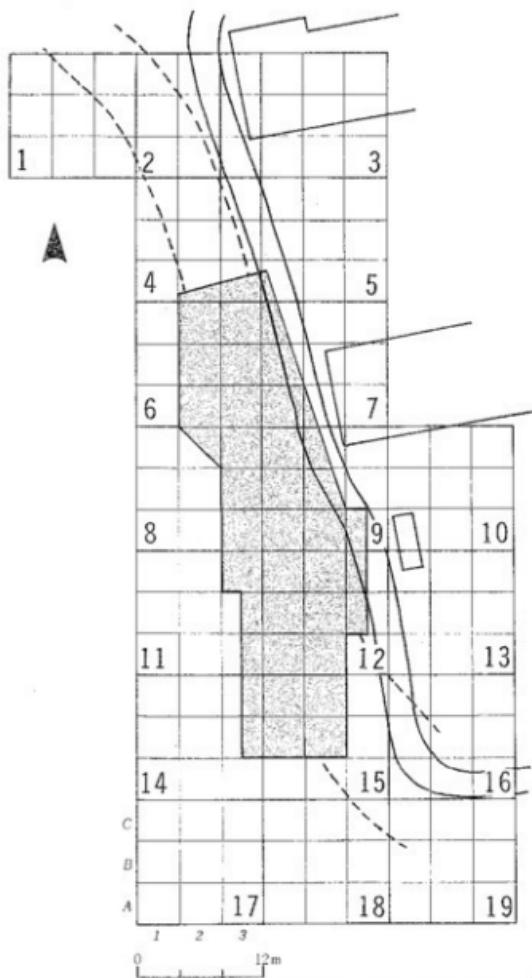
林道予定コースを中心に磁北に合せて東西南北の基線を決め、グリッド設定を行なった。大グリッド（12×12m）を19設定し、大グリッドの中に小グリッド（4×4m）を9設定した。すなわち、東西方向に数字（1~3）南北方向にアルファベット（A~B）の組合せで小グリッド（例17A1）を呼ぶこととし、調査を進めた。大グリッド1・2・4の林道にかかる地区は抜根作業のため調査は不可能な所であり、16・19グリッドは通学路としての切り通しの坂道であり調査対象外の地区であった。調査区では第2層から多量の遺物、石が出土し始め、石は中礫~巨礫まであり、2層3層の遺物包含層の範囲にみられ、集石遺構の実測作業に時間がかかった。特に沢の入り込んでいる8A3、9A1、9B1、9A2、11C3、12C1グリッドでは遺物の量が多い。調査区南は集石は少なかったが、調査後半の調査区精査の際、ローム直上面で土塚墓が確認された。

3月17日 上新城中学校2年生来跡、社会科の授業の一部として。

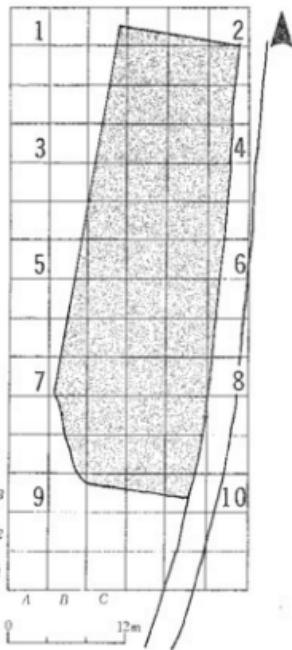


第2図 遺跡地形図および調査区

0 100 m



第3図 A地区調査区・グリッド設定図



第4図 B地区調査区・
グリッド設定図

2.B地区

調査区の籠竹および表土の排除後、磁北に合せて東西南北の基線を決め、大グリッド(12×12m)を10設定し、A地区と同様に小グリッドの名称を決め、調査を進めた。

調査区北側、1C3、2C1、2C2グリッドの所は開墾当時、井戸を掘った場所ということで調査は出来なかった。表土(黒色腐植土層)の排除段階で遺物はほとんど出土しなかった。ローム直上面で土塗基を確認し、平面形の確認できる土塗基は長軸方向に塗内層序を実測することにした。調査区中心部東寄りの所は重なり合う土塗基が多く、平面で把握するのは困難なものもあった。

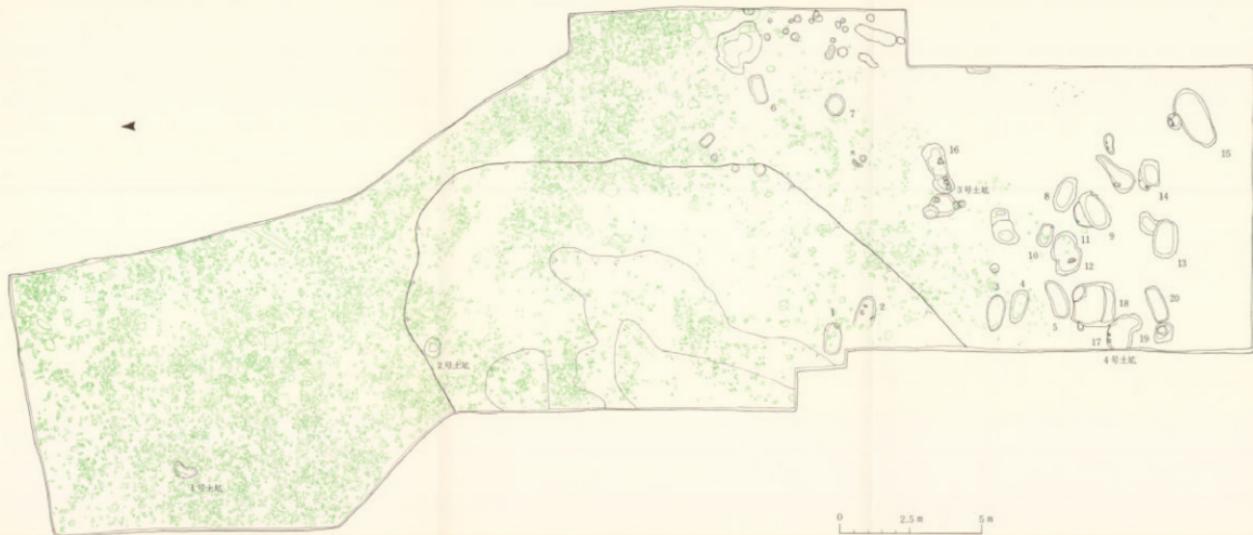
9月28日 上新城中学校全校生来跡。郷土学習の一環として。

10月16日 小林達雄氏(国学院大学助教授)、門間光夫氏、宮樺泰時氏、島山憲司氏(県文化課)来跡
10月17日 林謙作氏(北海道大学助教授)、ビル・ワーカマン夫妻来跡。



第5图 A地区·B地区土壤剖面图

0 2.5 m 5 m



第6图 A地区遺構図

IV 遺構と遺物

1. A地区

調査面積 500m²

校舎（管理棟）の西側に沢が入り込み、小沢の東側、すなわち、校舎の南西側に張り出した台地上が調査区である。標高は40m前後で遺跡の広がりは校舎の敷地内および沢の北側台地に及ぶものと考えられる。

発見された主な遺構は集石、土塙墓（20基）などである。

集石遺構

表土から20～30cmの深さで、集石がみられ集石を含む埋土は20～30mで第2層、3層におよび、石は5～30cmの大きさの礫で、範囲は調査区内では東西約18m、南北約35mの広がりがあり、特に北半、中央部東側に密に分布している。南端部には集石はほとんどみられず、ローム質粘土層に混っている礫が露出しているものである。北半の集石下は疊混りのローム質粘土層となり第3層として区別できる層はない。調査区中央部には小沢が入り込み、埋められているので堆積層は厚くなり、西側が最も厚い。ここは部分的に7層ぐらいまで層別してみたが、基本的には表土も含め4層に大別される。集石の範囲が遺物出土の範囲であり、沢部にあたる8A3、9A1、9B1、9A2、11C3、12C1グリッド内は遺物出土量が著しく、本調査の遺物の大部分である。

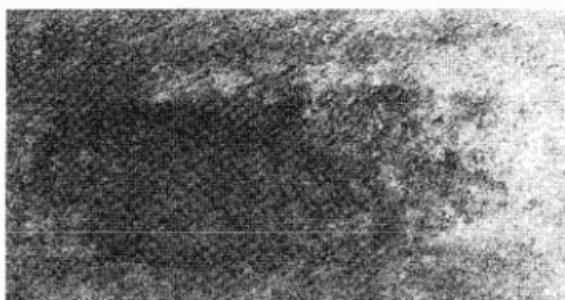
この集石遺構は西側、校舎のある北東側に広がりが考えられるもので、遺構そのものは特に石を配したという形跡はみられない。

土 塙 墓

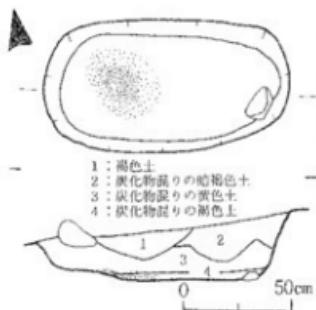
A地区では20基の土塙墓が確認された。土塙墓のほとんどは、台地南端に位置する。土塙墓を1号から順に、構造、出土物等について記述する。土塙断面は必ずしも長軸方向になっていない。

1号土塙墓

沢の南側にあり、西に傾斜している。塙口部は113cm×60cmで小判形を呈し、長軸方向はN86°Wで、塙底はほぼ平らである。埋土には炭化物の混入がみられ、粗製の土器片が若干出土し、塙底中央部よりやや西側にベニガラの散布がみられた。



第7図 1号土塙墓（南→）



第8図 1号土塙墓



第9図 2号土塙墓 (北→)

2号土塙墓

1号土塙墓の南東にあり、西に傾斜し、西壁ははっきり確認できなかった。塙口部は約130cm×67cmで小判形を呈し、長軸方向はN72°Wで、塙底北側に礫がみられ、埋土中に粗製鉢の胴部、石片が出土した。

3号土塙墓

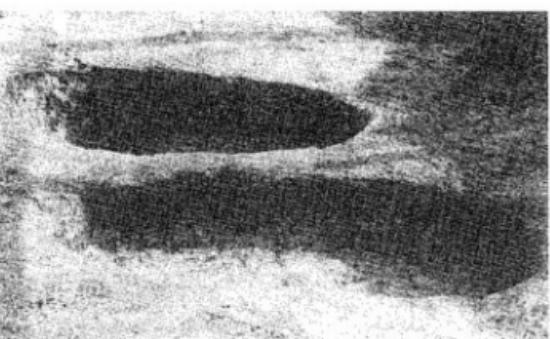
調査区南の西壁際にあり、塙口部は127cm×62cmではほぼ橢円形を呈し、長軸方向はN83°Wで、塙底は平らで壁は比較的直立し、遺物は粗製上器片が1点出土している。

4号土塙墓

3号土塙墓とややすれて南側に並んでいる。塙口部は120cm×55cmではほぼ小判形を呈し、長軸方向はN71°Wで、出土遺物はない。



第12図 3号土塙墓



第13図 3号・4号土塙墓 (手前3号) (北→)



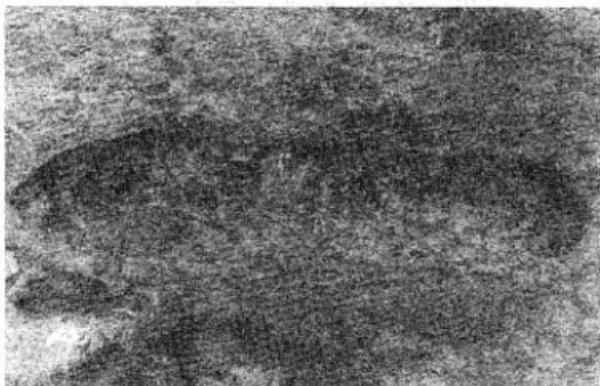
第14図 4号土塙墓



第15図 5号土塙墓

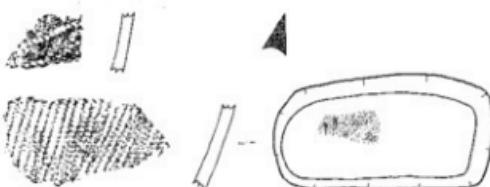
5号土塙墓

4号土塙墓の南側にあり、
塙口部は142cm×65cmで、多少
変形であるが長い小判形を呈
し、長軸方向はN120°Wで、
底南西にベニガラの散布が
みられた。出土遺物はない。

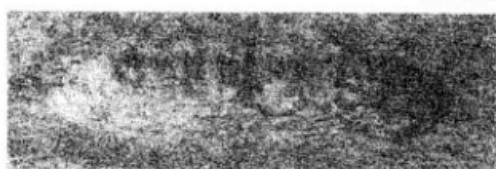


第16図 5号土塙墓 (南→)

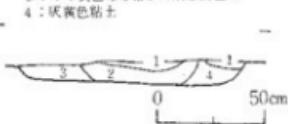
調査区中央部東側にあり、
塙口部は102cm×54cmで、隅丸
長方形を呈し、長軸方向はN109°
Wで、底は平らで、中央西側寄
りにベニガラの散布があり、特
にベニガラが鐵錐状のものに付着
したような形跡が確認されたが、
詳細は不明である。埋土中の遺物
は粗製土器片が数点出土している。



第17図 6号土塙墓出土土器



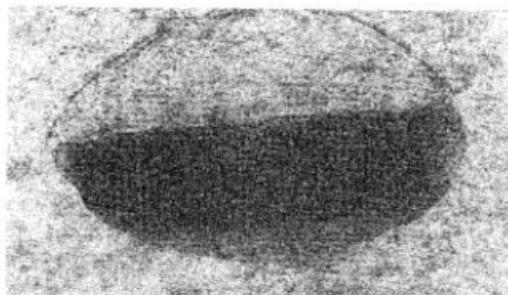
第19図 6号土塙墓 (北→)



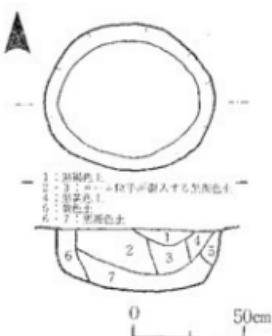
第18図 6号土塙墓

7号土塙墓

6号土塙墓の南側2mのところにあり、塙口部は75cm×70cmのほぼ円形を呈し、塙底は鍋底状で、埋土は他の土塙墓に比べ黒色が強い。出土遺物はない。(長軸方向N93°E)



第20図 7号土塙墓 (南→)

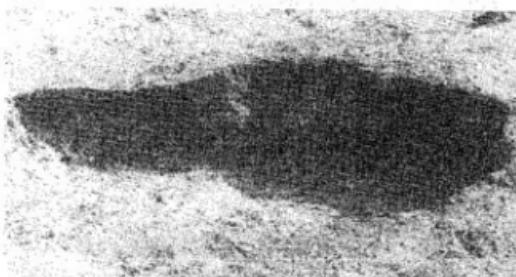


0 50cm

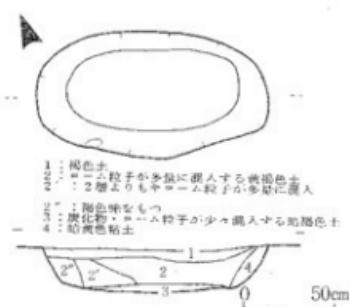
第21図 7号土塙墓

8号土塙墓

台地南端、中央部にあり、塙口部は127cm×70cmで、梢円形を呈し、長軸方向はN67°Wで、塙底はゆるやかな鍋底状である。出土遺物はない。



第22図 8号土塙墓 (南→)



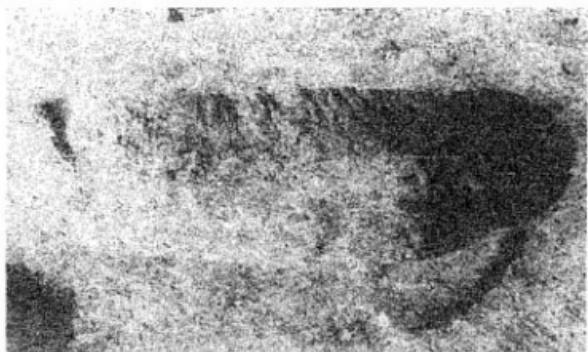
第23図 8号土塙墓

9号土塙墓

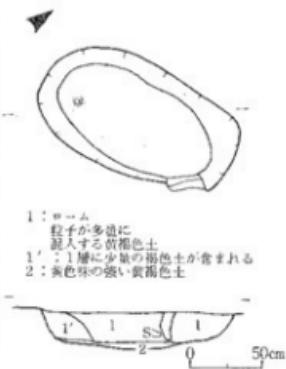
台地南端。中央部8号土塙墓の南西にあり、塙口部は140cm×77cmで、梢円形を呈し、長軸方向はN120°Wで、南西塙底近くでベニガラの散布がみられた。塙底はほぼ鍋底状で、出土遺物は粗製土器片2点である。

10号土塙墓

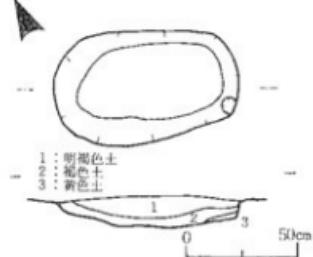
8号土塙墓の北西にあり、塙口部は83cm×50cmで、小判形を呈し、長軸方向はN70°Wで、出土遺物はない。



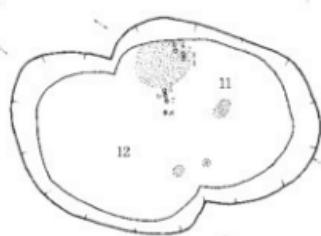
第24図 9号土塙墓 (北→)



第25図 9号土塙墓



第26図 10号土塙墓

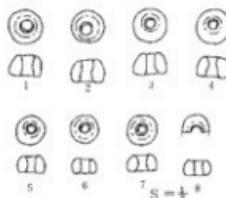


10号土塙墓の南西

にあり、重複してい

る上塙墓で11号の方

が12号より新しい。



11号の埴口部は 110 第27図 11号土塙墓出土小玉

cm×約82cmで、小判形を呈すると思われ、長軸方

向はN69°Wで、西側、中央部南側の4ヶ所にベニ

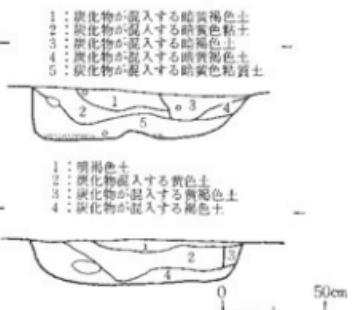
ガラの散布がみられ、西側のベニガラ周辺から8

個の小玉（うち1個は半分のみ）が検出された。玉は緑色灰岩製である。12号の埴口部は 115cm

×約75cmで、楕円形を呈すると思われ、長軸方向はN48°Wで、底は平らである。出土遺物はない。

13号土塙墓

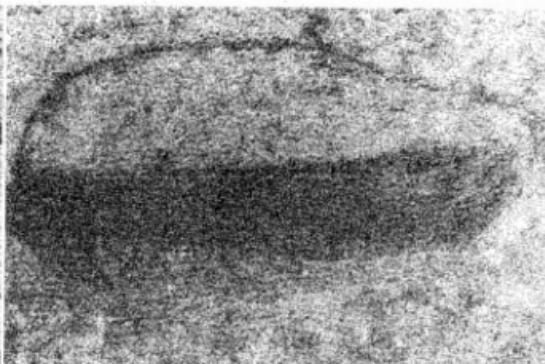
調査区南端にあり、埴口部は135cm×85cmで椭円形を呈し、長軸方向はN85°Wで、中央北寄り埴底近くでベニガラがみられた。出土遺物は粗製土器片1点である。



第28図 11,12号土塙墓



第29図 10号・11号・12号土塙墓(手前10号)(北→)



第30図 13号土塙墓(南→)

近くでベニガラがみられた。出土遺物は粗製土器片1点である。

14号土塙墓

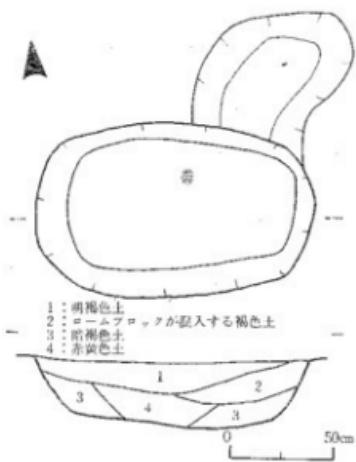
13号土塙墓の東側にあり、塙口部は95cm×67cmで、隅丸方形を呈し、長軸方向はN96°Wで、中央よりやや西側にベニガラが散布し、小玉4個、勾玉1個が検出された。小玉、勾玉は緑色凝灰岩製で小玉は軟質のものである。

15号土塙墓

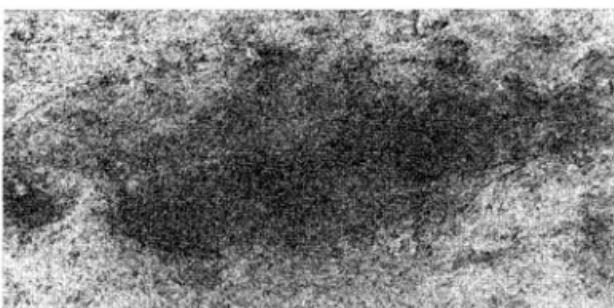
調査区最南端にあり、塙口部は220cm×105cmで、西側にやや細くなる橢円形を呈し、長軸方向はN117°Wで、塙底はほぼ平らであるが、疊が多く凹凸の感じである。これは疊層の部分に土塙墓をつくったためである。北側にこの土塙墓を切って径約50mのピットが確認された。中に人頭大の石2個と粗製の土器片が1点検出された。

16号土塙墓

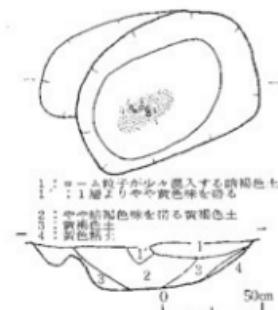
調査区南、中央部にあり、西側の土塙と重複し、これによって切られ、長軸方向塙口部ははっきりしないが、約140cm×70cmで、変形の小判形を呈し、長軸方向はN110°Wで、埋土中から粗製土器片1点が出土した。西側の土塙は土塙墓としては判然としないものである。



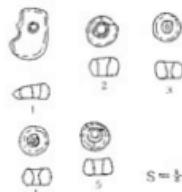
第31図 13号土塙墓



第32図 14号土塙墓（南→）



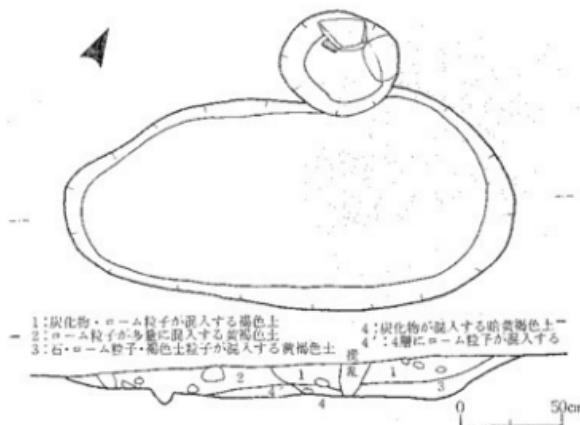
第33図 14号土塙墓



第34図
14号土塙墓出土
勾玉・小玉



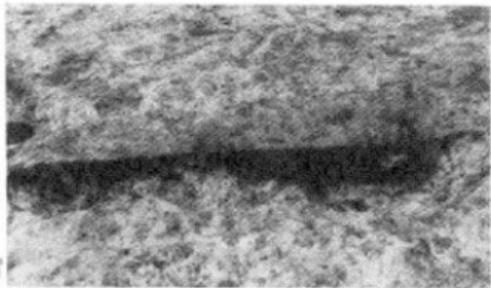
第35図 15号土塙墓（南→）



第36図 15号土塙墓



第37の1図 16号土塙墓・3号土塙



第37の2図 16号土塙墓（南→）

17号・18号土塙墓

5号土塙墓の南側にあり、ほぼ正方形であるが、これは重複しているため、17号が18号より新しい。竪底は南に約10cmのゆるやかな段があり、

17号の南壁と考えられるものである。17号の竪口部は150cm×約115cmで、変形的だが梢円形を呈する。長軸方向はN89°Wである。18号の竪口部は155cm×約75cmで、隅丸長方形を呈するものであろう。長軸方向はN89°Wである。埋土中から晚期および後期の土器片が出土している。

(第56図1～2)



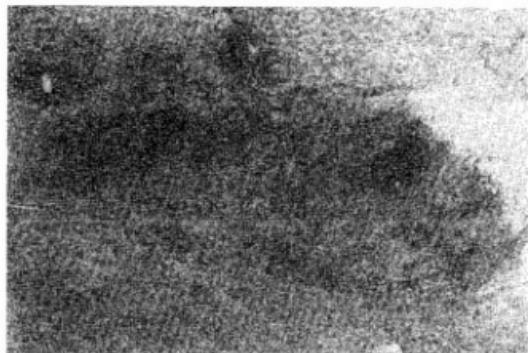
第38図 17+18号・土塙墓（北→）



第39図 17+18号土塙墓

19号土塙墓

調査区南西壁際にあり、18号土塙墓に接し、西側は西に広がる土塙により切られている。塙口部は130cm×約70cmで小判形を呈し、長軸方向はN67°Wで、塙底はゆるやかな鍋底状である。出土遺物はない。



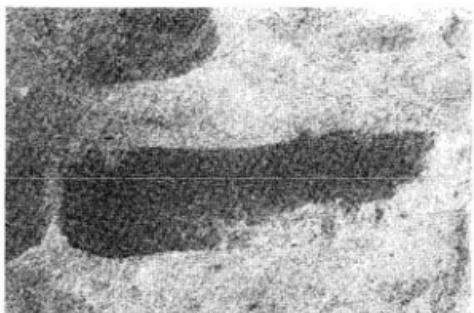
第40図 19号土塙墓（南→）



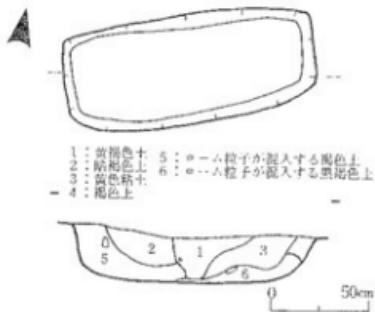
第41図 19号土塙墓

20号土塙墓

調査区南西端、19号の南側にあり、塙口部127cm×55cmで、最もしっかりした隅丸長方形を呈し、長軸方向はN110°Wである。塙底はほぼ平坦で、出土遺物はない。



第42図 20号土塙墓（南→）



第43図 20号土塙墓

土 塙

A地区の土塙は4基確認された。

1号土塙

6B2グリッド内にあり、80cm×約40cmの変形の土塙で、塙口土器（塙口部）、土器片等が数点出土している。

2号土塙

調査区、沢の北側8C3グリッド内にあり、70cm×60cmの椭円形で、土器片が数点出土している。

3号土塙

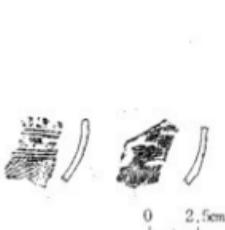
16号土塙墓と重複しているもの

4号土塙

19号土塙墓と重複しているものである。



第44の1図 1号土塙



第44の2図
1号土塙出土土器



第45図 2号土塙

出土遺物

A地区の出土遺物のほとんどは、集石遺構の範囲にみられる。数点の縄文時代後期の上器片を除いては、縄文時代晩期の遺物で、完形で出土した上器はほとんどない。特に上器については、II章で記述したように、層序の積極的分け方が出来なかつたため、層位による土器の分類は無理であった。石器では凹石の出土量が多いのが注目される。整理作業は現在も続行中で、短期間による分類や整理作業で十分なものとは言えない。

土 器

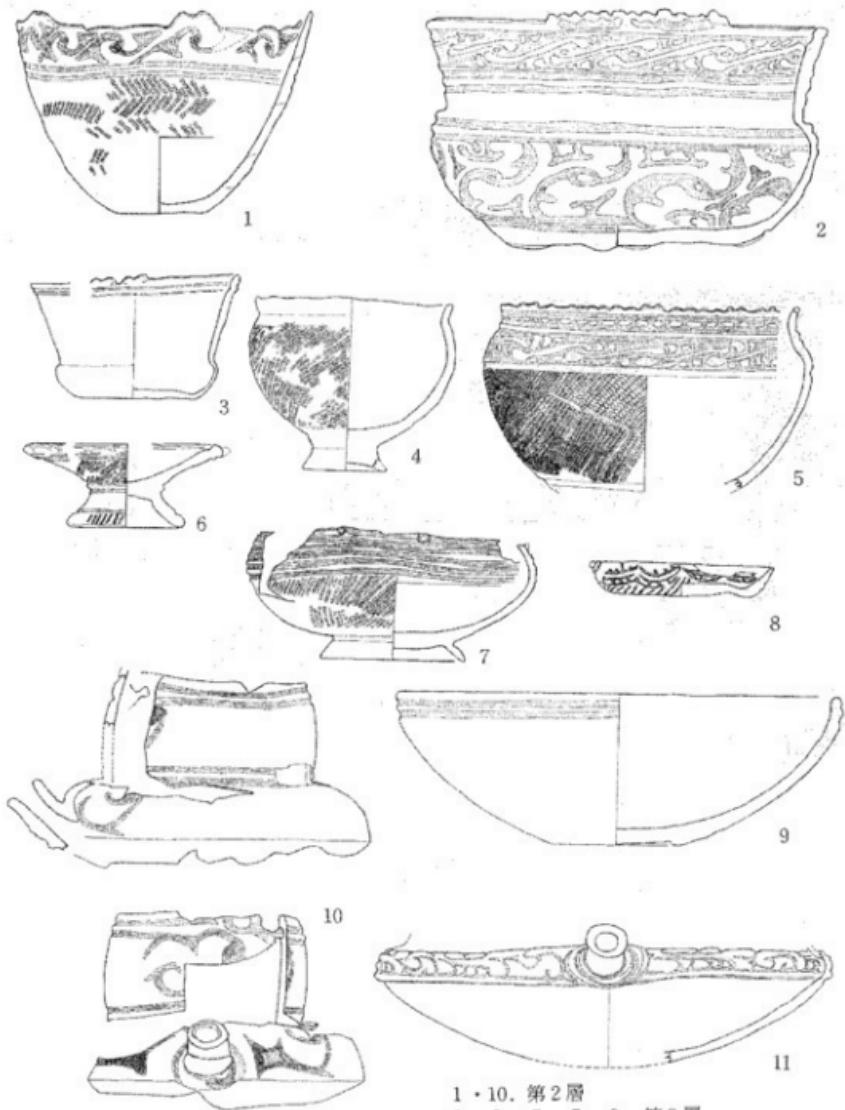
前述したように、層位的な問題はあるが、(遺跡の性格によるものであろう)一応、2層、3層を中心に出土した七器を類別した。

I類土器 (第46図1、10 第47図1~23)

器形は、深鉢形土器、台付鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器、注口土器がある。口縁部、頸部を中心に入組文、三叉文が施されているもので第47図1、3、5、6、10、11、15は粗製鉢形、台付鉢形土器である。第47図19の浅鉢形、21の壺形土器は内外面にベニガラが塗布されている。第46図1は6個の突起があり、口頸部に三叉状入組文が施され、二本の沈線と羽状縄文のある鉢形土器で、10は精製で底部が欠損している注口土器である。

II類土器 (第46図2、5、8、11 第47図24~37 第48図1~21)

器形は、台付鉢形土器、浅鉢形土器、注口土器などがある。口頸部を中心に羊歯状文が主体的に施文され、の字状文、K字状文のものもある。台付鉢形土器の口縁、胴部の内外面には煤状炭化



1・10. 第2層
 2・3・5～7・9. 第3層
 4. 第5層
 8. 第6層
 11. 集石内

0 10cm

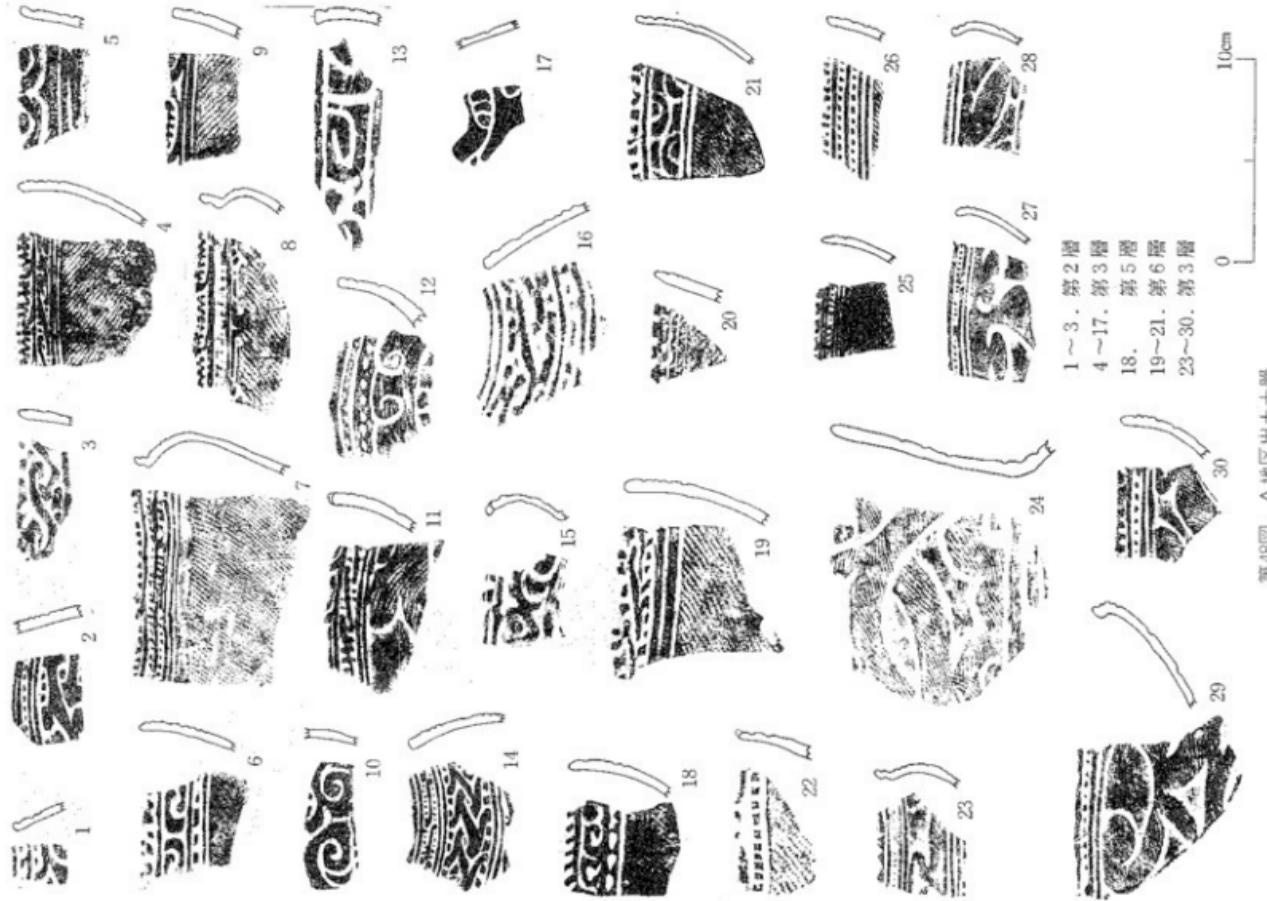
第46図 A地区出土土器



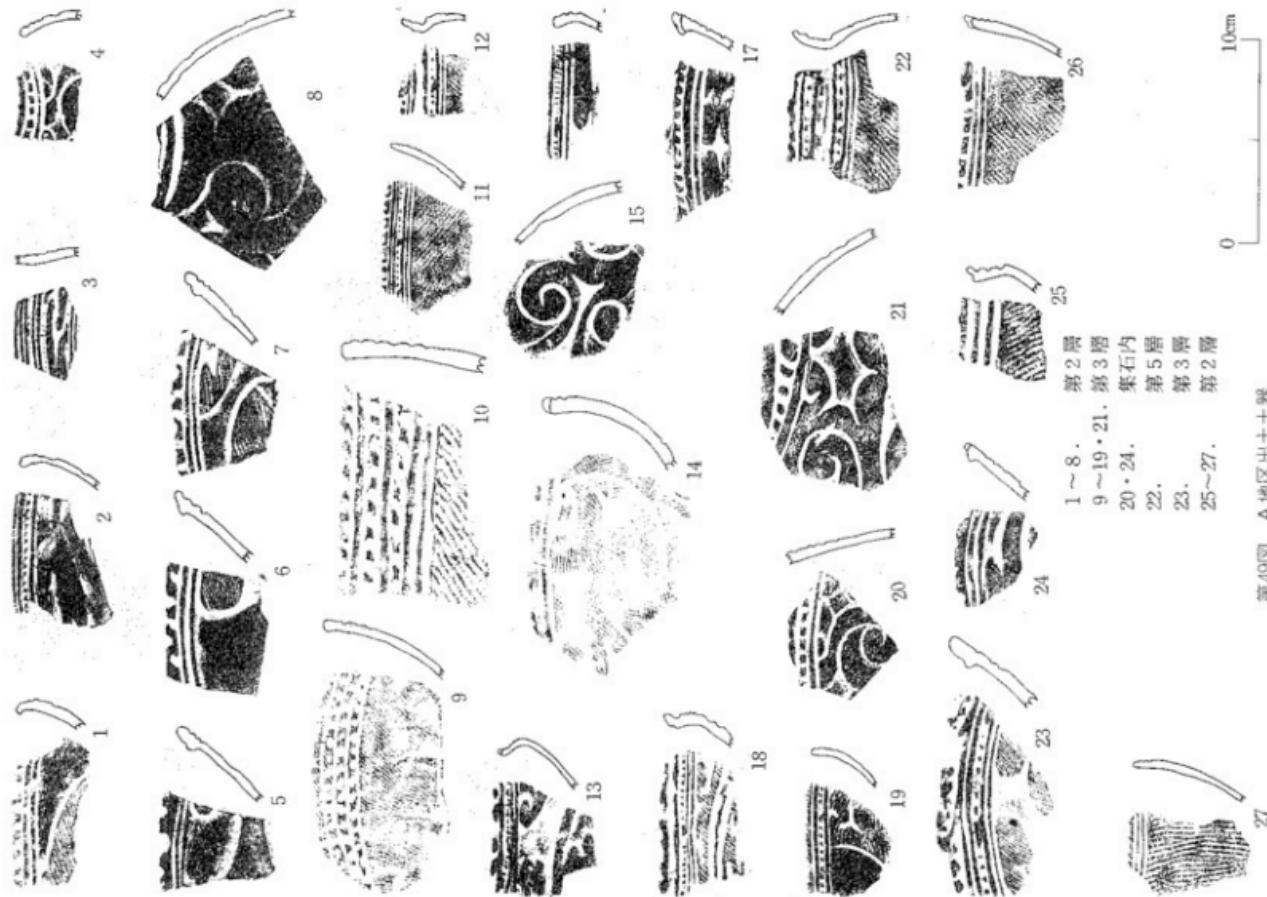
1~9. 第2層
10~21. 第3層
22. 第5層
23. 第6層
24~37. 第2層

0 10cm

第47図 A地区出土土器



第46图 A地区出土土器



第49圖 A 地區出土土器

0 10cm

物が付着しているものが多い。第46図2の鉢形土器は底部と胴部の一部を欠くがほぼ完形で、口唇部の…ヶ所に波状突起をもち、口縁部に半齒状文、胴部はK字状文を浮彫手法により表現し、底部には四足がつくもので、内外面全体にベニガラが塗布してある。5は小突起の波状口縁をもち、頸部に半齒状文、胴部はLRの繩文が施される台付鉢形土器である。8は小形の壺形土器である。

III類土器（第46図4 第48図22～30 第49図1～40）

器形は、深鉢形土器、台付鉢形上器、浅鉢形上器、注口土器、壺形土器、皿形土器などがある。口縁部に連續突起をもつもの、口頸部は半齒状文の退化した形の刻目を施すもの、胴部にかけ雲形文、X字状文、大脇骨文などが磨消繩文の手法により施文される。第49図9、10のように波状口縁で四～五本の平行沈線間を二～三段の連續刺突文のある台付鉢形土器などがある。

IV類土器（第46図3、6、7、9 第49図25～27 第50図1～16）

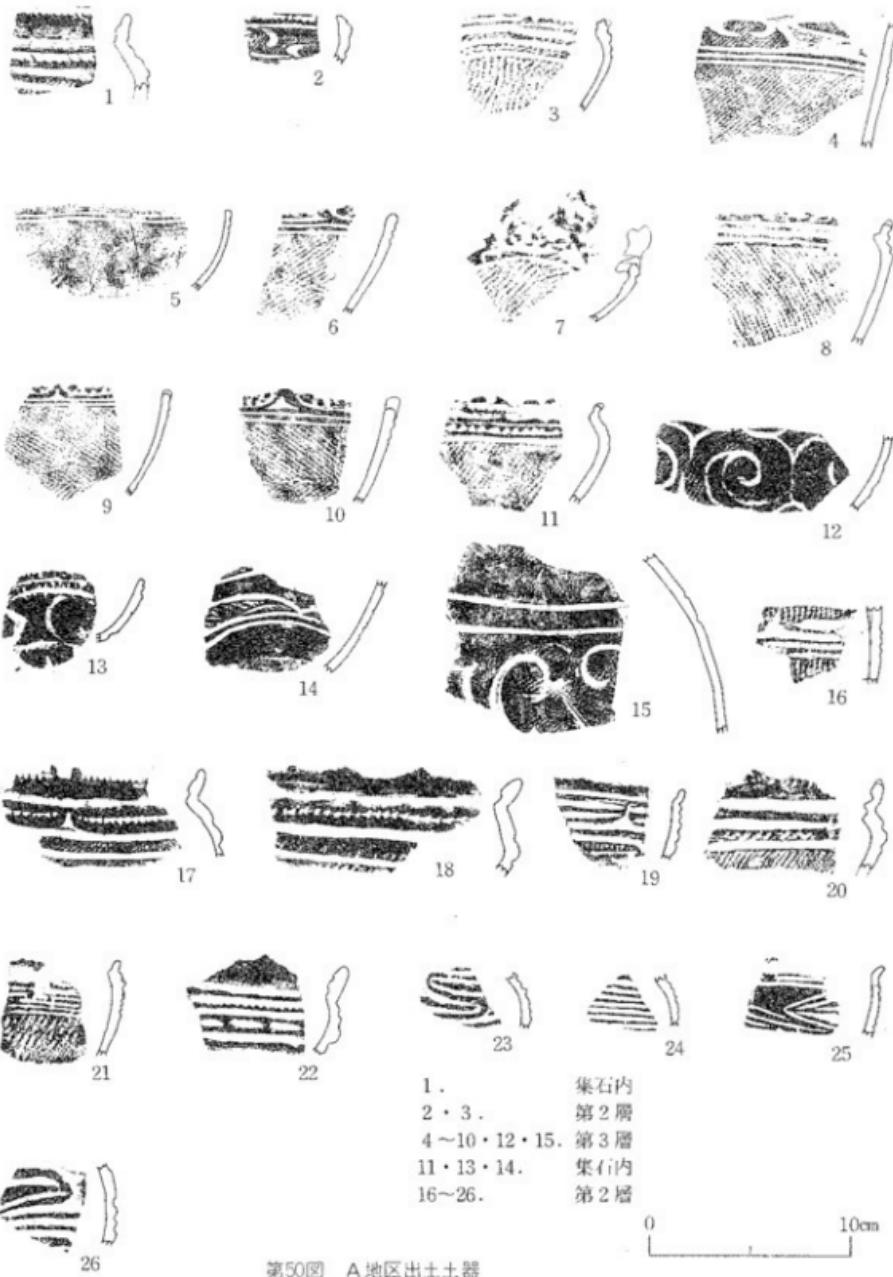
器形は、深鉢形土器、台付鉢形土器、浅鉢形上器などがある。口縁部に二個一対の小突起をもつもの、口頸部は二～三条の平行沈線がめぐるものが多い。胴部は繩文の施文が主で、雲形文、X字状文もみられる。第46図3は小形の鉢形土器で、口唇部に二個一対の小突起をもち、口縁部に二条の平行沈線がめぐり、全面が磨かれ、内外面にベニガラが塗布されている。6は高杯で、全体の音程度の破片を岡上復元したもので、口唇部に突起がめぐり、口縁部内側に一条、外側に二条、台付根、台部に平行沈線があり、胴部、台部にLRの繩文が施されている。7は六～七条の平行沈線が口縁、胴部にめぐり、沈線間に二個一対の瘤がある台付鉢形土器である。9、第50図5は、口縁部に二条の平行沈線がめぐる浅鉢形土器で、いずれも内外面全体にベニガラが塗布されている。

V類土器（第50図17～26、第51図1～34、第52図1～5）

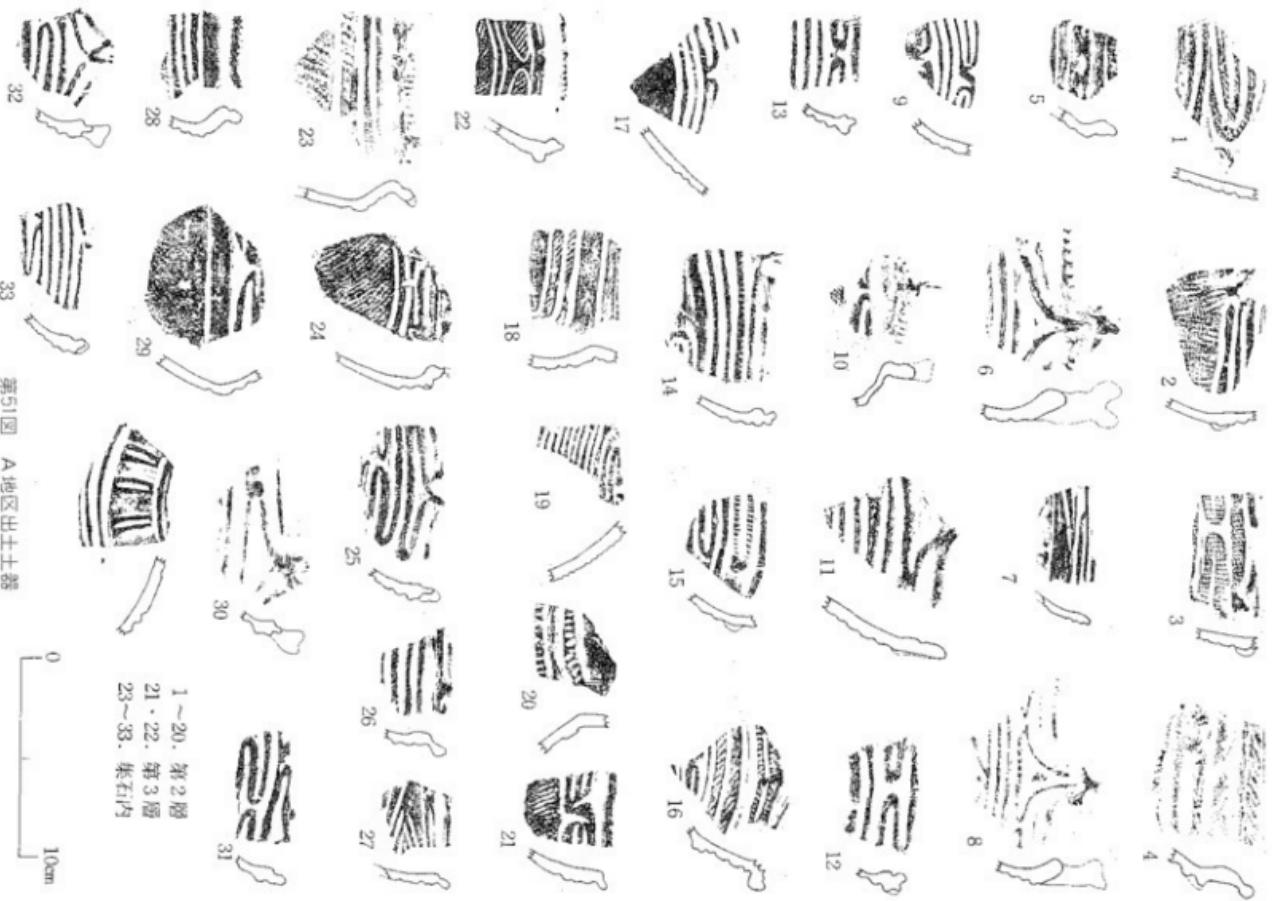
器形は、台付鉢形土器、浅鉢形土器、壺形上器がある。平行な沈線を基本とし、工字文を施文するもので、口唇部に刻目を入れたもの、頸部に連續刺突文のあるものなどで、流水文状に工字文が配される。第51図6、8、10のような鉢に比較的大きい突起（形状はいろいろある）をもつもの（煤状炭化物が付着している）、第52図4の肩の張る大型の壺形土器（内部の口頸部、外面にベニガラ塗布）などがある。第50図25、第51図27はいずれも台付鉢形土器で、口縁部内側に一条の沈線があり、口縁に二条の平行沈線をめぐらし、沈線を小瘤状の突起で区切り、下に矢印状の沈線文のあるV類の中では新しいと思われるものや、第51図34の壺形土器の肩部と考えられ、平行沈線間に幾何学的表現をする（V類に属するものとも考えられる）ものなどがあり、この類の土器は比較的多い。

VI類土器（第51図6）

VI類土器として分けたのはこの上器だけで、台付鉢形土器の口縁部で、口縁部に山形突起があり、二条の平行沈線がめぐり、上部沈線に二つの粘土粒（瘤）がつけられ、そこから斜線が施され、下の三条めぐり平行沈線の中の沈線にも二つの粘土粒（瘤）がつき、くり返される表現のものである。



第50図 A地区出土土器



1~20. 第2層
21・22. 第3層
23~33. 集石内

第51図 A地区出土土器

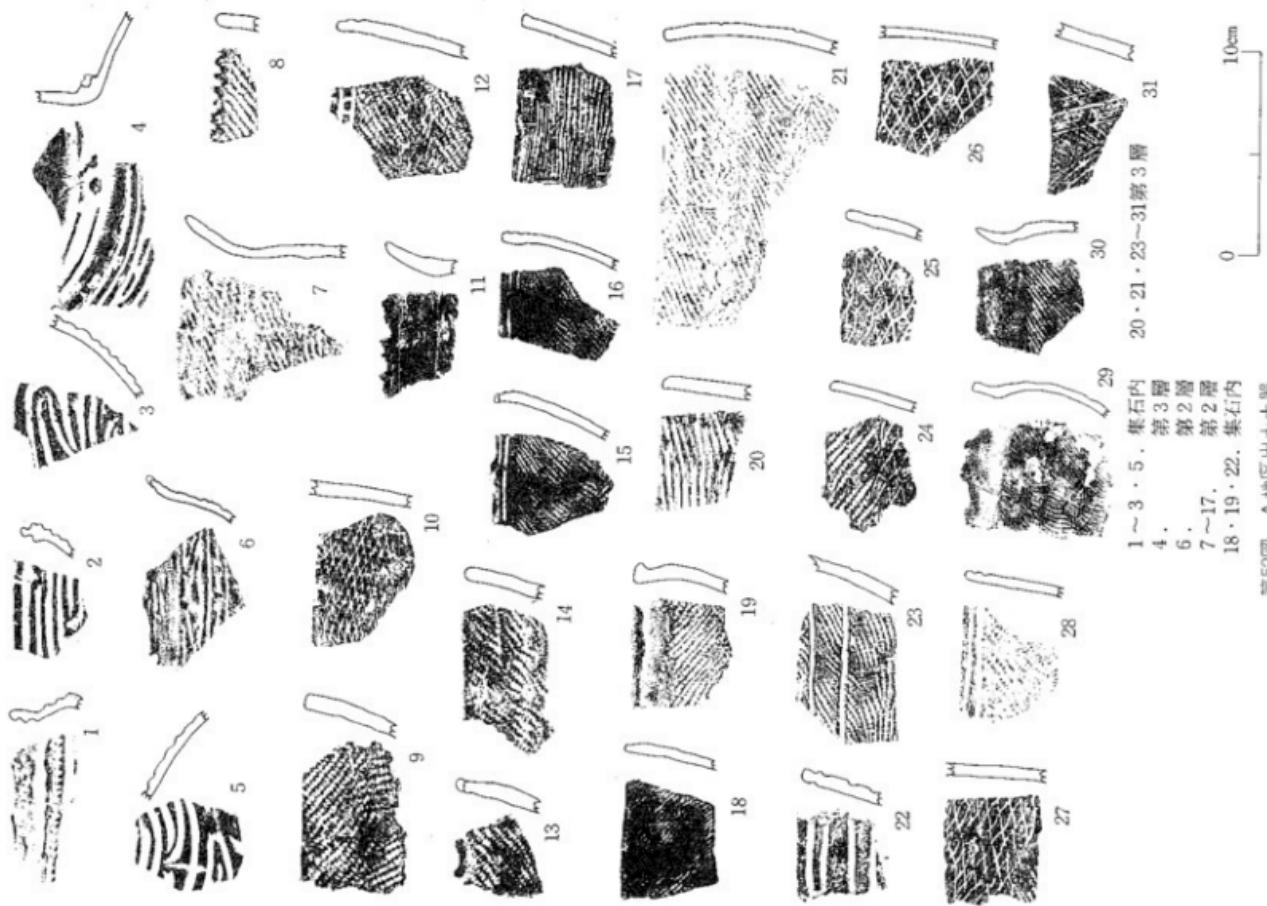
0 10km



32

28

33



1~3·5. 集石内

4. 第3層

6. 第2層

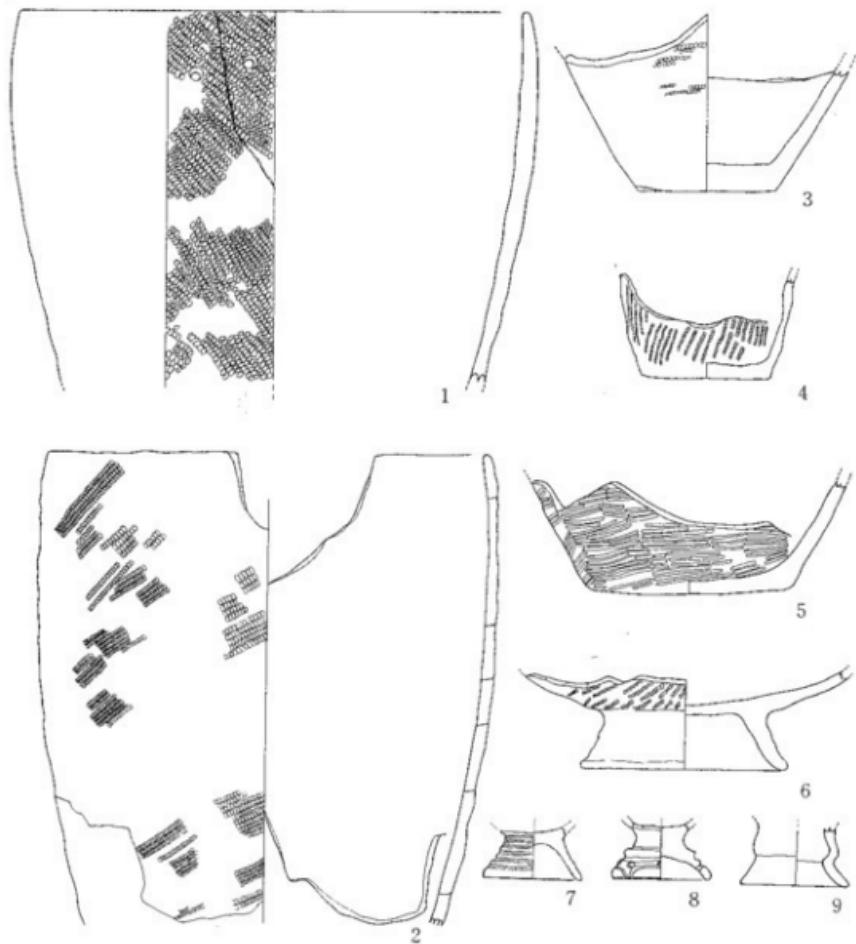
7~17. 第2層

18·19·22. 集石内

20·21·23~31第3層

31

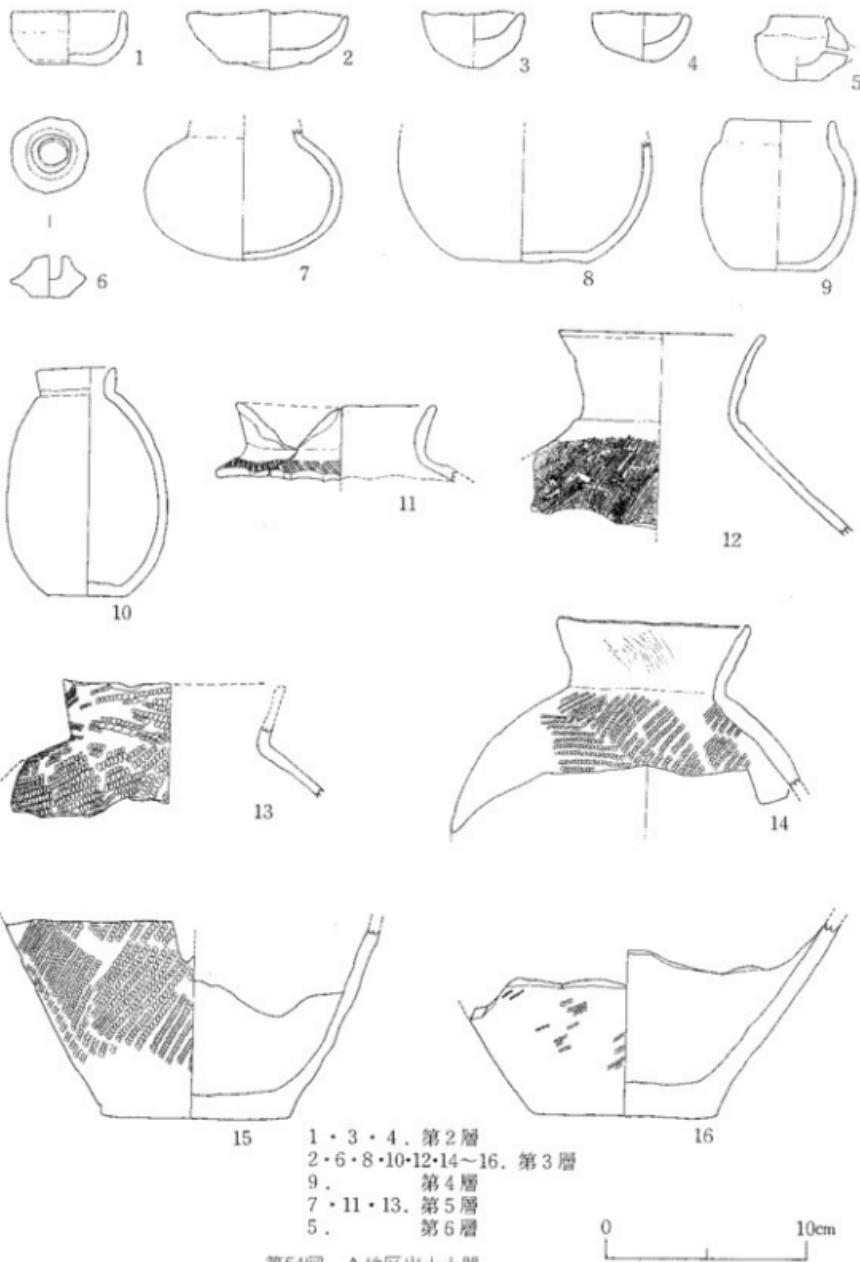
第55圖 A地區出土土器



1・3～5. 第3層
2. 第6層
6. 第5層
7・8. 第2層
9. 集石内

0 10cm

第53図 A地区出土土器



第54図 A地区出土土器

埴類土器 (第52図 7~31)

粗製の土器で、深鉢形土器、台付鉢形土器である。口唇部が波状のもの、突起がつくもの、肥厚するものの、角頭状、丸頭状、尖頭状に区別される。胸部は縦文が施されるものが主体であるが、17、20、第53図5のようにかき目条痕文が横位するもの、10、24、25、26、27の網目捺条文の土器がある。

埴類土器 (第55図 1~4 第56図 1~2)

第55図1は口縁部に竹管状工具で刺突文を有するもの、2はコブ付土器で刺目の部分につけられている。3は深鉢形土器の口縁部で、先の細い棒状工具で刺突した二条の刺目帯を間隔をおいて施し、その間に入組帶状文を表現している。縦文はRLである。



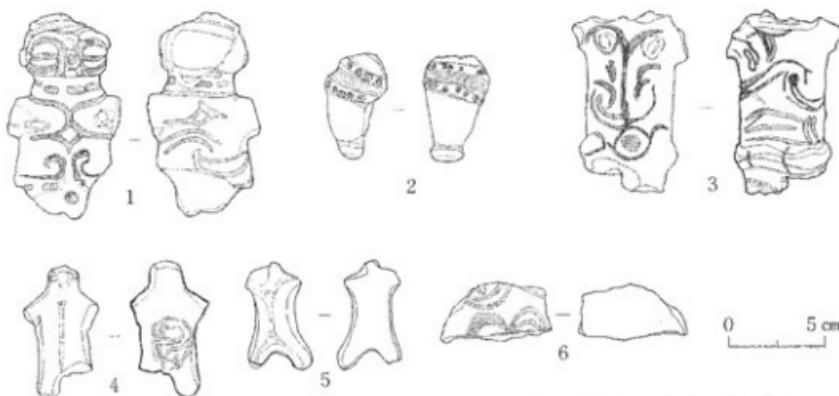
その他の土器 (第54図 1~16)

1~6は小形の土器類で2、3、4はつくりの悪い壺状土器である。7~14は壺形土器で7~10は器全体が磨かれ光沢のあるもので、11~14は大形壺で胎土は良い。



土 製 品 (第57図 1~6、図版20)

1~6は土偶または破損部である。1は中空の遮光器土偶で後頭部、両腕脚が欠損している。口とへそは刺突で表現され、沈刻部にはベニガラを塗布している。2は脚部で、胴部へつく部分にアスファルトの付着がみられる。3は中空の土偶で頭部、両腕脚が欠損している。乳部、下腹部（へそ）が盛上るもので、沈刻線文のある胸部は長い。4、5は小形の土偶で胎土は砂を多く含む簡素なもので、6は頬部の表現もないものである。6は土偶の胸部と思われるものである。図版20は円板状土製品で土器片を利用したもので径約3cm~5.5cmほどの大きさである。



第57図 A地区出土土製品

石 器

石 鐵 (第58図1~56)

有茎の石鎚が大部分を占め、14、54の黒曜石製のほかは硬質頁岩製である。茎部にアスファルトの付着がみられるものが9点出土している。

石 錐 (第59図1~13)

3タイプの石錐があり、硬質頁岩製である。

石 鏈 (第59図14~28 第60図1~15)

横型のものが大部分で、第59図15、第60図4のチャート製のほかは硬質頁岩製である。つまみ部にアスファルトの付着がみられるものが1点出土している。

ヘラ状石器 (第60図16~20 第61図1~3)

硬質頁岩製のものである。この遺跡出土のものは4タイプに分けられる。簡単に説明すると、両端を切断した比較的大形のものA、一端に調整を加え（スクレイバー状に作る）、中形のものB、二等辺三角形を呈し、小形および中形のものC、やや細身で両端が丸くなり中形のものDである。特に第61図3のDタイプの石器に（図の左側）アスファルトの付着が両面に見られ、左側の剥離面は鋭くツヤがなく、逆に右側はツヤがあり、刃部は刃こぼれが著しいものである。これらヘラ状石器と呼ばれるものは、左右両面が剥離されるもので、鋸としての機能が考えられる。出土数が少ないので詳述はできなかった。

槍先状石器 (第61図4~16)

硬質頁岩製のものである。

削 器 (第61図17)

硬質頁岩製で石器背面に剥離調整がある。

異形石器 (第61図18~20)

いずれも硬質頁岩製である。19は掘りと思われる部分があり刃つぶしを施こし、矢印の部分の磨滅が著しく、敲石または磨石に分類されるものかもしれない。

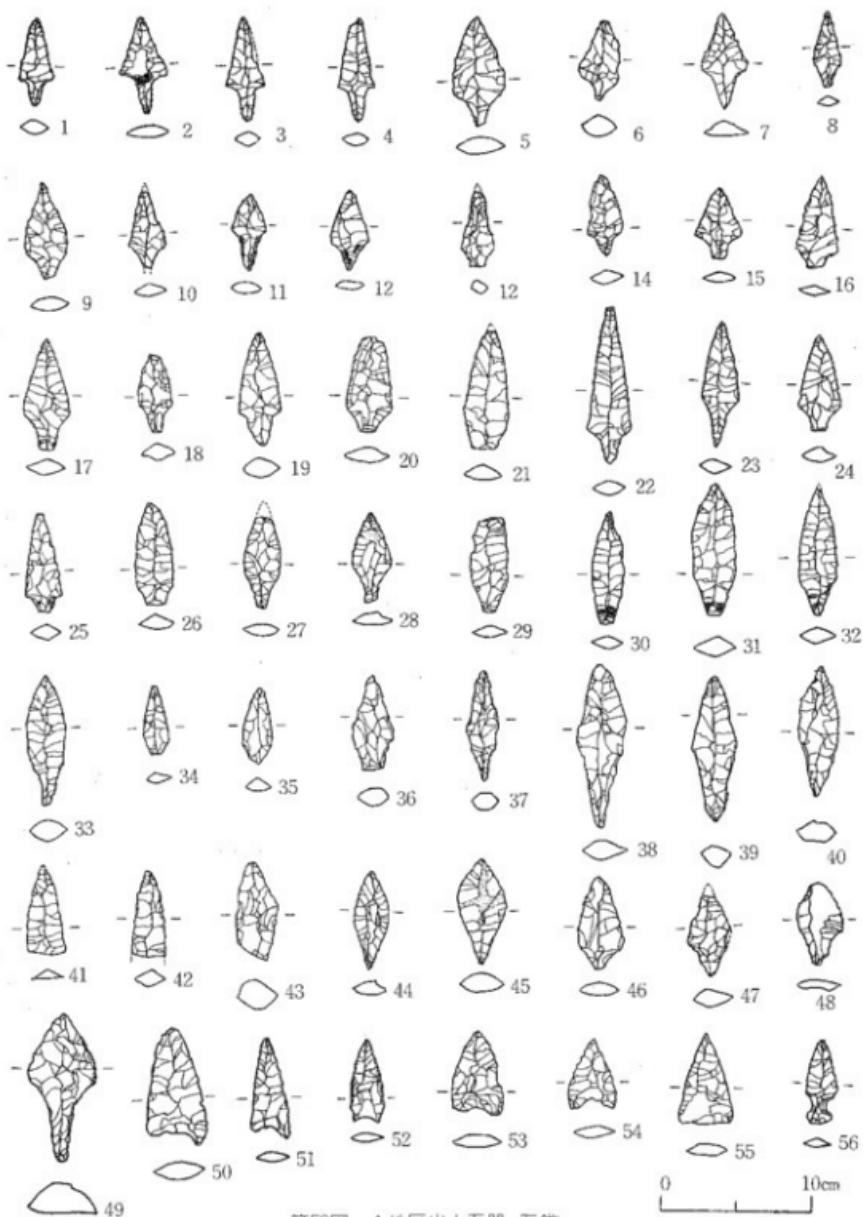
凹 石 (第62図1~20 第63図1~20 第64図1~19 第65図1~15 第66図1~15)

第67図1~19 第68図1~13)

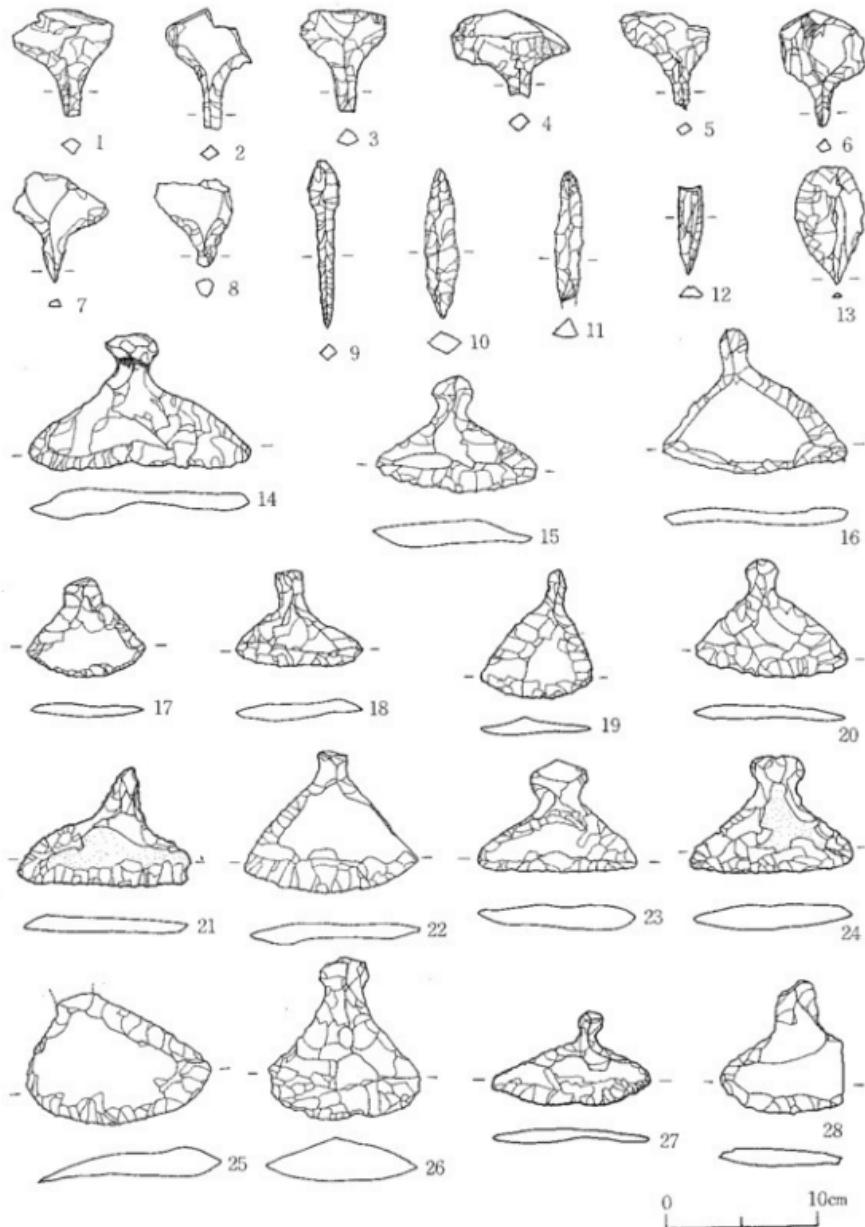
出土石器の中では最も数が多く、大小さまざまである。片面、両面に1~3の凹をもつものなどがあり、石質は安山岩製が多く、凝灰岩、花崗岩、閃緑岩製のものもある。

敲石・磨石 (第68図14~21)

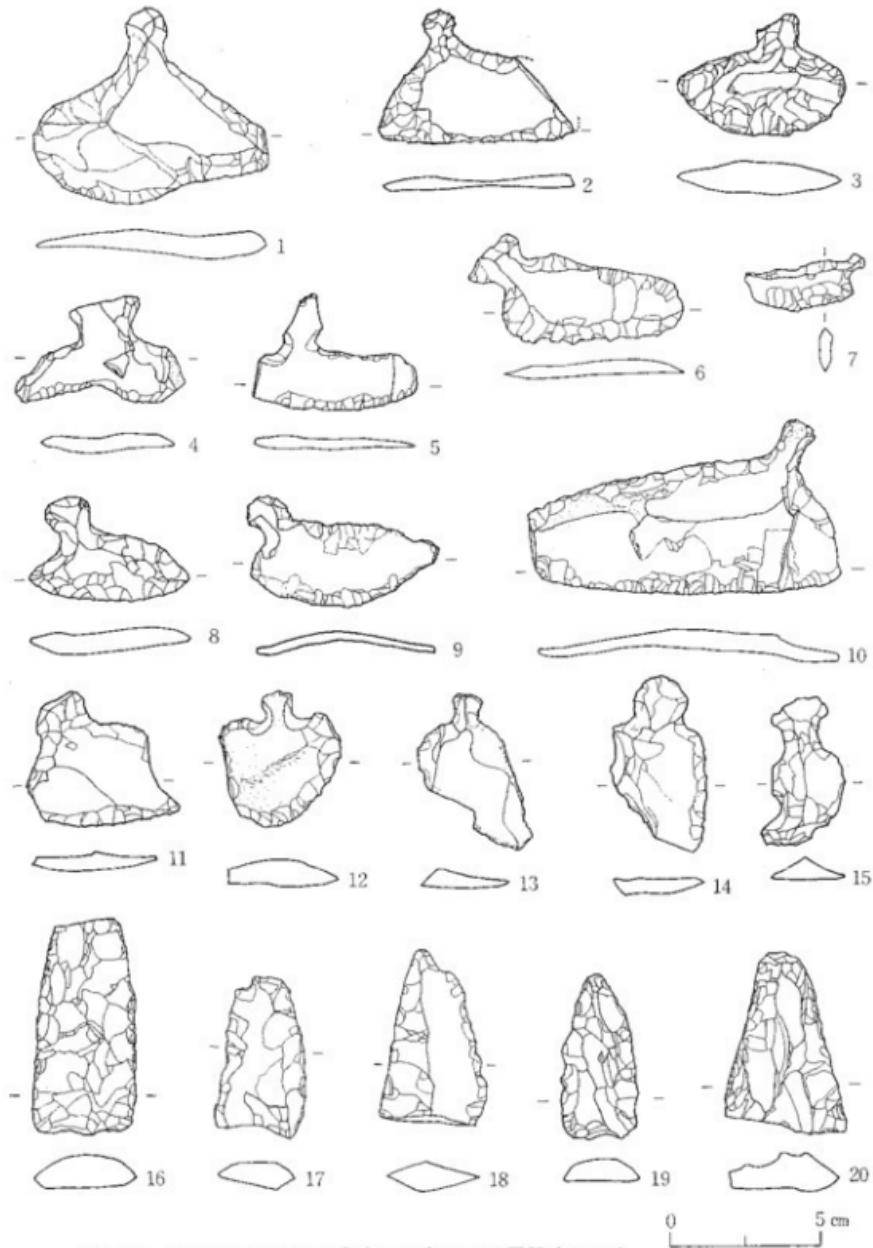
安山岩、凝灰岩、花崗岩、硬質頁岩製のもので部分的に全体的に磨滅している。19の磨石には全面にベニガラの浮出がみられ、両面中央部の擦痕の部分ではなく、ベニガラが梢円形になり良く残っている。



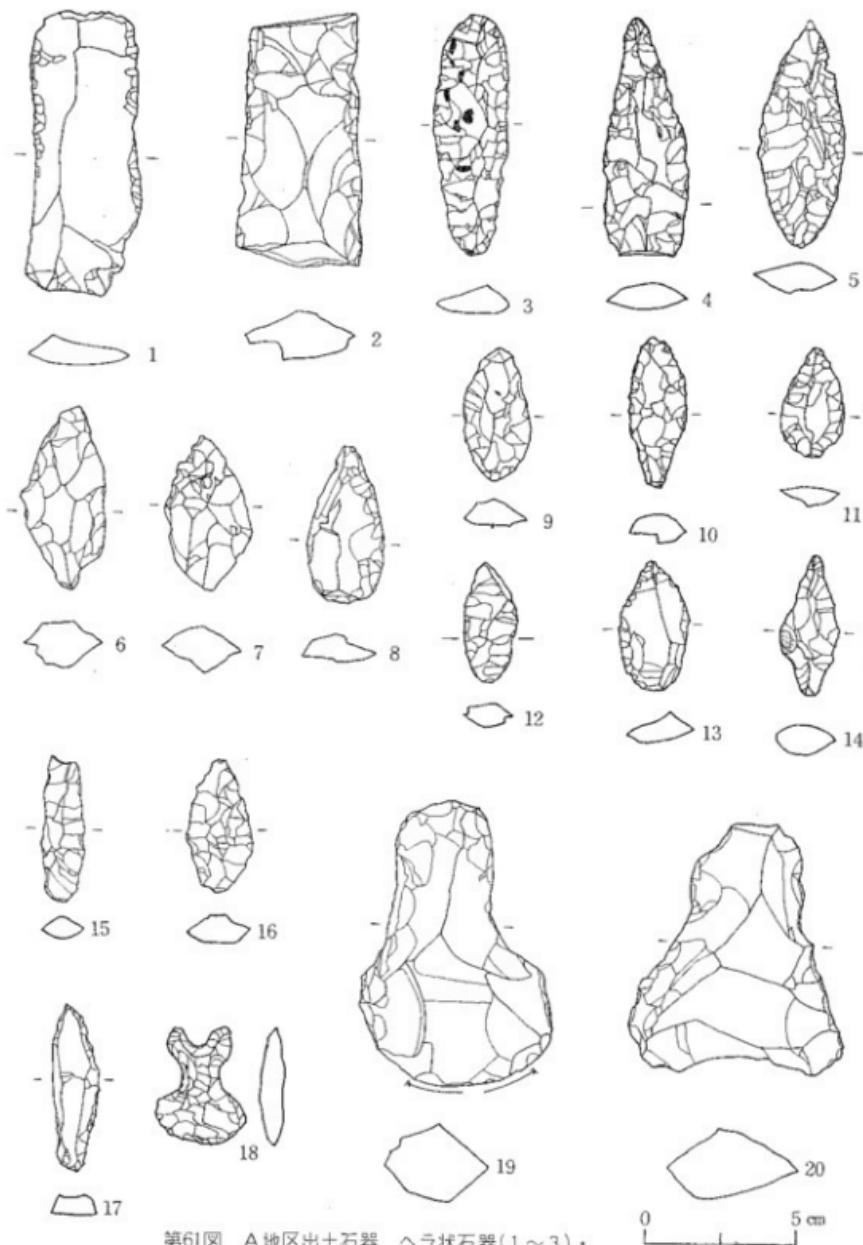
第58図 A地区出土石器 石鏸



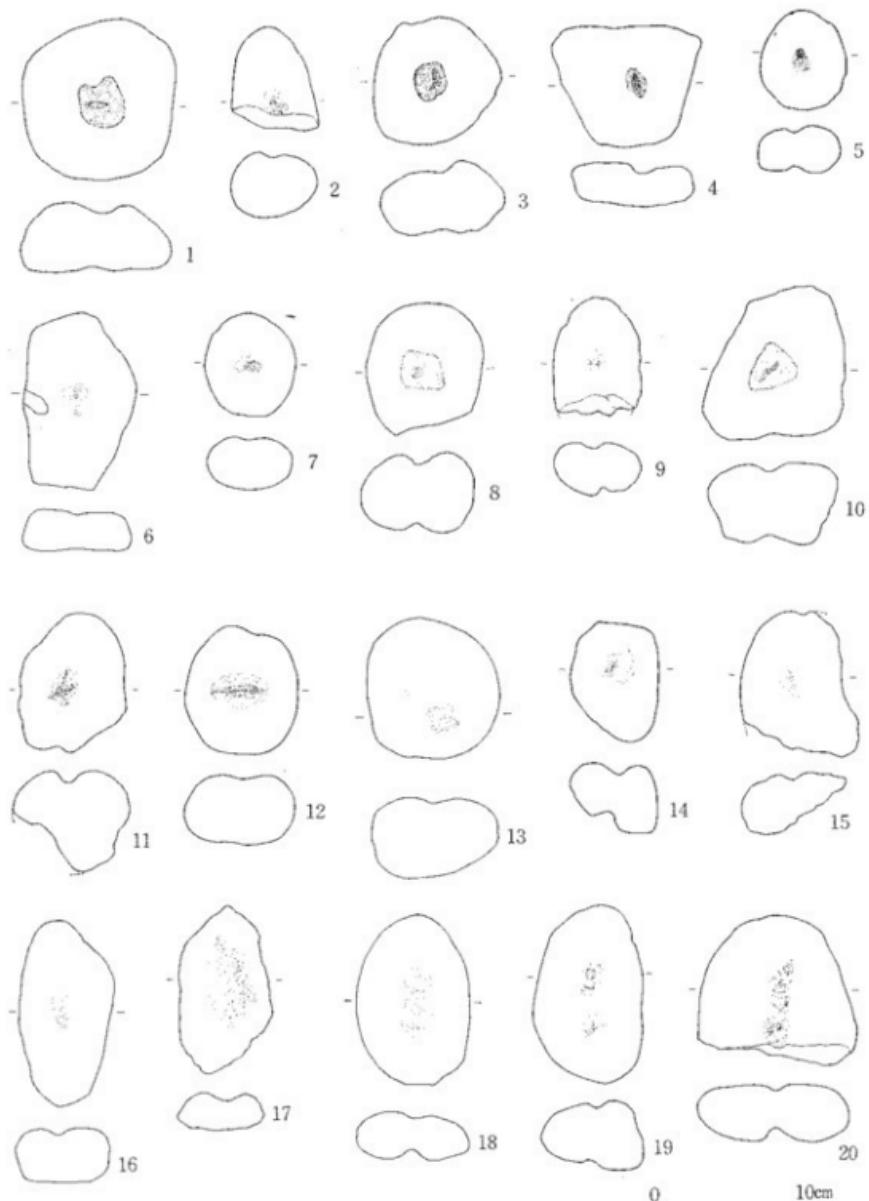
第59図 A地区出土石器 石錐(1~13)・石匙(14~28)



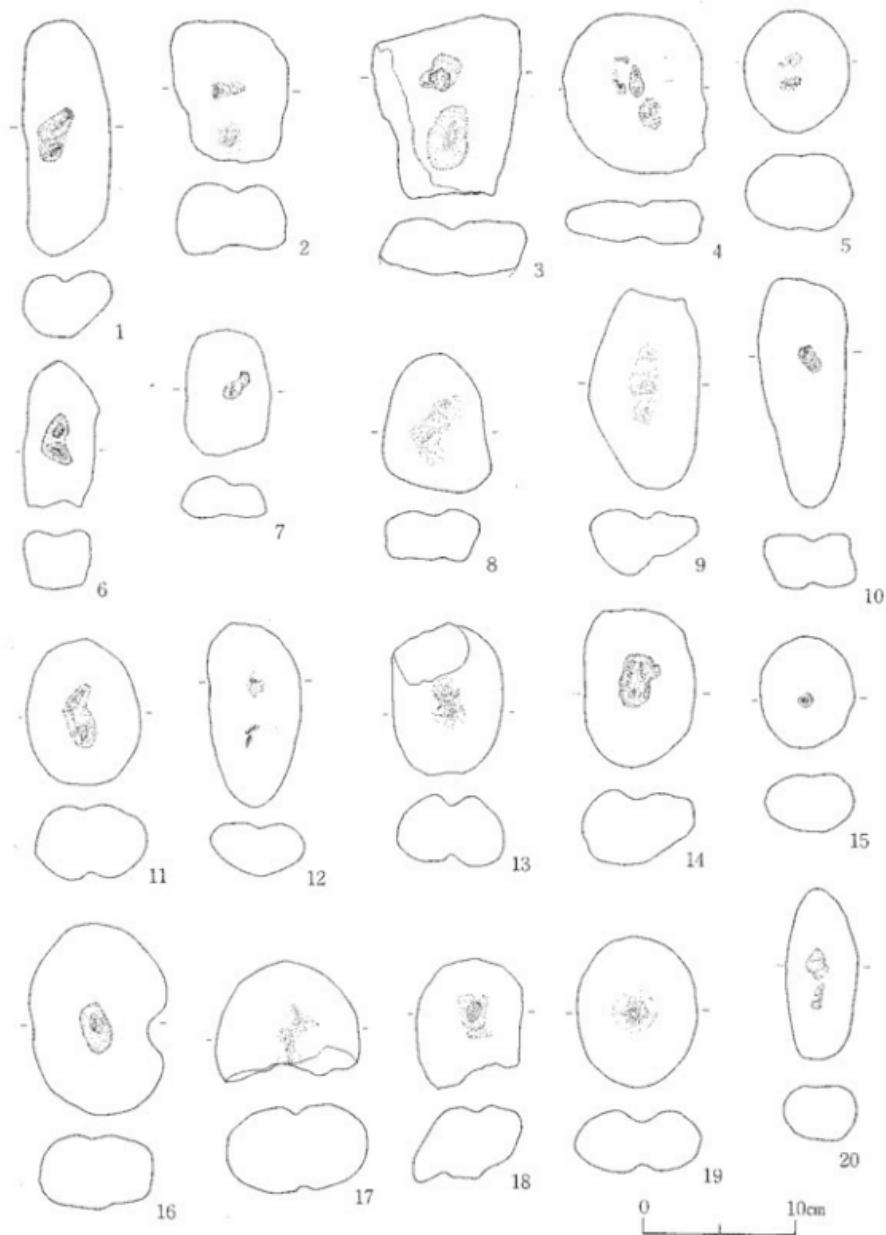
第60図 A地区出土石器 石匙(1~15)・ヘラ状石器(16~20)



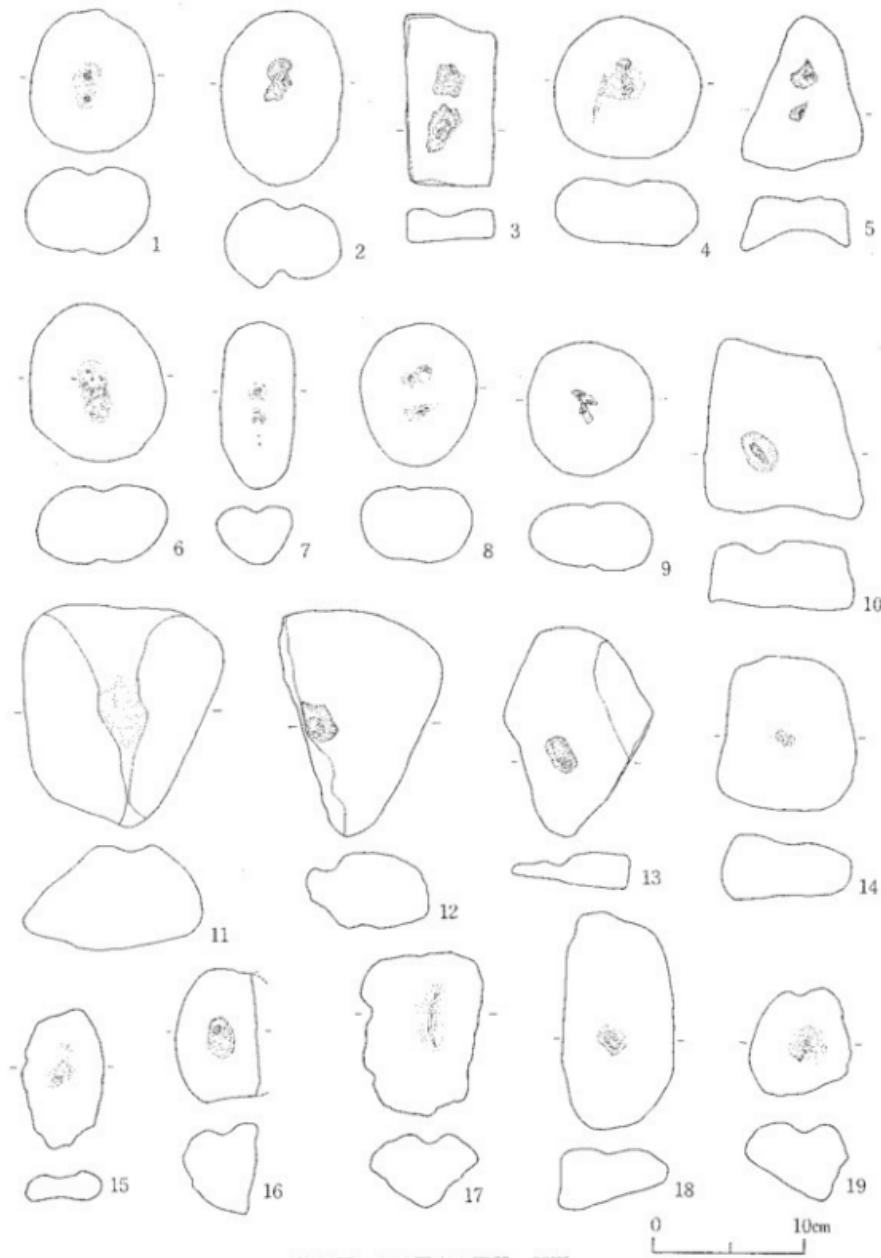
第61図 A地区出土石器 ヘラ状石器(1~3)・
槍先状石器(4~1)・ 削器(17)・異形石器 (18~20)



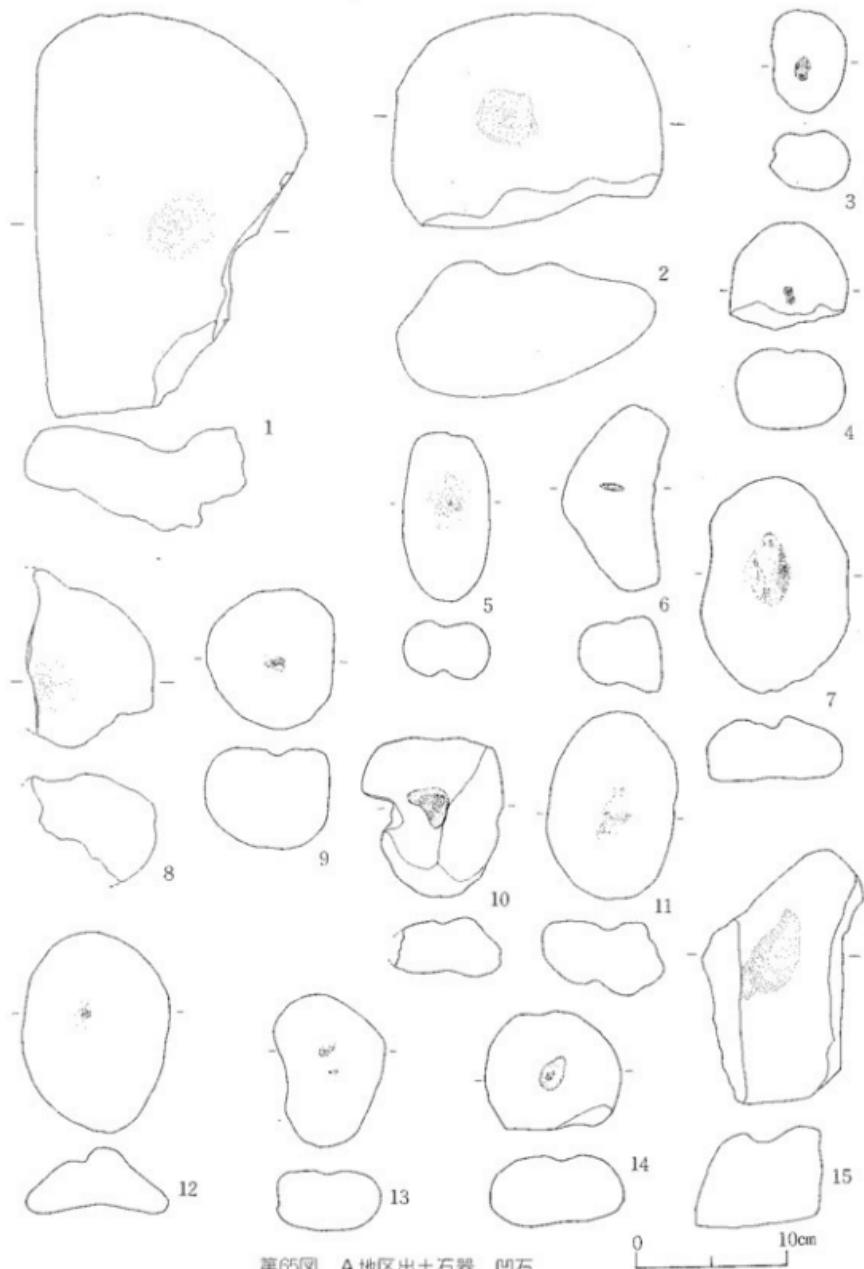
第62図 A地区出土石器 凹石



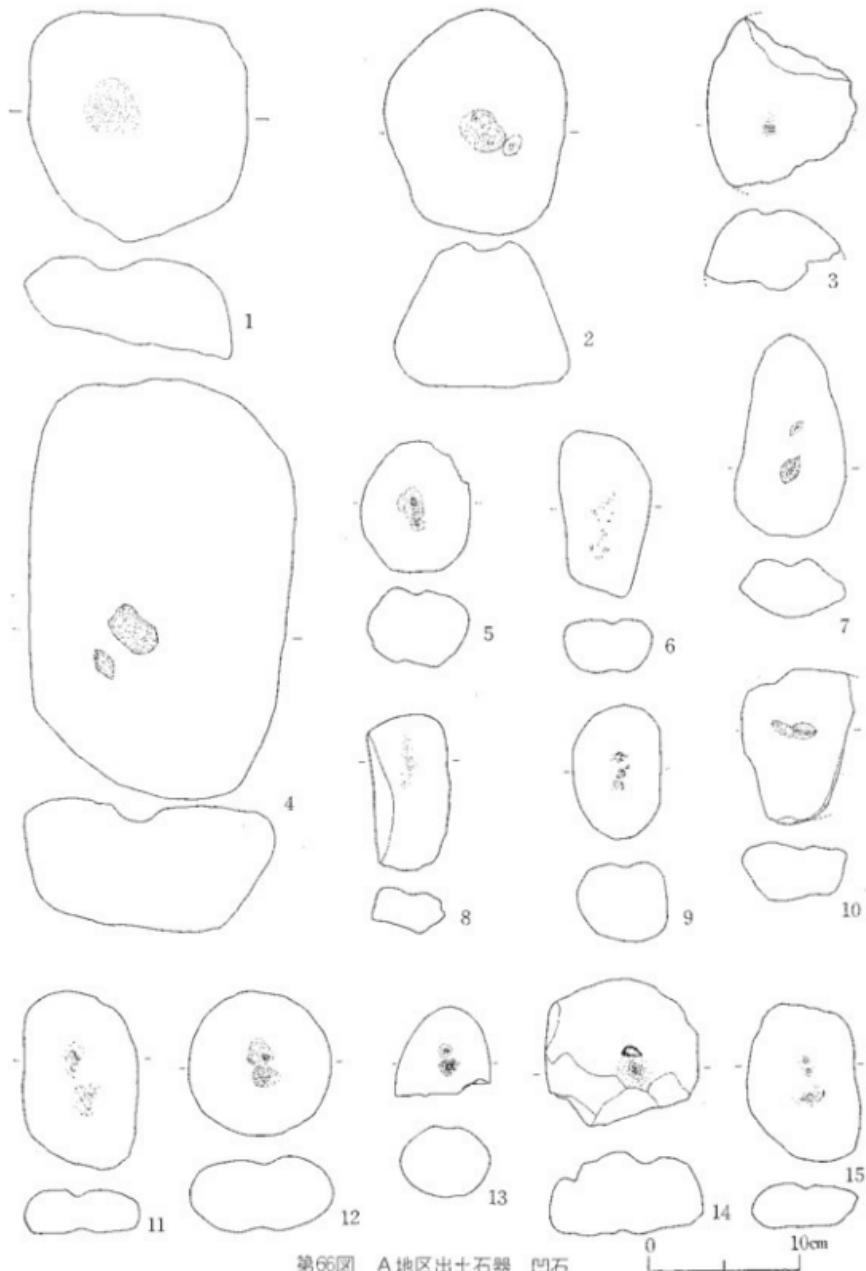
第63図 A地区出土石器 凹石



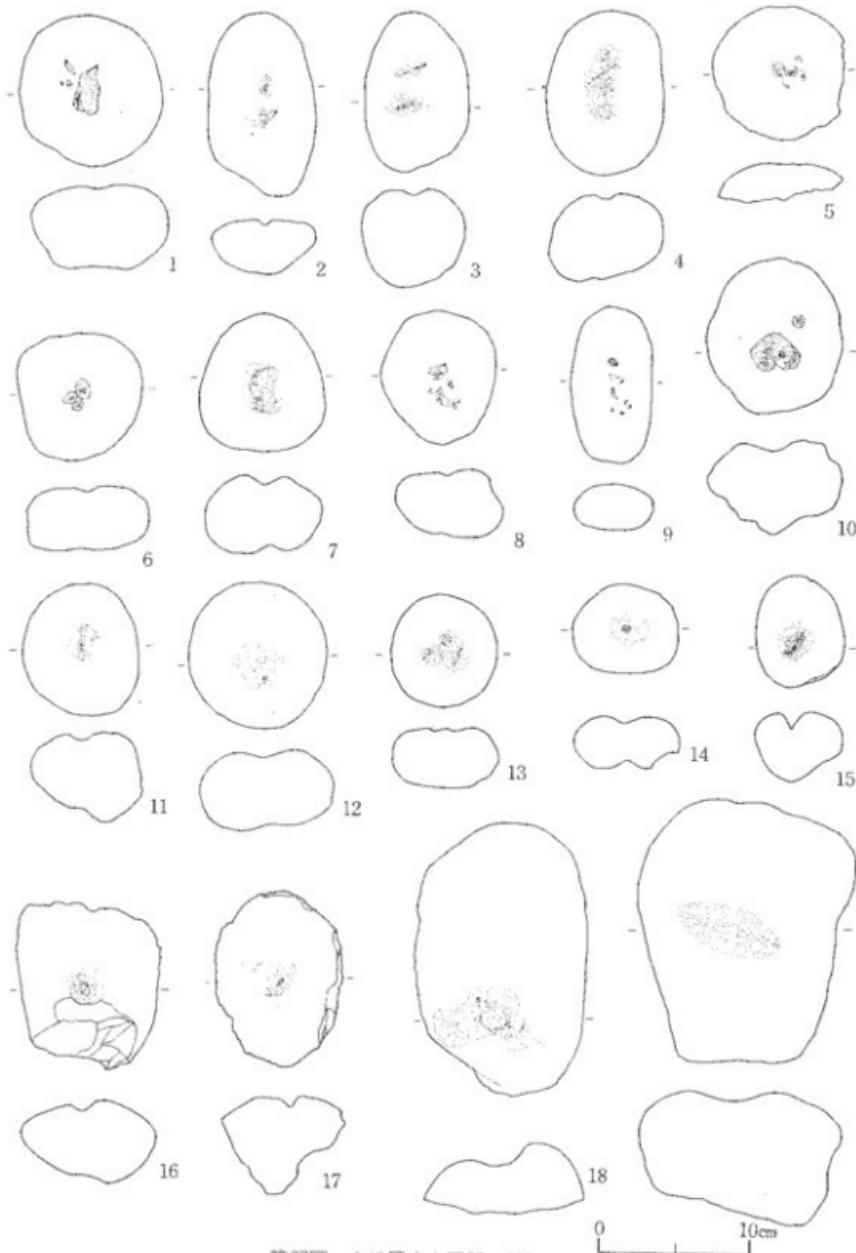
第64図 A地区出土石器 凹石



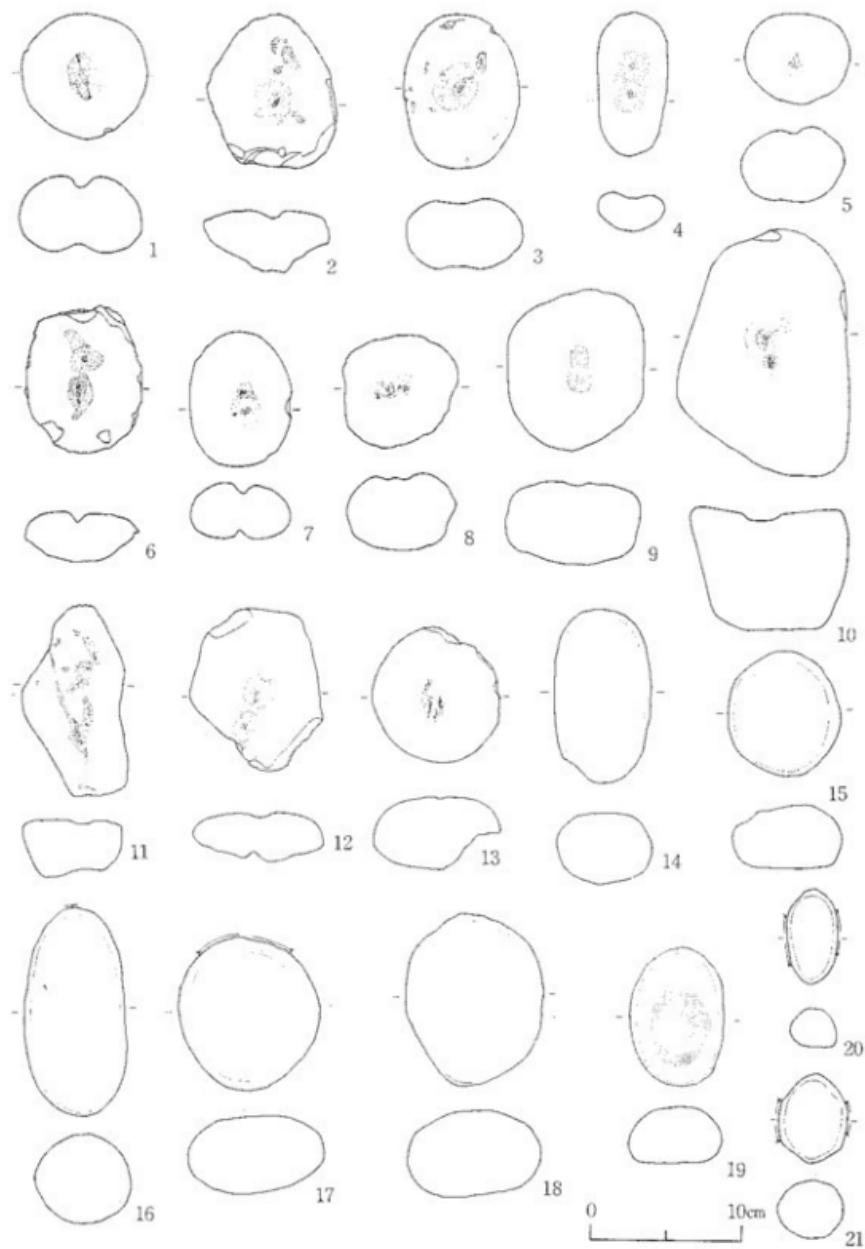
第65図 A地区出土石器 凹石



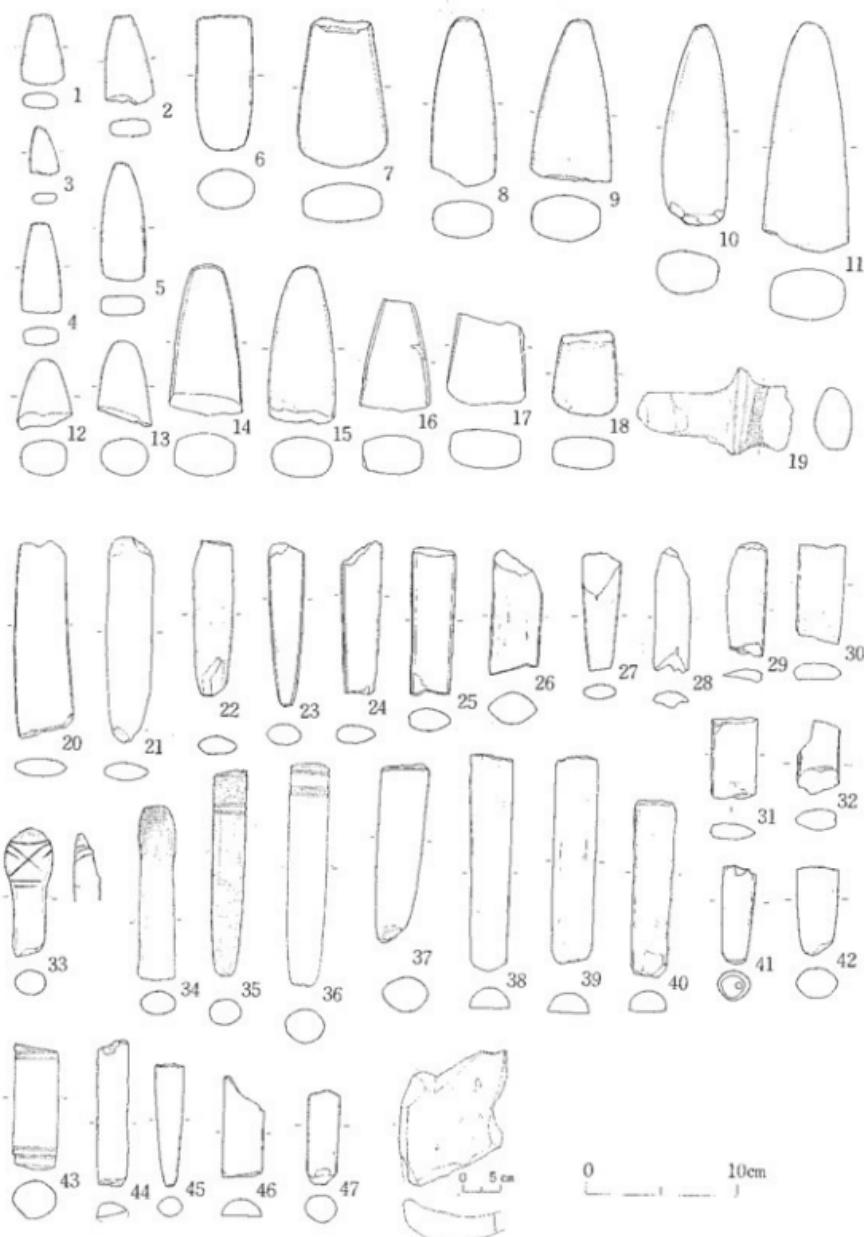
第66図 A地区出土石器 凹石



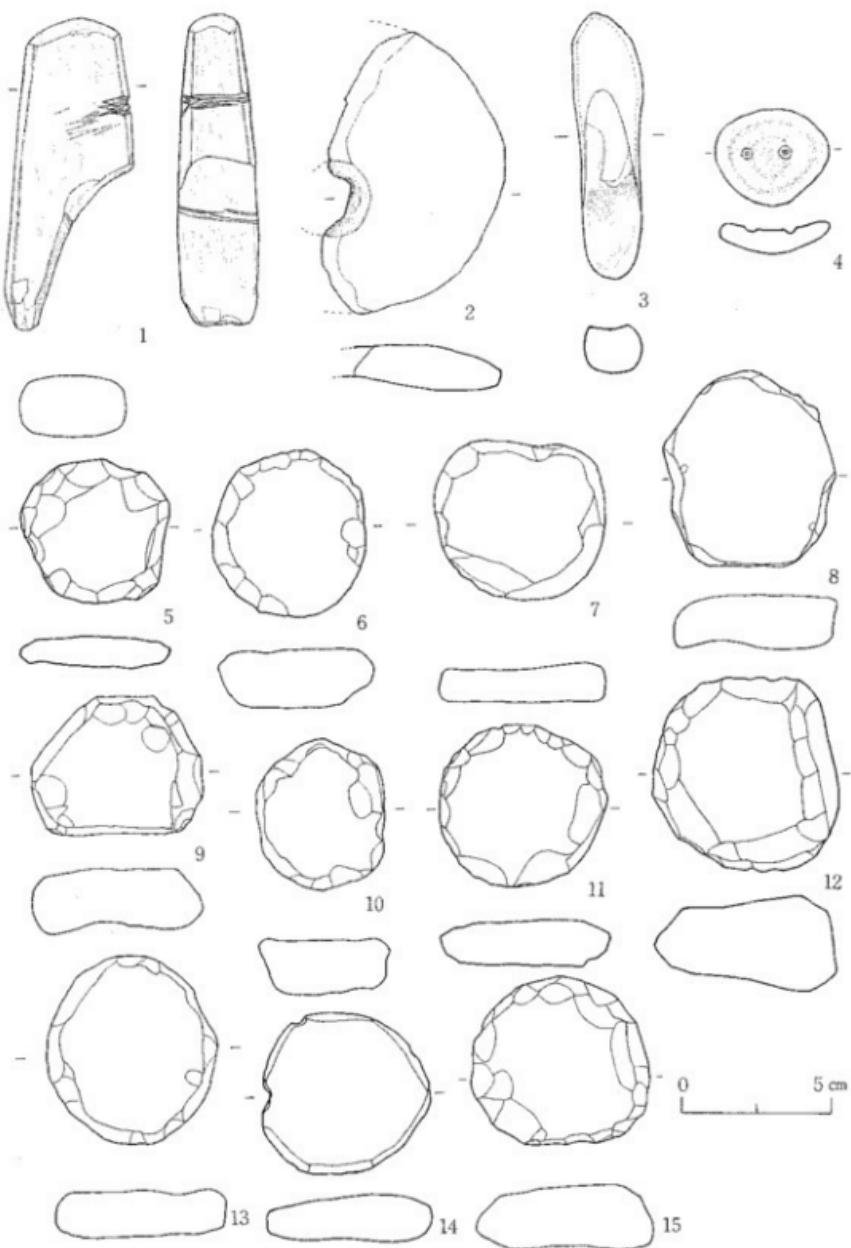
第67図 A地区出土石器 凹石



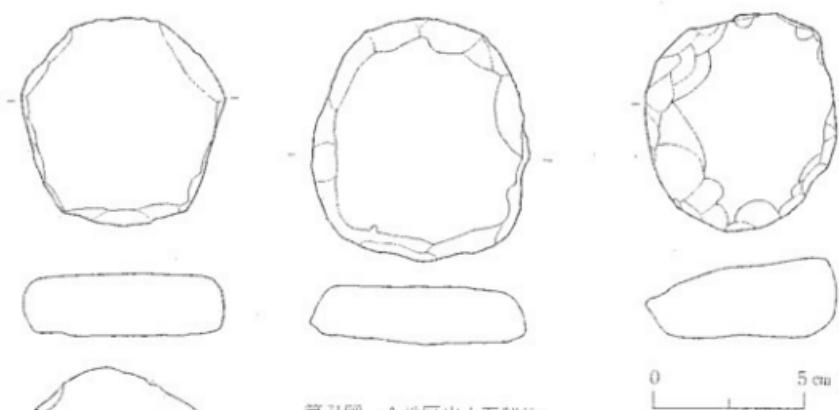
第68図 A地区出土石器 凹石(1~13)・敲石磨石(14~21)



第69図 A地区出土石器 磨製石斧(1~18)・独钻石(19)・
石剣(20~32)・石棒(33~47)・石皿(48)



第70図 A地区出土石製品



第71図 A地区出土石製品

磨製石斧 (第69図 1~18)

砂岩、凝灰岩、玢岩製のもので、ほぼ完形のものは1、2、9~11である。

獨鑿石 (第69図 19)

緑色凝灰岩製で半分以上は欠損している。棱と棱の間にアスファルトの付着がみられる。

石 剣 (第69図20~32)

24の緑色凝灰岩製のほかは灰色の粘板岩製で、全て欠損し、表面に擦痕がみられる。

石 棍 (第69図33~47)

粘岩製のものが多く、半円状に割れています。いずれも欠損しているものばかりである。33は結晶片岩製で頭部に刻線がある。34は流紋岩製で頭部全体が火を受けたようで、黒っぽく多少軟かくなっている。

石 盆 (第69図 48)

凝灰岩製のもので、大部分が欠損している。

石 製 品 (第70図 1~15 第71図 1~4)

1は緑色凝灰岩製で、本来は磨製石斧であったと思われるものであるが、石斧の欠損後、側面および残部に刻線を1~2条入れたものである。用途は不明である。2は環状石製品で半分ほど欠損している。3は細長い河原石を利用したもので、半分ほどにベニカリの付着（塗られているのかもしれない）がみられる。4は河原石を利用したギターン状の石製品で二つの穴はどちらも途中まで穿ってある。第70図 4~15、第71図 1~4は円板状石製品で、石質は安山岩である。（9は貝殻）

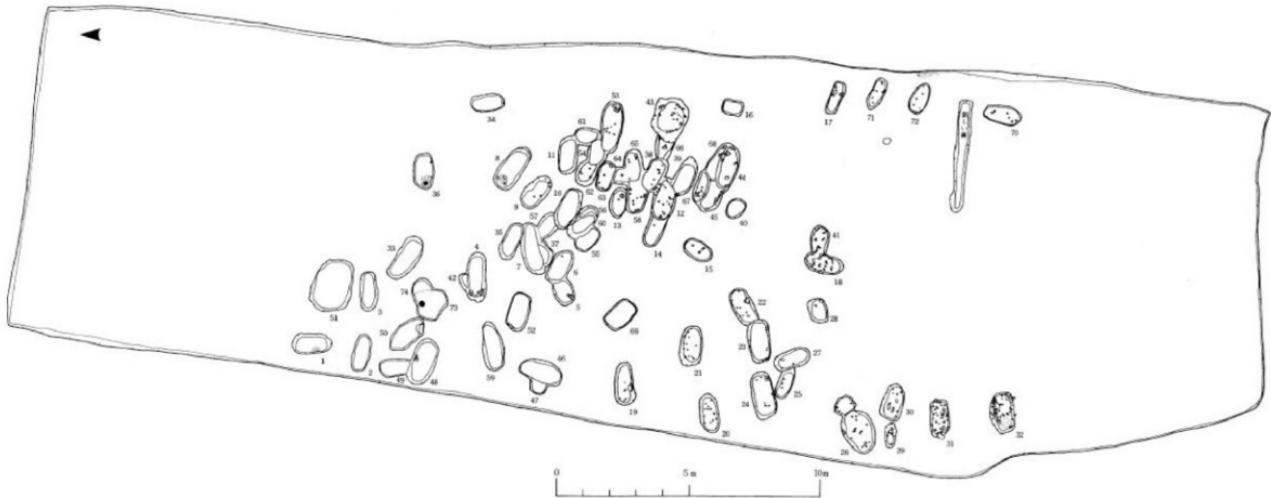


图7-10 B地层分布图

2.B地区

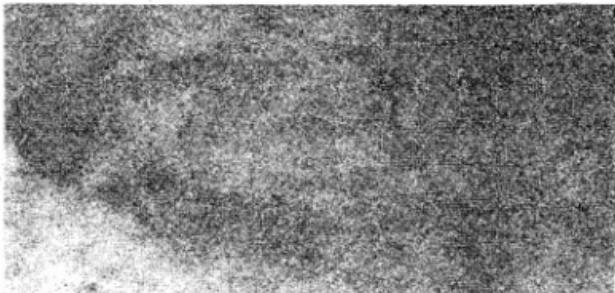
調査面積 600m²

校舎の東から北東側に沢が入り込んでいる。この沢は丹土沢と呼ばれ、成分は不明だが赤色の土が採集される所であるらしい。この沢より約35m西側の地域が調査区である。この調査は校舎のある台地と比高が約5~10mほどあり、南東に緩傾斜している所である。発見された遺構は土塙墓群で調査区西の林の中に広がると考えられる。

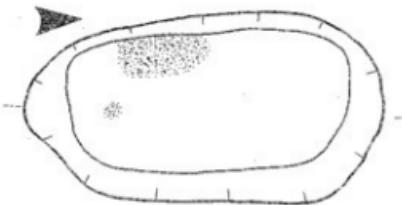
土 塙 墓

1号土塙墓

調査区の最も北にあり、
塙口部は147cm×77cmで、
小判形を呈し、長軸方向は
N1°Wで、塙底中央部より西
と南にベニカラの散布がみ
られた。出土遺物はない。



第73図 1号土塙墓（東→）



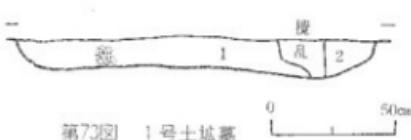
2号土塙墓

調査区北の1号の南側にあり、塙口部は143cm×63cmで、長い小判形を呈し、長軸方向はN77°Wである。土塙を確認した時からベニカラがみられ、その範囲は40cm×50cmで塙底まで厚く散布していた。出土遺物はない。

- 1：炭化物・褐色土粒が混入し、褐色味のある褐色褐色土
- 2：炭化物・黒色土ゴミが混入し、黄褐色味のある褐色褐色土
- 3：炭化物が混入する褐色褐色褐色土
- 4：炭化物が混入する褐色褐色土
- 5：炭化物が少々混入する褐色褐色土
- 6：炭化物が混入する褐色褐色土



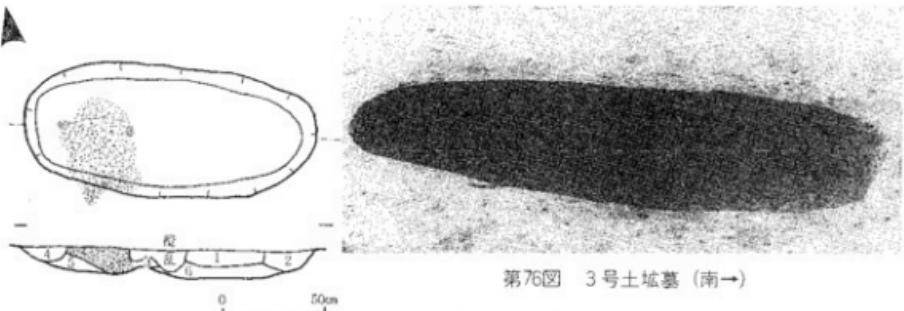
第74図 2号土塙墓（南→）



3号土塙墓

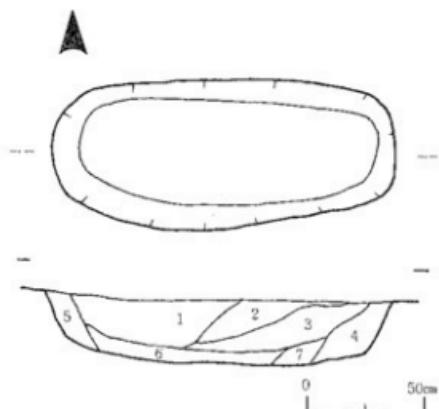
2号の東側にあり、塙口部は145cm×65cmで、ほぼ橭円長方形を呈し、長軸方向はN90°Wである。塙底はゆるやかな鍋底状で比較的深いものである。出土遺物

- 1：炭化物が多く混入する褐色土
- 2：炭化物・ローム粒子が混入する褐色褐色土
- 3：炭化物・ローム粒子が混入する褐色褐色土
- 4：炭化物が混入する褐色褐色土
- 5：炭化物が混入する褐色褐色土
- 6：炭化物・ローム粒子が混入する褐色褐色土
- 7：炭化物が混入し褐色味の強い褐色褐色土

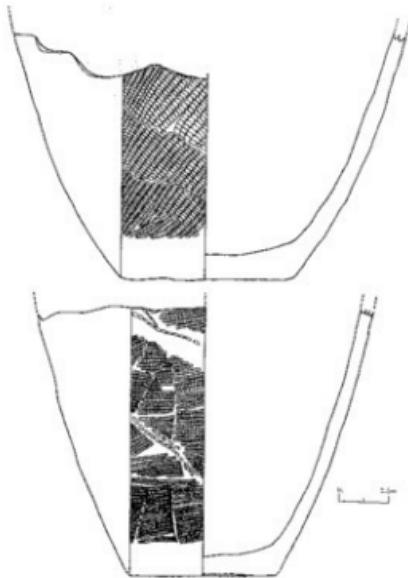


第76図 3号土塙墓 (南→)

第75図 2号土塙墓



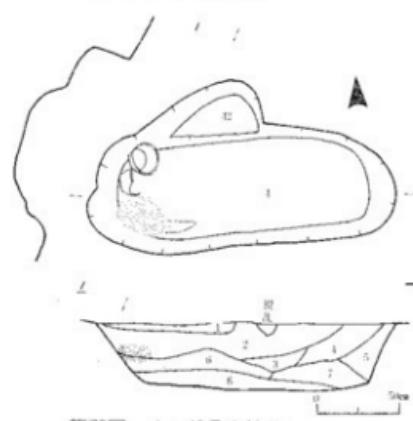
第75図 2号土塙墓



第78図 4号土塙墓出土土器

4号土塙墓

42号土塙墓と重複し、4号の方が新しい。塙口部は180cm×73cmで、長い小判形を呈し、長軸方向はN 88°Wである。西側の埋土にベニガラの散布がみられ、塙底に接し、2個体の深鉢形土器と土器片(胴部)が検出された。深鉢形土器はいずれも粗製で口縁部を欠いている。



第79図 4・42号土塙墓

- 1 : 黒褐色土
- 2 : 炭化物
- 3 : ヨーム粒子が混入する極端褐色土
- 4 : 炭化物
- 5 : ヨームブロッカが混入する暗褐色土
- 6 : 炭化物
- 7 : ヨーム粒子が混入する暗褐色土
- 8 : 炭化物
- 9 : ヨーム粒子が混入する暗褐色土

6：炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土 7：炭化物・ローム粒子が混入する暗黄色土 8：炭化物が混入し、少々硬い暗褐色土

5号土塙墓

調査区中央部にあり、6号と重複している。塙口部は約120cm×71cmで、小判形を呈すると思われる。長軸方向はN108°Wである。西側のベニカラは土塙確認の時からみられたもので塙底ではみられなかつた。出土遺物はない。



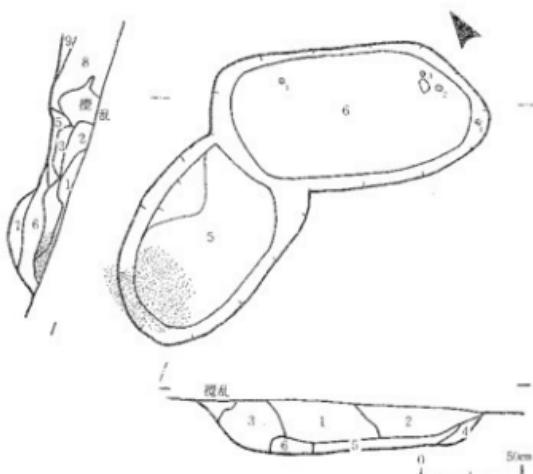
第80図 5号・6号土塙墓（北→）

- 1：炭化物が混入し、やや褐色味の強い暗褐色土
- 2：炭化物・ローム粒子が混入し、やや黃色味のある暗褐色土
- 3：ロームブロック
- 4：褐色味の強い暗褐色土
- 5：炭化物が混入し、比較的柔軟な暗褐色土

6号土塙墓

5号と重複し、5号より新しい。塙口部は140cm×70cmで、小判形の変形を呈し、長軸方向はN60°Wである。東、北側寄りから小玉が4個検出された。いずれも緑色擬灰岩製のものである。

- 1：炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
- 2：炭化物・ローム粒子が混入し、やや褐色味のある暗褐色土
- 3：炭化物・ローム粒子が混入し、褐色味が強い暗褐色土
- 4：ロームブロック
- 5：炭化物・ローム粒子が混入し、硬くしまり、やや褐色味の強い暗褐色土
- 6：炭化物・暗褐色土か少々認められる。ロームブロック



第81図 5・6号土塙墓

7号土塙墓

調査区中央部にあり、35号、37号、57号土塙墓と重複する。塙口部は195cm×約80cmで、長い小判形を呈し、長軸方向はN100°Wである。深さは土塙確認面から約40cmを測る。新旧の関係は35→7号→37号である。

出土遺物はない。

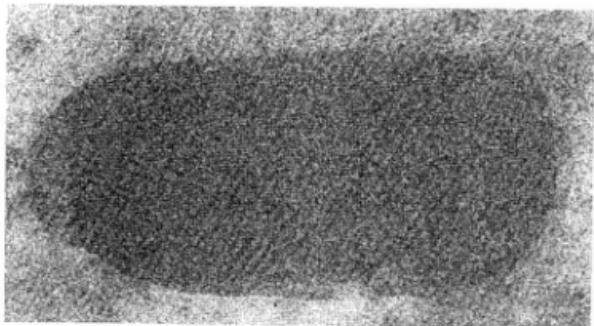
- 1：炭化物・黒色土粒子が混入し、汚れた暗褐色土
- 2：炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
- 3：炭化物が混入し、褐色味の強い暗褐色土
- 4：炭化物が混入する暗褐色土
- 5：炭化物が混入し、硬くしまり、褐色味の多い暗褐色土



第82図 6号土塙墓出土小玉

8号土塙墓

調査区北東にあり、塙口部は $180\text{cm} \times 80\text{cm}$ で、長い小判形を呈し、長軸方向はN 54°W である。塙底は平坦で北西に $30\text{cm} \times 40\text{cm}$ のベニガラの散布がみられた。出土遺物はない。



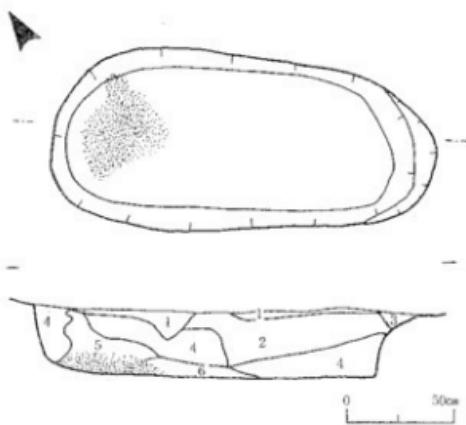
第83図 8号土塙墓 (北→)

- 1：比較的柔かい暗褐色土
- 2：炭化物が混入している汚れた暗黃褐色土
- 3：炭化物・ローム粒子が混入する黄色土
- 4：炭化物が混入する暗黃褐色土
- 5：炭化物・ローム粒子が混入する黄色土
- 6：炭化物が混入し、硬くしまっている黄褐色土

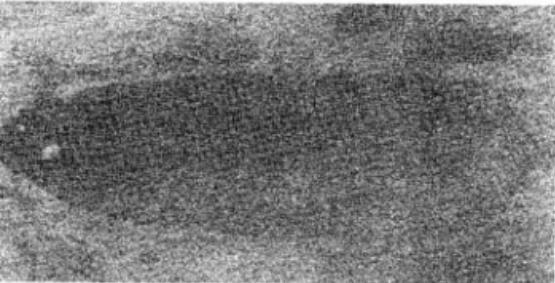
9号土塙墓

8号の南西にあり、塙口部は $147\text{cm} \times 78\text{cm}$ で、小判形を呈し、長軸方向はN 51°W である。出土遺物はない。

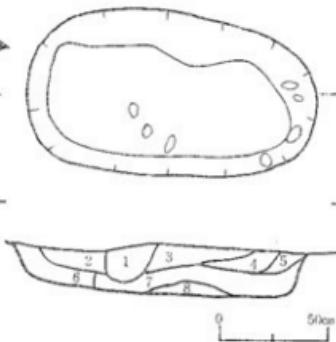
- 1：炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 2：炭化物が混入し、汚れた黃褐色土
- 3：炭化物が混入する楕圓褐色土
- 4：炭化物・ローム粒子が多く混入する暗黃褐色土
- 5：炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 6：炭化物が混入する暗褐色土
- 7：炭化物が混入し、黃色味のある暗褐色土
- 8：炭化物が混入する黃褐色土



第84図 8号土塙墓



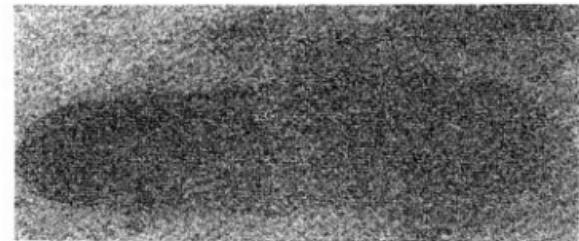
第85図 9号土塙墓 (北→)



第86図 9号土塙墓

10号土塙墓

4A1、4B1、4A2グリッドは重複する土塙墓の多い所で、この10号もその中にある。塙口部は160cm×80cmで、ほぼ小判形を呈し、長軸方向はN 65°Wである。壁はほぼ直立し、深さは35cmほどである。57号と重複し、56号、60号と接する。57号より新しい。出土遺物はない。

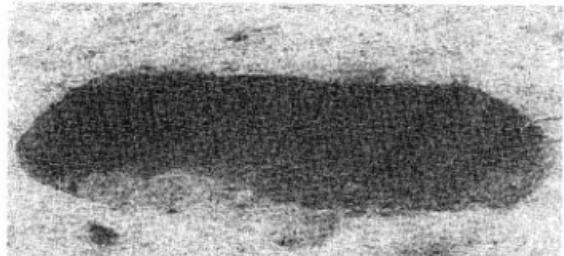


第87図 10号土塙墓 (南→)

- 1：炭化物が混入し、少々硬い暗褐色土
2：炭化物が混入し、少々褐色味のある暗褐色土
3：炭化物が混入し、少々汚れた黄色土
- 第161図
- 1：炭化物・ローム粒子が多く混入し、汚れた暗褐色土
 - 2：炭化物・ローム粒子が混入し、汚れのある暗褐色土
 - 3：炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
 - 4：炭化物が混入する暗褐色土
 - 5：炭化物・ローム粒子・黑色土粒子が混入する暗黃褐色土
 - 6：2層と同じ
 - 7：炭化物が混入する暗黃褐色土
 - 8：炭化物が混入し、黄色味の強い暗黃褐色土
 - 9：炭化物が混入し、硬くしまっている暗黃褐色土

11号土塙墓

10号の東側にあり、61号と重複し、塙口部は140cm×70cmで変形の小判形を呈し、61号により切られている。長軸方向はN 87°Wである。出土遺物はない。



第160図

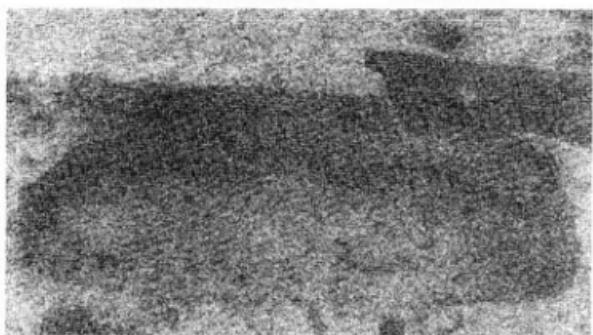
第88図 11号土塙墓 (北→)

- 1：炭化物・ローム粒子が混入し、汚れた暗褐色土
2：炭化物が混入し、少々硬くしまってい る暗褐色土
3：炭化物が混入する暗褐色土

- 1：炭化物・黑色土が混入する汚れた暗褐色土
2：黑色土、黄褐色土が混る。
3：炭化物が混入する黒褐色土
- 4：炭化物が混入する暗褐色土
5：炭化物が混入する暗褐色土
6：炭化物が混入し、硬くしまっている暗褐色土

12号土塙墓

14号、39号と重複し、塙口部は約165cm×82cmで、隅丸長方形を呈すると思われる。長軸方向はN 76°Wである。上塙確認面より40cmの深さで塙底は平坦である。新旧関係は39号→12号→14号の順に古い。出土遺物はない。

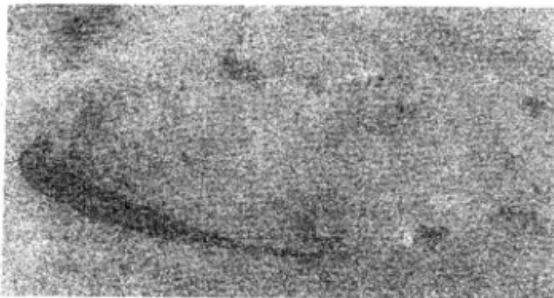


第89図 12号土塙墓 (南→)

13号土塙墓

58号と重複し、塙口部は 115cm × 68cmで、梢円形を呈し、長軸方向はN 82° Wである。塙底はほぼ平らで出土遺物はない。

- 1 : 炭化物が混入し、汚れた暗褐色土
- 2 : 炭化物が混入する暗褐色土
- 3 : 炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
- 4 : 炭化物が混入する暗黄色土



第90図 13号土塙墓 (南→)

14号土塙墓

12号と重複し、12号より古い。塙口部は約140cm×67cmで、長い小判形を呈し、長軸方向はN 70° Wである。塙底は平坦で出土遺物はない。

- 1 : 炭化物が混入する暗褐色土
- 2 : 炭化物・ローム粒子が混入する黄褐色土
- 3 : 炭化物が混入する暗褐色土

15号土塙墓

調査区中央部にあり、塙口部は 112cm×68cmで、梢円形を呈し、長軸方向はN 151° Wである。出土遺物はない。

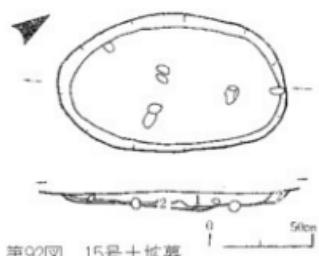
- 1 : 炭化物が混入し、少々黄色味のある暗褐色土
- 2 : 黄色土



第91図 15号土塙墓 (東→)

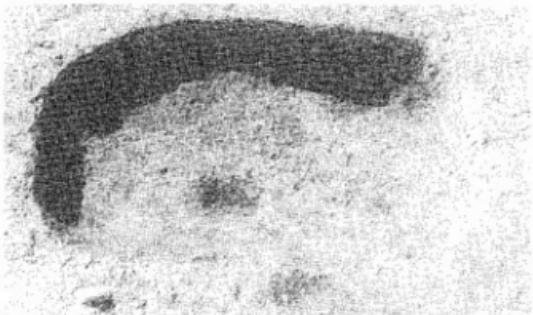
16号土塙墓

調査区中央部東側にあり、塙口部は80cm×55cmで、隅丸方形を呈し、長軸方向は168° Wである。出土遺物はない。

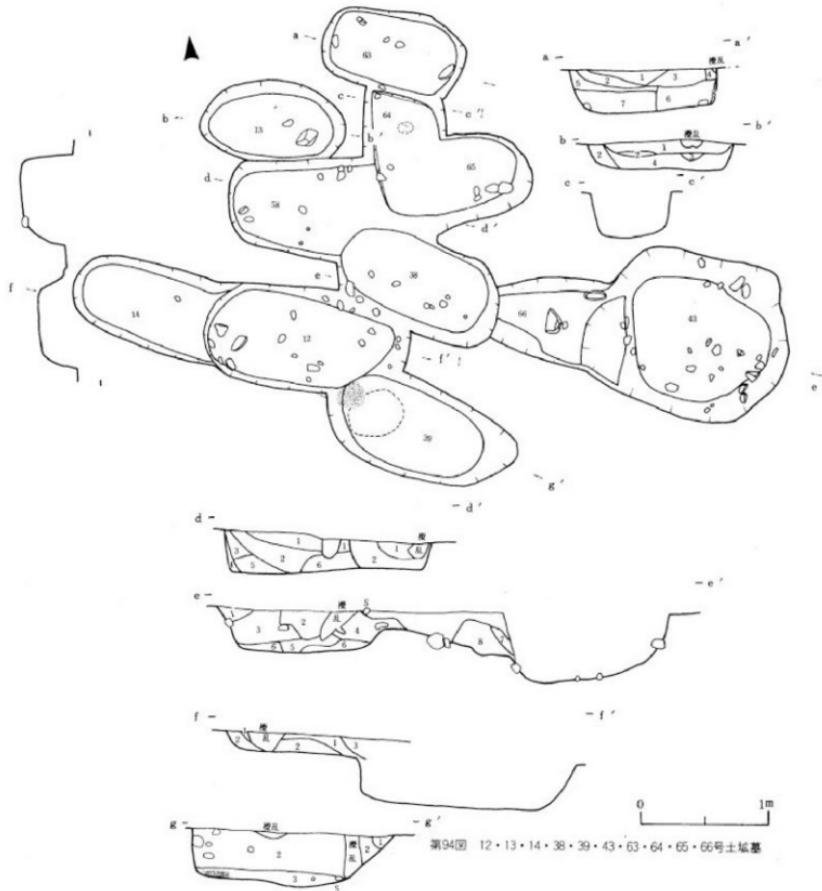


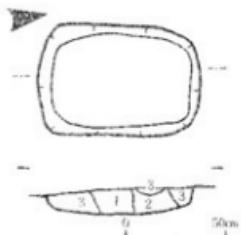
第92図 15号土塙墓

- 1 : 炭化物が混入し、少々硬い暗褐色土
- 2 : 炭化物が混入し、少々開孔がある暗褐色土
- 3 : 炭化物が混入し、少々汚れた黄色土



第93図 16号土塙墓 (東→)





第95図 16号土塙墓



第96図 17号土塙墓（南→）

17号土塙墓

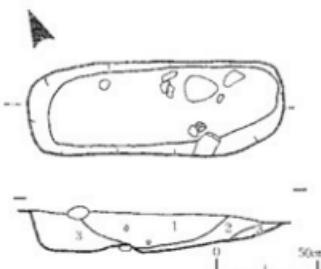
調査区南東、道路際にあり、塙口部は $120\text{cm} \times 47\text{cm}$ で、長い隅丸方形を呈し、長軸方向はN 70°W である。この上塙墓のある所はゆるやかに南東へ傾斜している。

- 1：炭化物・ローム粒子が混入し、汚れた暗黃褐色土
- 2：炭化物が混入し、少々硬くしまっている暗黃褐色土
- 3：炭化物が混入する暗黃褐色土

18号土塙墓

調査区中央南側にあり、41号と重複している。この土塙のある辺から地形は南に傾斜し、縦層が露出している場所である。埋土、塙底の礎は前述のものである。18号は41号より古く、塙口部は $150\text{cm} \times 73\text{cm}$ で、小判形を呈し、長軸方向はN 165°W である。出土遺物はない。

- 1：炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 2：やや黄色味の強い暗黃褐色土
- 3：炭化物が混入する暗黃褐色土
- 4：炭化物が混入し、やや黄っぽい暗褐色土



第97図 17号土塙墓

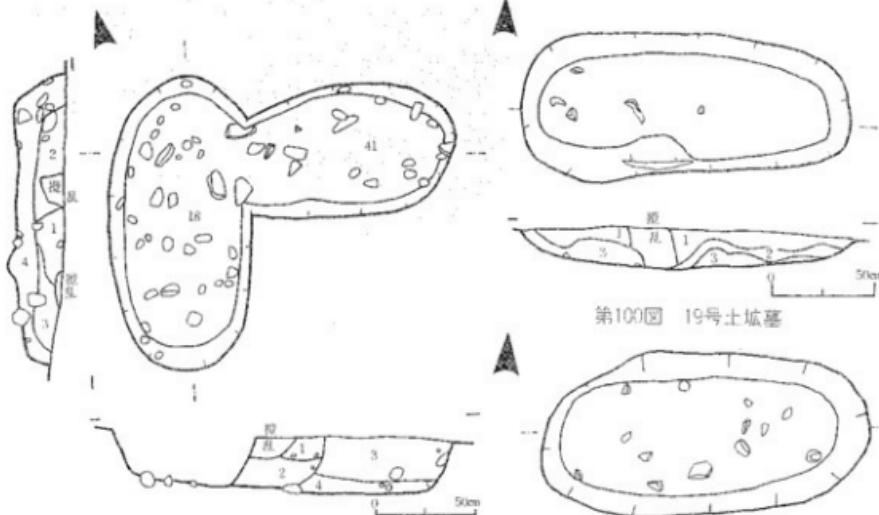


第98図 18号・41号土塙墓（南→）

19号土塙墓

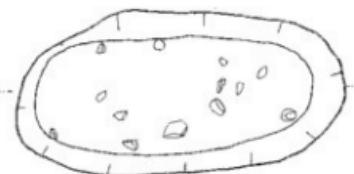
調査区中央西にあり、塙口部は $160\text{cm} \times 70\text{cm}$ で、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN 89°W である。出土遺物はない。

- 1：炭化物が混入する暗黃褐色土
- 2：炭化物が混入し、粘土っぽい暗黃褐色土
- 3：黄色粘土



第99図 18・41号土塚墓

第100図 19号土塚墓



第101図 19号土塚墓（北→）

第102図 20号土塚墓

20号土塚墓

調査区中央西、19号の南にあり、
墳頂部は $146\text{cm} \times 72\text{cm}$ で、小判形を
呈し、長軸方向は N97°W である。塚
底は平坦である。埋土より粗製深鉢
形土器の口縁部（Rレ繩文）、石片
が1点出土している。

- 1 : 炭化物・ローム粒子・黒色土粒子が混入する暗
緑黄褐色土
- 2 : 炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 3 : 炭化物が混入する暗黄色土
- 4 : 炭化物が混入する細断黃褐色土

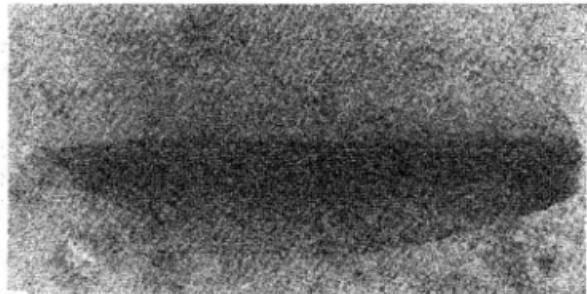
第103図 20号土塚墓（南→）

第104図 20号土塚墓出土土器



21号土塙墓

20号の東側にあり、塙口部は $155\text{cm} \times 80\text{cm}$ で、ほぼ小円形を呈し、長軸方向はN 80°W である。西にベニガラの散布がみられた。出土遺物はない。



- 1 : 塙化物・ローム粒子が多く混入する黒褐色土
- 2 : 黄褐色土
- 3 : 塙化物・褐色土が混入する暗褐色土
- 4 : 塙化物が混入する暗褐色土
- 5 : 塙化物が混入する暗褐色土
- 6 : 塙化物が混入し、褐色味の強い暗褐色土
- 7 : 塙化物が混入する褐色黄褐色土

22号土塙墓

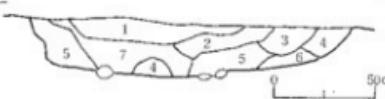
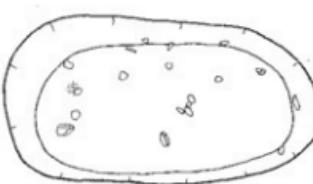
23号と重複し、23号より古い。塙口部は $145\text{cm} \times 76\text{cm}$ で、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN 118°W である。出土遺物はない。

23号土塙墓

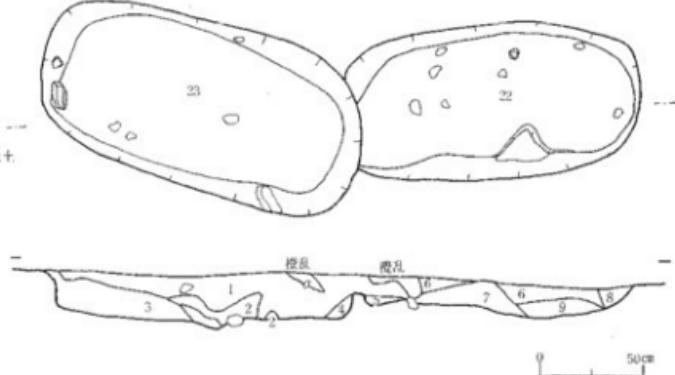
22号を切ってつくられている。塙口部は $168\text{cm} \times 82\text{cm}$ で、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN 93°W である。出土遺物はない。

- 1 : 塙化物・ローム粒子が混入し、黃色味のある暗褐色土
- 2 : 塙化物・ローム粒が混入する暗褐色土
- 3 : 塙化物・ロームブロックが混入する暗褐色土
- 4 : 塙化物・黒色土が混入する暗褐色土
- 5 : 塙化物が混入し、灰色味のある暗褐色土
- 6 : 塙化物が混入する暗褐色土
- 7 : ローム粒子が混入する黒色土
- 8 : 塙化物が混入する暗褐色土
- 9 : 塙化物・ローム粒子・黒色土が混入する暗褐色土

第105図 21号土塙墓（南→）



第106図 21号土塙墓



第107図 22・23号土塙墓



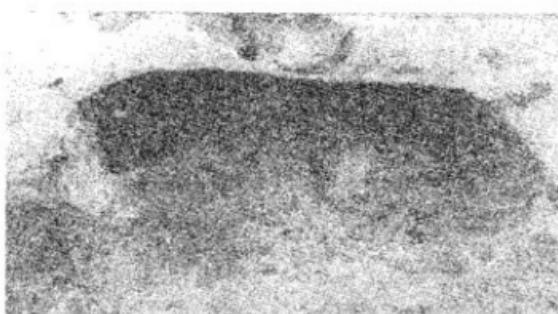
第108図 22号・23号土塙墓(右22号)(南→)

24号土塙墓

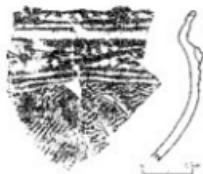
22、23号の西にあり、塙口部は178cm×83cmで、ほぼ開丸長方形を呈し、長軸方向はN 80°Wである。塙底西にベニガラの散布がみられた。東側塙壁近くに土器が検出された。土器は胸、

底部であるが粗製深鉢形(R.L.縄文)で、非常にもらく、復元が出来ない程である。この上器とともに大洞B C式の台付鉢形土器(精製)の口縁部が検出された。

- 1:炭化物・シカローム粒子が混入し、やや黄色味のある暗褐色土
- 2:炭化物が混入する暗褐色土
- 3:炭化物・ローム粒子が混入し、黄色味のある暗褐色土
- 4:炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
- 5:炭化物が混入し、硬くしまっている暗黃褐色土



第109図 24号土塙墓(北→)



第110図 24号土塙墓出土土器

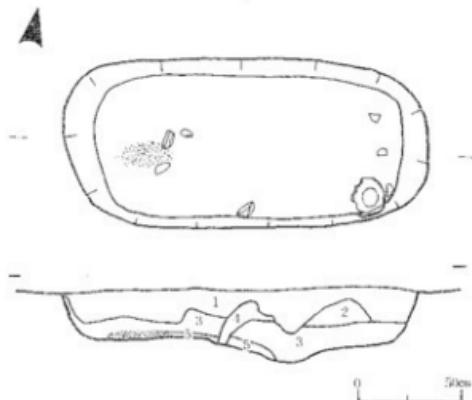
25号土塙墓

24号の南にあり、27号と重複している。塙口部は約130cm×55cmで、小判形を呈し、長軸方向はN 70°Wである。出土遺物はない。

- 1:炭化物が混入する暗褐色土
- 2:炭化物が混入する暗黄褐色土

26号土塙墓

調査区南西のゆるやかな傾斜面にあり、塙口部は170cm×117cmで、比較的大きい椭円形を呈し、長軸方向はN 112°Wである。遺物は土器片(粗製)が出上している。



第111図 24号土塙墓

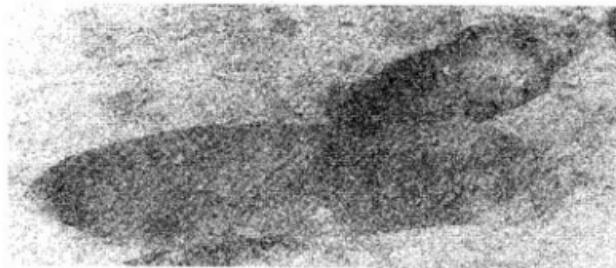
- 1 : 墓化物・ローム粒子が混入し、やや黄色味のある暗褐色土。
- 2 : 墓化物が混入する暗黃色土。
- 3 : 墓化物が混入する暗黃褐色土。
- 4 : 墓化物・ローム粒子が混入し、黄色味のある暗褐色土。
- 5 : ロームブロック

27号土塚墓

25号と重複し、25号より新らしい。埴口部は 140

cm×70cmで、小判形を呈し、長軸方向は N 20° W である。出土遺物はない。

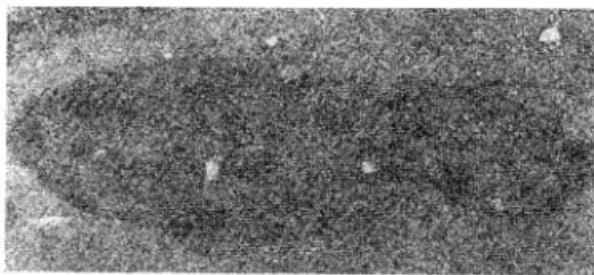
- 1 : 墓化物・褐色土が混入し、汚れた黄褐色土
- 2 : 墓化物が混入する暗褐色土
- 3 : 墓化物が混入する墨褐色土
- 4 : 墓化物が混入する墨褐黃褐色土



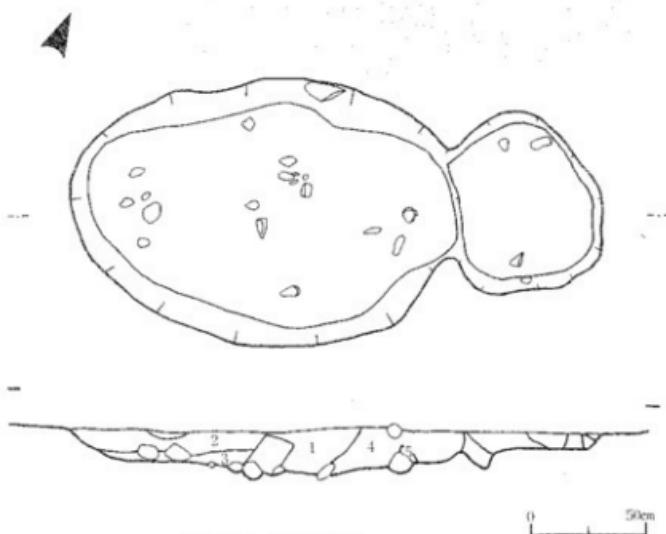
第112図 25・27号土塚墓(手前27号) (北→)



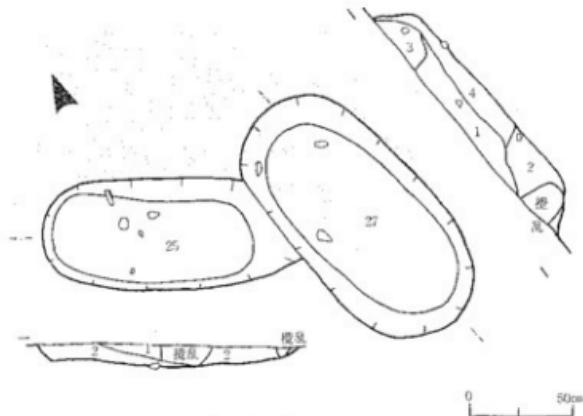
第114図
26号土塚墓出土土器



第113図 26号土塚墓 (南→)



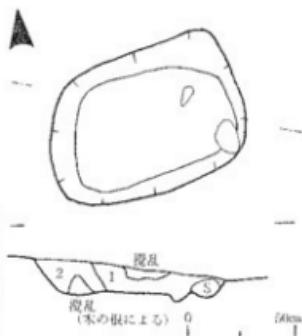
第115図 26号土塚墓



第116図 25号・27号土塙墓

28号土塙墓

27号の南東にあり、塙口部は95cm×67cmで、変形の隅丸方形を呈し、長軸方向はN118°Wである。出土遺物はない。
1：炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
2：炭化物が混入し、黄色味の強い暗褐色土



第117図 28号土塙墓

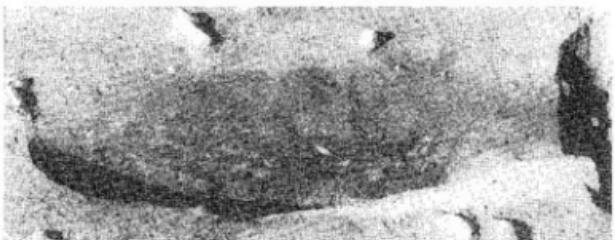
29号土塙墓

調査区南西、26号の南にあり、塙口部は97cm×38cmで、細長い小判形を呈し、長軸方向はN85°Wである。南塙口部に木の根が入り込んでいた。出土遺物はない。

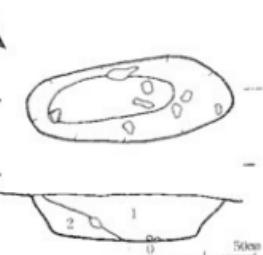


第118図 28号土塙墓（南→）

1：炭化物が混入し、黄色土と暗褐色土が混り、ぼそぼそである
2：炭化物・大粒のロームが混入する暗褐色土



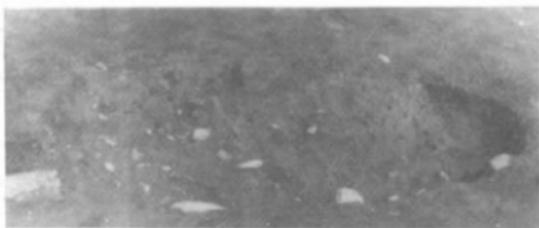
第119図 29号土塙墓（南→）



第120図 29号土塙墓

30号土塙墓

29号の東にあり、傾斜面である。塙口部は136cm×78cmで、東側塙壁は丸くなるが、隅丸長方形に分類した。長軸方向はN75°Wである。北西から

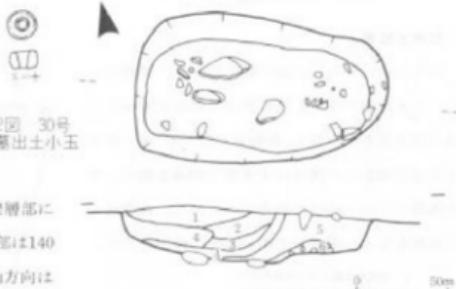


第121図 30号土塙墓 (南→)

小玉が1個出土した。緑色堅灰岩製のものである。他に土器片1点が出土している。

- 1：炭化物が混入し、灰褐色の黑色土
- 2：炭化物・大粒のコームが混入する黒色土
- 3：炭化物が混入する紺黃褐色土
- 4：炭化物が混入し、黄色味の強い紺黃褐色土
- 5：大粒のコームが混入する黒色土
- 6：やや汚れるある黄色土

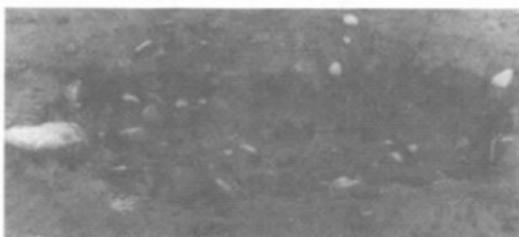
第122図 30号土塙墓出土小玉



31号土塙墓

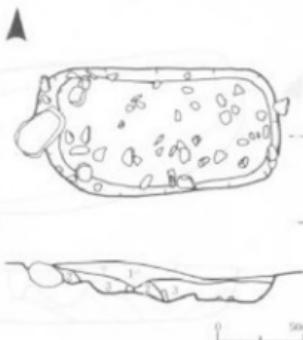
30号の南にあり、南面に傾斜し、礎層部につくられているため南側が深い。塙口部は140cm×70cmで、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN92°Wである。塙壁西に30cm×17cmの石がみられる。出土遺物はない。

1：海ぬ褐色土 2：紺黃褐色土 3：紺黃褐色土

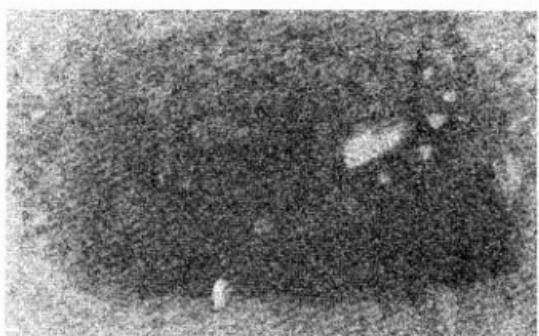


第124図 31号土塙墓 (南→)

第123図 30号土塙墓



第125図 31号土塙墓

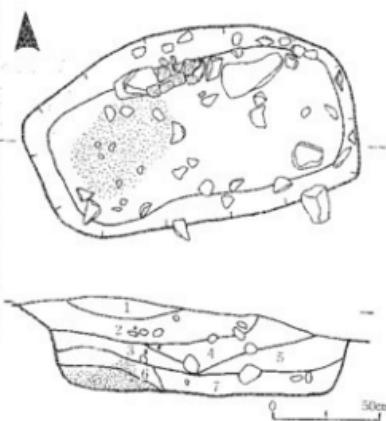


126図 32号土塙墓 (南→)

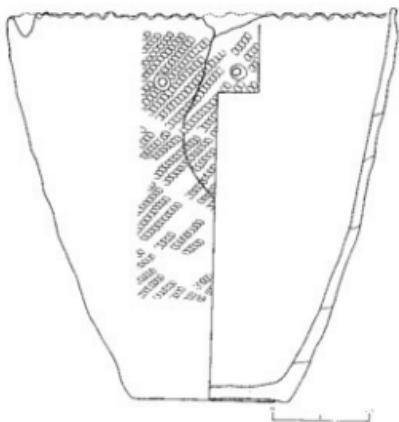
32号土塙墓

31号の南にあり、南面に最も傾斜し、疊層部につくられ南側が深い。塙口部は 155cm×92cm で、ほぼ隅丸長方形を呈し、長軸方向は N 97° W である。土塙確認面からの深さは中央部で 40cm を測る。中央西寄りにベニガラの散布がみられた。北壁近くに補修孔をもつ深鉢形土器(粗製)が検出された。

- 1 : 炭化物が混入する黒褐色土
- 2 : 炭化物が混入する暗黃褐色土
- 3 : 炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
- 4 : 炭化物・ローム粒子が混入する極暗褐色土
- 5 : 炭化物が混入し、黒色土がブロッキ状に入る黒褐色土
- 6 : 炭化物・小石粒が多く混入する暗褐色土
- 7 : 炭化物・小石粒が多く混入する暗黃褐色土



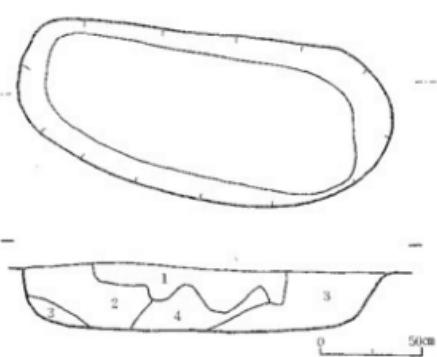
第127図 32号土塙墓



第128図 32号土塙墓出土土器

33号土塙墓

3号の南東にあり、塙口部は 185cm × 82cm で、長いほぼ小判形を呈し、長軸方向は N 54° W である。塙底は平坦である。出土遺物はない。



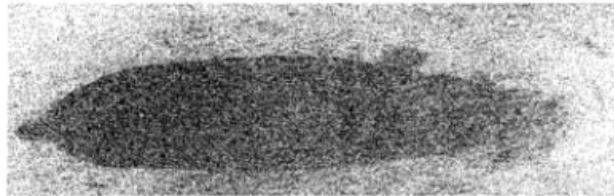
第129図 33号土塙墓

- 1 : 炭化物・ローム粒子が混入する黒褐色土
- 2 : 炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 3 : 炭化物が混入する暗褐色土
- 4 : 炭化物が混入する暗黃褐色土

34号土塙墓

調査区北東にあり、塙口部は $125\text{cm} \times 63\text{cm}$ で、小判形を呈し、長軸方向は N $6^{\circ}W$ である。塙底は平坦で、出土遺物はない。

1: 塙化物が混入し、汚れた暗褐色土 3: ロームブロック
2: 塙化物が混入する黄褐色土 4: 塙化物が混入する暗黃褐色土



第130図 33号土塙墓 (北→)

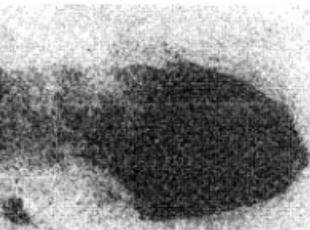
7号と重複し、35号が新しい。

塙口部は $147\text{cm} \times 63\text{cm}$ で、長い小判形を呈し、長軸方向は N $67^{\circ}W$ である。東側にベニガラの散布がみられた。塙底はゆるやかな鍋底状である。出土遺物はない。

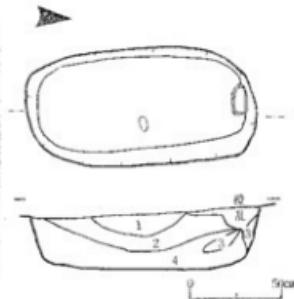
36号土塙墓

調査区北東、33号の東側にある。塙口部は $130\text{cm} \times 76\text{cm}$ で、ほぼ小判形を呈し、長軸方向は N $92^{\circ}W$ である。西側に約15cmの厚さでベニガラの散布がみられた。塙底は平坦である。出土遺物はない。

1: 塙化物が混入する黒褐色土
2: 塙化物・黒色土粒子が混入し、汚れた暗褐色土
3: 塙化物が混入する暗褐色土
4: 塙化物が混入する暗黃褐色土
5: 塙化物が混入し、汚れた暗褐色土
6: 大量の塙化物が混入する黒褐色土



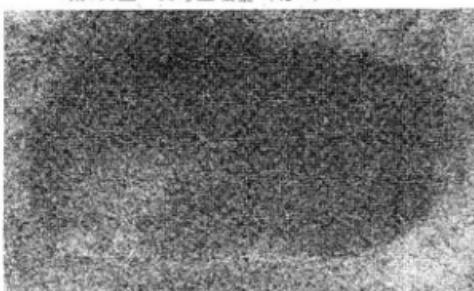
第131図 34号土塙墓 (西→)



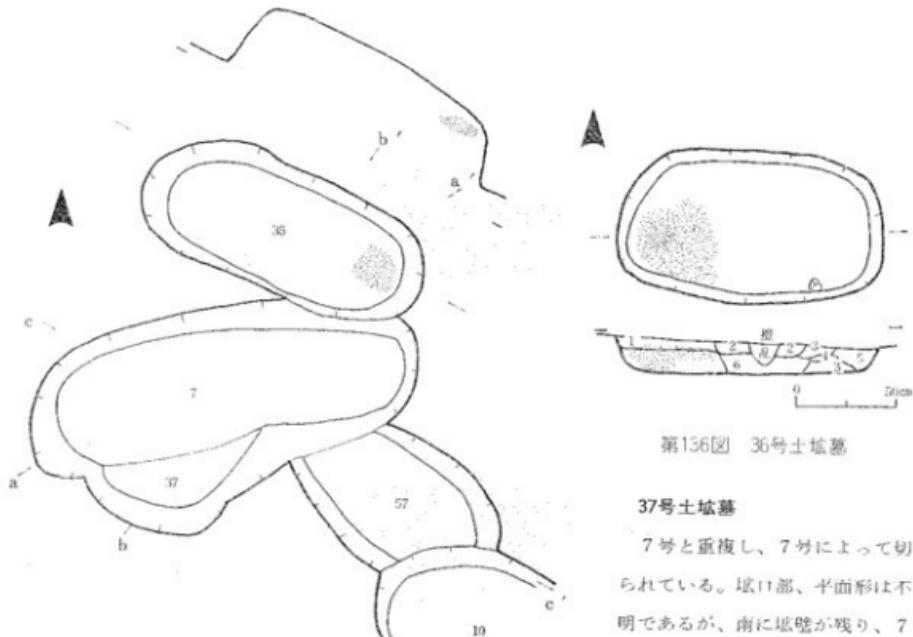
第132図 34号土塙墓



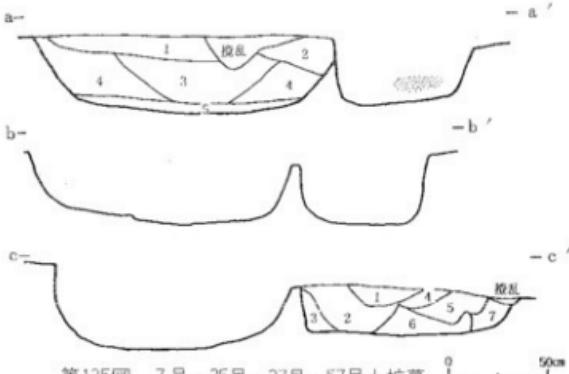
第133図 35号土塙墓 (北→)



第134図 36号土塙墓 (北→)



第136図 36号土塙墓



第135図 7号・35号・37号・57号土塙墓



第137図 38号土塙墓 (北→)

- 1 : ロームブロック
- 2 : 炭化物が混入する褐色土
- 3 : 炭化物・ローム粒子が混入する黄褐色土
- 4 : 3割よりやや明るみがある
- 5 : 炭化物が混入する暗褐色土
- 6 : 炭化物が混入し、硬くしまる黒褐色土
- 7 : 炭化物が混入し、白っぽい黄褐色土
- 8 : 黄色土

第138図 38号
土塙墓出土小玉

39号土塙墓

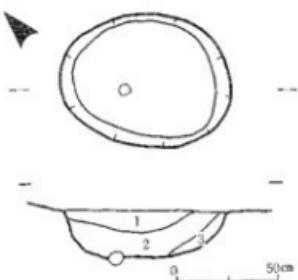
12号と重複し、12号より新しい。塙口部は約 $160\text{cm} \times 75\text{cm}$ で、変形の長い小判形を呈し、長軸方向はN 60°W である。塙壁は南東側を除きほぼ垂直に立ち上がる。深さは約40cmで、西にベニガラの散布がみられ、ベニガラより下部、中央よりに径約40cmの炭化物の散布がみられた。出土遺物はない。

1：炭化物が混入する暗褐色土 2：炭化物が混入する黄褐色土 3：炭化物が混入し、硬くしまっている黄褐色土

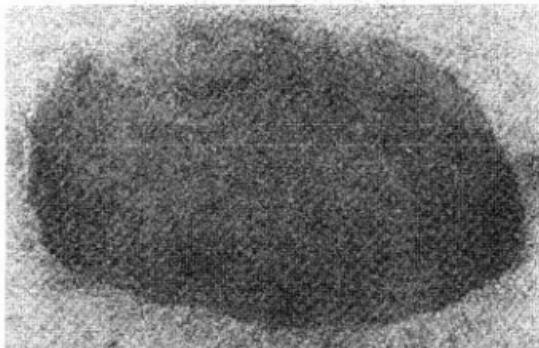
40号土塙墓

調査区中央部（南）にあり、塙口部 $85\text{cm} \times 65\text{cm}$ で、円形に近い梢円形を呈し、長軸方向はN 37°W である。出土遺物はない。

1：炭化物が混入する暗褐色土
2：炭化物が混入する黄褐色土
3：炭化物が混入し、少々褐色味のある暗黄色土



140図 40号土塙墓



第139図 40号土塙墓（南→）

41号土塙墓

18号と重複し、41号が新しい。塙口部は約 $120\text{cm} \times 65\text{cm}$ で、変形の小判形を呈し、長軸方向はN 89°W である。塙底は平らで、北西側に有茎石鎌が1点検出された。石質は練瓦頁岩である。

1：炭化物が混入し、汚れた感じの黄褐色土
2：炭化物が混入する暗褐色土
3：炭化物・シーム粒子が混入する暗褐色土
4：炭化物が混入し、褐色味が強い暗褐色土

42号土塙墓

4号と重複し、塙口部は $127\text{cm} \times$ 約 65cm 前後で、小判形を呈すると思われる。長軸方向はN 123°W である。土器片（粗製）が2点出土している。

43号土塙墓

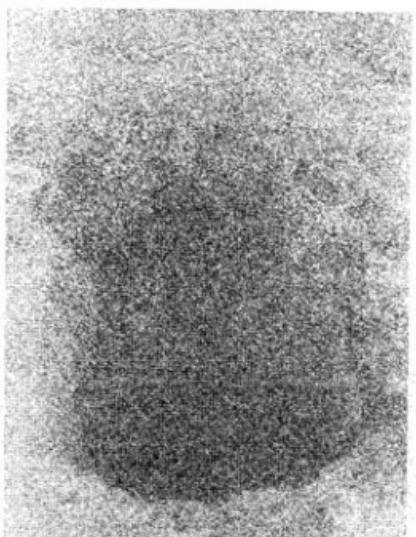
66号と重複し、調査区中央部東側にあり、塙口部は約 $160\text{cm} \times 130\text{cm}$ で、六角形になるような平面形を呈し、本遺跡の中では、51号と同様に大きい頬である。二つの土塙墓が重複しているのかも知れないが、調査の段階では不明であった。一つの土塙墓として扱った。土塙確認面からの深さは約50cmで、長軸方向はN 72°W である。出土遺物はない。



第141図 41号土塙墓出土石鎌



第142図 42号土塙墓出土土器



第143図 4号・42号土塙墓 (東→)

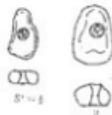
- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 : 炭化物が混入し、黒色粒が入る暗黄色土 | 6 : 炭化物が混入し、黄色味の強い暗褐色土 |
| 2 : 炭化物が混入する暗黄色土 | 7 : 炭化物・黒色土粒が混入する暗黄色土 |
| 3 : 炭化物が混入する暗黄色土 | 8 : 炭化物が混入し、青色味の強い新黄色土 |
| 4 : 軽く少々粘性のある黄色土 | 9 : 炭化物が混入し、やや硬くしまっている暗黄色土 |
| 5 : 炭化物が混入し、汚れた暗黄色土 | |

44号土塙墓

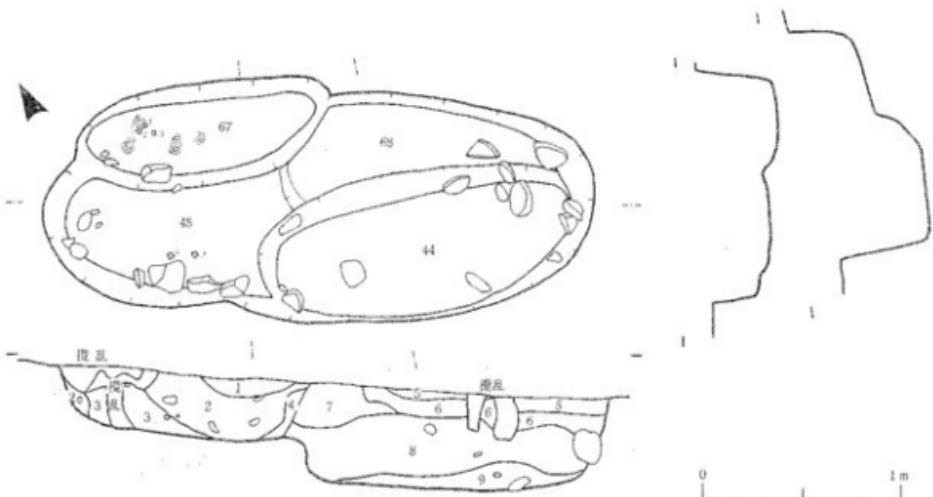
45号、68号と重複し、45号、68号より新しい。上塙確認面では45号、44号が重なっていることは確認したが、67号、68号は掘り進めた段階で確認されたものである。塙口部は推定で約 180cm×75 cmほどで、長い小判形を呈するものであろう。長軸方向はN73°Wである。塙底はほぼ平らで土塙確認面からの深さは50cmを測る。出土遺物はない。

45号土塙墓

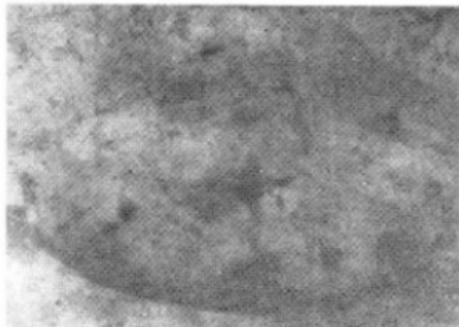
44号、67号、68号と重複し、塙口部は推定約140 cm×80cmで、橢円形を呈するものであろう。長軸方向はN58°Wである。塙内中央部衝に勾玉と玉がそれぞれ1個検出された。1は緑色凝灰岩、2はヒスイ製である。



第144図 45号土塙墓出土勾玉・玉



第145図 44号・45号・67号・68号土塙墓



第146図 46号・47号土塙墓 (東→)

46号土塙墓

調査区中央西にあり、47号と重複し、46号が新しい。
埴口部は 160cm×約85cmで、楕円形を呈し、長軸方向
は N159°Wである。出土遺物はない。

47号土塙墓

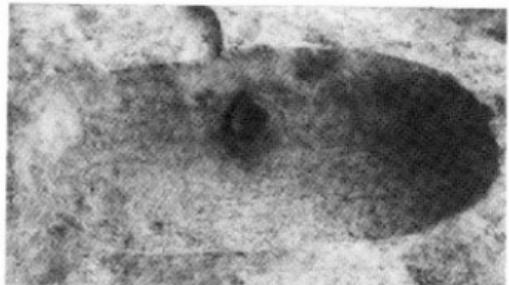
46号により切られている。埴口部は 130cm×70cm前後と思われる。小判形を呈するものであらうか。長軸方向は N88°W前後である。出土遺物はない。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 : 濁化物が混入する粘灰黃褐色土 | 5 : 濁化物が混入する粘黃褐色土 |
| 2 : 濁化物が混入する粘黃褐色土 | 6 : 濁化物が混入する粘黃褐色土 |
| 3 : 濁化物が混入し、少少白けのある黃色土 | 7 : ロームブロッカ |
| 4 : 濁化物が少々混入する黃色土 | 8 : 濁化物が混入する粘黃褐色土 |

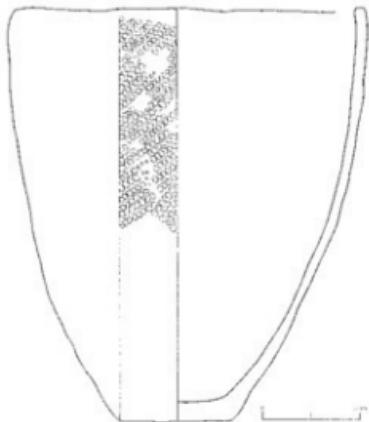
48号土塙墓

調査区北西にあり、49号と重複し、49号より新しい。埴口部は 177cm×93cmで、小判形を呈し、
長軸方向は N75°Wである。底は平坦で埴壁もしっかりしている。土塙確認面からの深さは40cmで
ある。塙内中央北側からほぼ完
形の深鉢形土器（器高21.5cm）
が出土した。

- 1 : 濁化物・ローム粒子が多く混入する黒褐
色土
- 2 : 濁化物・ローム粒子・ロームブロッカが
多く混入する暗黃褐色土
- 3 : 濁化物・ローム粒子混入する暗黃褐色土
- 4 : 濁化物が混入し、やや粘土っぽい暗黃褐色土
- 5 : 濁化物が混入し、硬くやや粗土っぽい
暗黃褐色土



第148図 48号土塙墓 (南→)



第149図 48号土塙墓出土土器



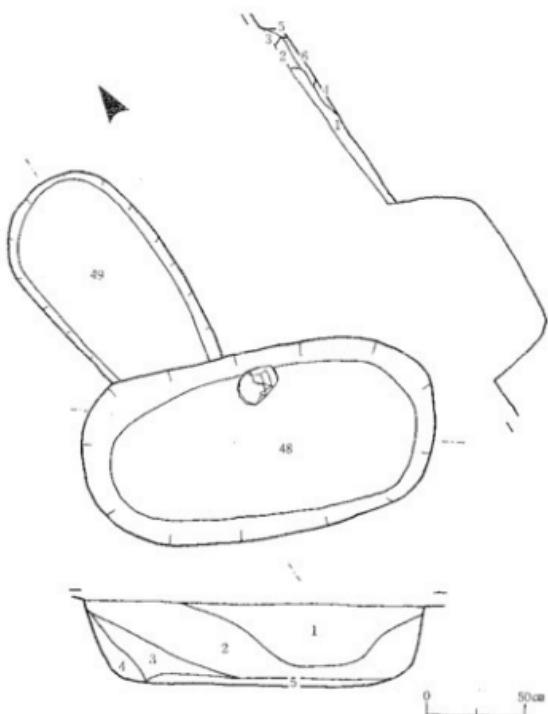
第150図 49号土塙墓（東→）

49号土塙墓

48号によって切られている。

塙口部は約 $140\text{cm} \times 70\text{cm}$ で、ほぼ小判形を呈すると思われる。長軸方向は N 179°W である。塙底は平らで浅い。出土遺物はない。

- 1 : 炭化物が混入する墨褐色土
- 2 : 黒色土が少々混入する暗黃褐色土
- 3 : 炭化物が混入する暗黃褐色土
- 4 : ロームブロッフ
- 5 : 炭化物が混入する暗黃褐色土
- 6 : 炭化物が混入し、やや汚れるある黄色土

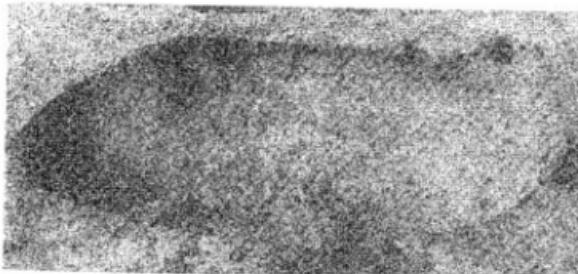


第151図 48号・49号土塙墓

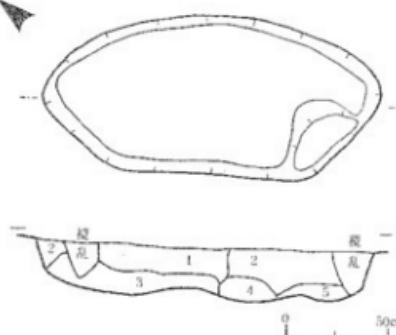
50号土塙墓

48号、49号の東にあり、塙口部は $170\text{cm} \times 80\text{cm}$ で、変形を呈し、長軸方向は N 38°W である。出土遺物はない。

- 1 : 炭化物が混入する暗黃褐色土
- 2 : 炭化物が混入し、黑色土・暗灰褐色土・暗黃褐色土が入り混る
- 3 : 少々汚れるある黄色土
- 4 : 暗黃褐色土
- 5 : 精土っぽい暗黃褐色土



第152図 50号土塙墓 (南→)



第153図 50号土塙墓

51号土塙墓

調査区北側にあり、最も大きい土塙である。二つ重複している可能性もあるものである。塙口部は $195\text{cm} \times 150\text{cm}$ で、変形の隅丸方形を呈し、長軸方向はN 79°W である。塙底は平坦で塙壁の立ち上りは良く、上塙確認面からの深さは50cmを測る。出土遺物はない。

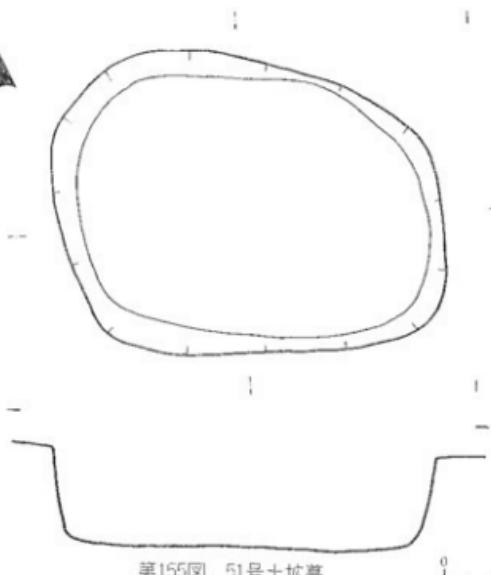


第154図 51号土塙墓 (北→)



52号土塙墓

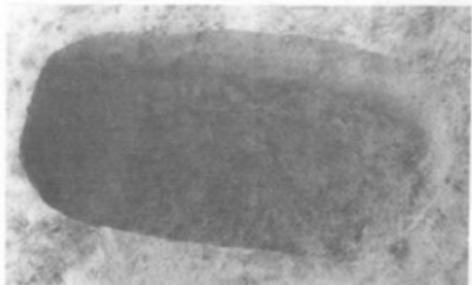
調査区中央部にあり、塙口部は $145\text{cm} \times 77\text{cm}$ で、ほぼ小判形を呈し、長軸方向はN 74°W である。西側にベニガラの散布がみられた。塙底はほぼ平らで塙壁は垂直に近い立ち上がりである。出土遺物はない。



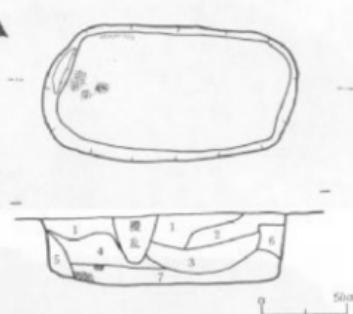
第155図 51号土塙墓

- 1 : 炭化物・褐色土が混入する暗褐色土
- 2 : 炭化物が混入し、暗褐色土が部分的に入る暗黄色土
- 3 : 炭化物・ローム粒子が混入する暗黃褐色土
- 4 : 炭化物が深入し、少々褐色味のある暗黄色土
- 5 : 少々粘土っぽく、やや汚けのあ

る黄色土 6: 塗化物が混入し、ぼそぼそな暗黄色土 7: 硬くしまり、少々粘土っぽく、褐色味のある暗黄色土



第156図 52号土塙墓 (北→)



第157図 52号土塙墓

53号土塙墓

調査区中央東側にあり、54号と重複し、61号と接する。塙口部は 195cm×80cmで、長い小判形を呈し、長軸方向は N83°Wである。54号より新しい。出土遺物はない。

- 1: 塗化物が混入する暗黄色土
2: 塗化物・ローム粒子が多く混入し、上部に部分的に黒色土が入る
　暗黄色土
3: 塗化物が混入し、やや粘性のある暗黄色土
- 4: 少々黄色っぽい暗褐色土
5: 塗化物・ローム粒子が混入し、やや汚れたある黄色土
6: 塗化物が混入し、しまりがありやや粘土っぽく、少々褐色味のある
　暗黄色土

54号土塙墓

53号、61号、62号、と重複し、塙口部は推定で約 110cm×73cmで、椭円形を呈すると思われる。長軸方向は N73°Wである。53号、61号、62号に切られている。石錘が 1点出土している。

- 1: 塗化物が混入し、褐色味が強く、汚れた暗褐色土
2: 塗化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
3: 塗化物・ローム粒子が混入し、黄色味のある暗褐色土

- 4: 塗化物・少々のローム粒子が混入する暗褐色土
5: ややしまっており、黄色味のある暗褐色土

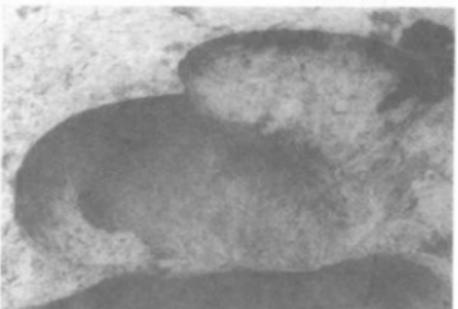
第158図
54号土塙墓出土石錘



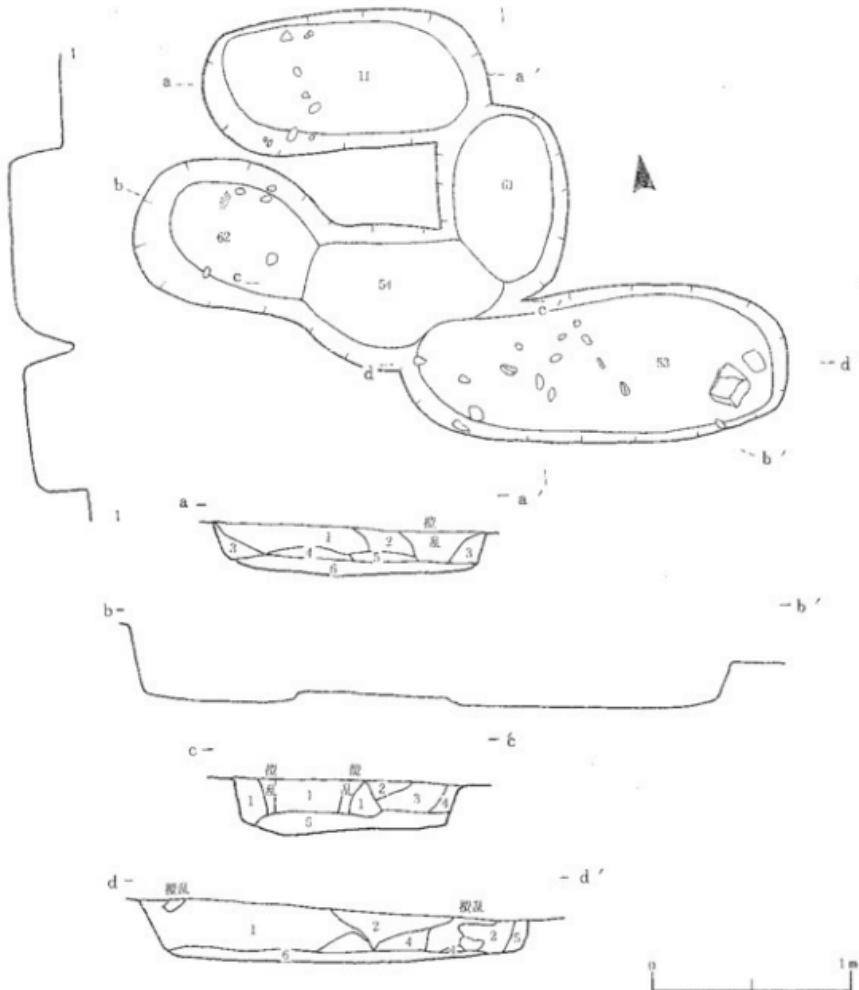
55号土塙墓

調査区中央にあり、56号、60号と重複し、塙口部は 107cm×約70cmで小判形を呈し、長軸方向は N42°Wである。出土遺物はない。

- 1: 塗化物が混入する暗褐色土
2: 塗化物・ローム粒子が混入し、黄色味の強い暗褐色土
3: 塗化物・ローム粒子が混入する暗褐色土
4: 塗化物が混入し、硬くしまっている始黄色土



第159図 55号・56号・60号土塙墓 (北→)



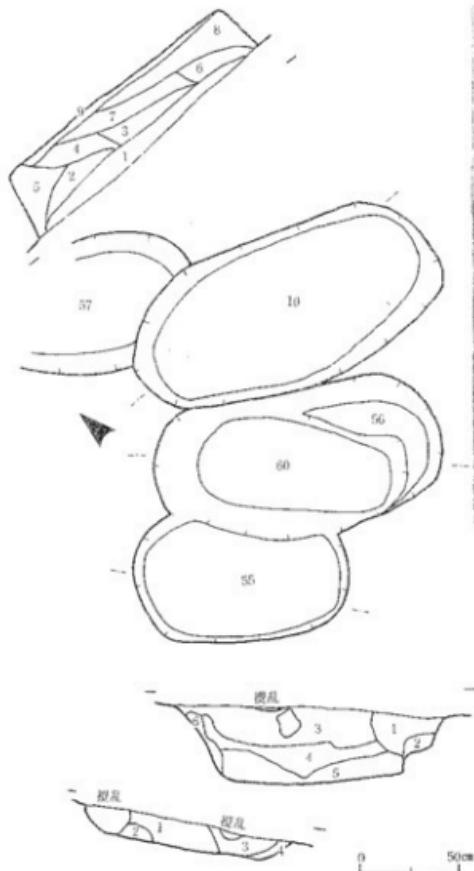
第160図 11号・53号・54号・61号・62号土塚墓

56号土塚墓

10号と接し、55号、60号と重複し、塚口部は143cm×約75cmで、小判形を呈し、長軸方向はN49°Wである。出土遺物はない。55号より新しく、60号より古い。

- 1 : 黒色土ブロックと暗褐色土
- 2 : 淡化物が混入し、硬くしまっている褐色土
- 3 : 淡化物・ローム粒子が混入する暗褐色土

- 4 : 3層と同じであるが、大陸のロームが入る
- 5 : 4層と同じであるが、やや黄色味がある
- 6 : 淡化物が混入する暗褐色土



第161図 10号・55号・56号・60号土塚墓



第162図 10号・57号土塚墓(手前57号)(西→)

57号土塚墓

調査区中央部にあり、7号、10号と重複し、7号、10号より古い。塚口部は推定で約120cm×65cmで、梢円形を呈し、長軸方向はN45°Wである。出土遺物はない。

- 1: 墓化物が混入し、墨色土・ローム粒子・黄色土等が入り混じる
- 2: 墓化物が混入し、やや黄色味のある暗褐色土
- 3: 墓化物が混入し、やや汚れのある暗褐色土
- 4: 墓化物が混入する暗褐色土
- 5: 墓化物が混入する暗褐色土
- 6: 墓化物が混入し、やや黄色味のある暗褐色土
- 7: 墓化物が混入し、褐色味の強い暗褐色土

58号土塚墓

13号、38号、64号、65号と重複し、塚口部は推定で約160cm×80cmで、隅丸長方形を呈すると思われる。長軸方向はN79°Wである。塚内南側から勾玉、小玉が各1個検出された。勾玉はヒスイ製で、小玉は緑色凝灰岩製である。13号より新しく、64号、65号、38号より古い。

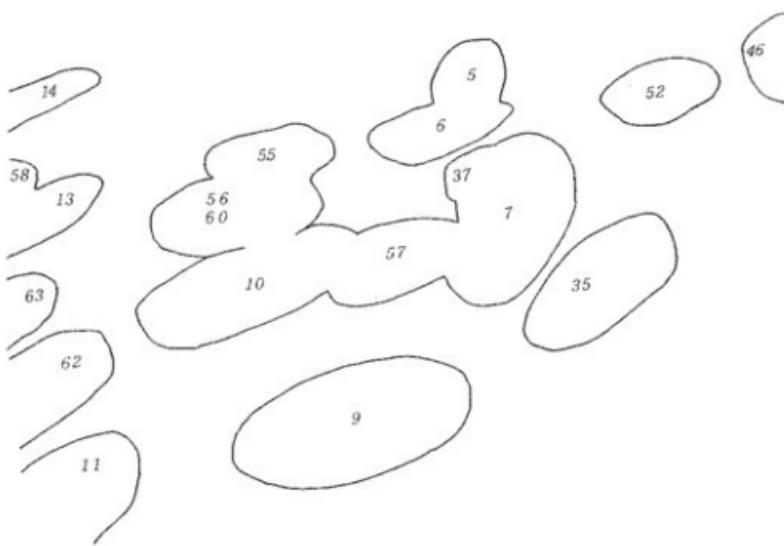
- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1: 墓化物・ローム粒子が混入する暗褐色土 | 4: ほそぼその暗褐色土 |
| 2: 墓化物・ローム粒子が混入し、黄色味のある暗褐色土 | 5: 墓化物が混入し、硬く、褐色味の強い暗褐色土 |
| 3: 墓化物が混入し、褐色味のある暗褐色土 | 6: 墓化物が混入し、やや褐色味のある暗褐色土 |



第163図
58号土塚墓出土勾玉・小玉



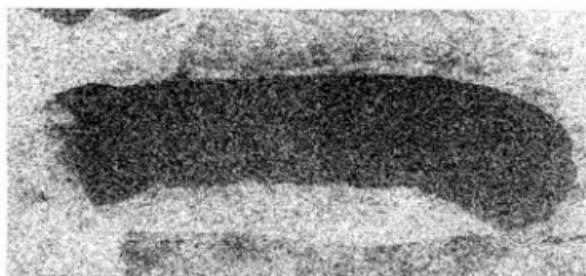
第164図 土塚墓群 (北→)



59号土塙墓

調査区中央部北西にあり、
塚口部は約185cm×78cmで、変形の長い小判形を呈し、長軸方向はN99°Wである。塚底は平坦で、出土遺物はない。

- 1：炭化物・ローム粒子・ロームフロックが混入する黒褐色土。
- 2：炭化物が混入する暗黄色土。
- 3：炭化物が混入し、粘性があり、汚れた黄褐色土。
- 4：炭化物・ローム粒子が混入する暗褐色土。
- 5：炭化物・ローム粒子が混入し、やや黄褐色味のある黒褐色土。
- 6：炭化物・ローム粒子が混入し、黄色味のある黒褐色土。
- 7：炭化物が混入し、粘性のある黄褐色土・褐色土。黒褐色土がブロッカ状に現る。
- 8：7層と同じであるが細かく混る。
- 9：炭化物が混入し、黄褐色味の強い極暗黒褐色土。
- 10：炭化物が混入する極暗黒褐色土。



第165図 59号土塙墓（北→）

60号土塙墓

56号土塙墓を
10~15cm掘り込



んでつくったも 第167図 60号土塙墓出土土器

第166図 59号土塙墓

ので、塚口部は推定で約130cm×80cmぐらいで、小判形を呈するものと思われる。長軸方向はN36°W前後であろう。埋土から土器片が1点検出している。

61号土塙墓

11号、54号と重複し、53号と接する。塚口部は約100cm×65cmで、小判形を呈し、長軸方向はN175°Wである。塚底は平坦で、出土遺物はない。11号、54号より新しい。

62号土塙墓

54号と重複し、54号より新しい。塚口部は約105cm×75cmで、橢円形を呈し、長軸方向はN57°Wである。北西側にベニガラの散布がみられた。出土遺物はない。

63号土塙墓

64号と重複し、64号より新しい。塚口部は約113cm×65cmで、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN71°Wである。出土遺物はない。

3：炭化物が混入する暗黃褐色土 6：炭化物が混入し、褐色味の強い暗黃褐色土

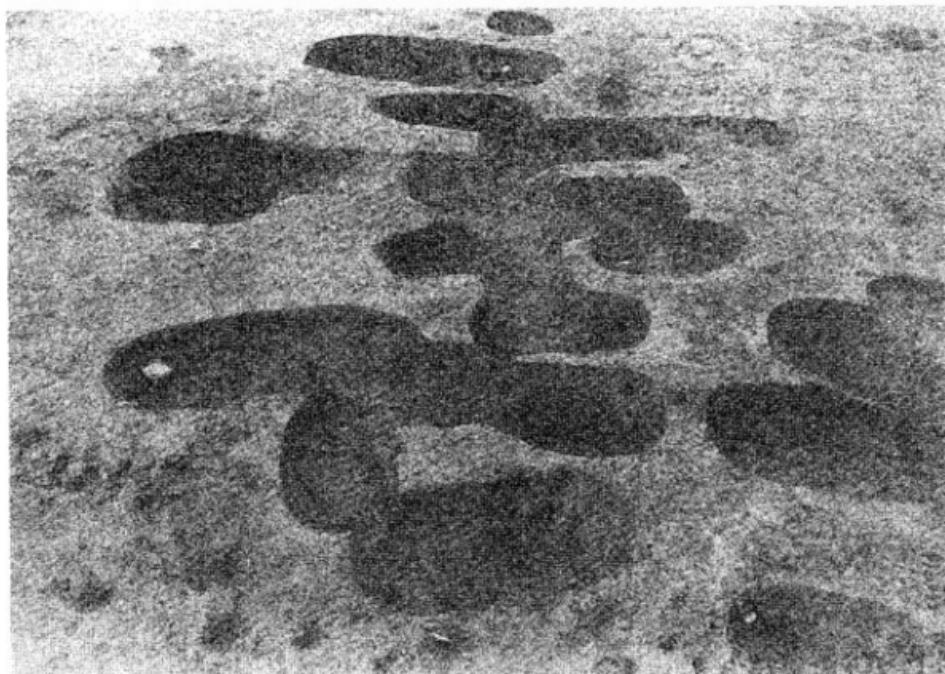
1：炭化物が混入し、黄色味の強い黃褐色土 4：やや汚れた黄褐色土 7：炭化物が混入し、6層よりやや褐色味の弱い暗黃褐色土

2：炭化物が混入し、黒褐色土の多い黃褐色土 5：炭化物が混入する黄褐色土 8：やや褐色味のある黄色土

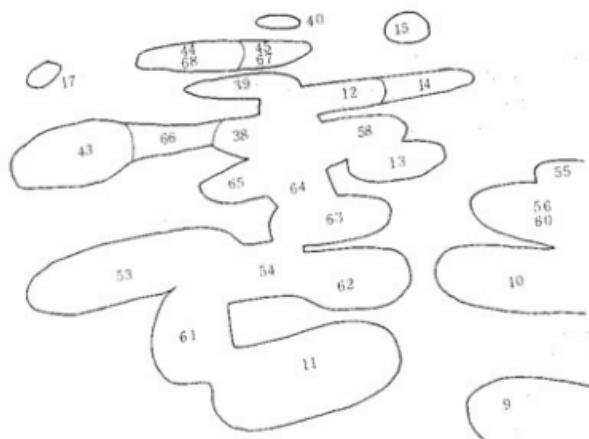
64号土塙墓

58号、63号、65号と重複し、63号より古く、58号、65号より新しい。塚口部は推定で約120cm×

65cmほどで、平面形は不明である。長軸方向はN 0°W前後であろう。塚底中央より北側に炭化物がみられた。出土遺物はない。



第168図 土塚墓群 (北→)



65号土塙墓

38号、58号、64号と重複し、58号より新しく、38号、64号より古い。塙口部は推定で約 130cm×70cm ぐらいで、小判形を呈すると思われる。長軸方向はN 93°Wである。出土遺物はない。

66号土塙墓

38号、43号と重複し、38号、43号により切られている。塙口部は推定で約 120cm×70cmで、変形の梢円形を呈するものであろうか。長軸方向N 79°W前後で、出土遺物はない。

67号土塙墓

45号、68号と重複し、45号、68号より新しい。塙口部は約 130cm×約55cm で、細長い小判形を呈し、長軸方向はN 73°Wである。塙底中央部と西側にベニガラの散布がみられ、小玉が3個検出された。いずれも緑色凝灰岩製である。



第169図 67号土塙墓出土小玉

68号土塙墓

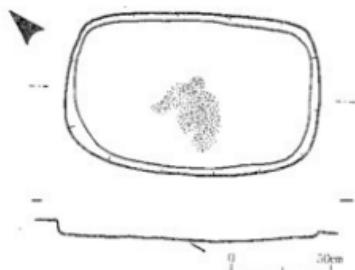
44号、45号、67号と重複し、45号より新しく、44号、67号より古い。塙口部は約 170cm×約70cm ほどで、長い小判形を呈するものであろう。長軸方向はN 58°W前後である。出土遺物はない。

69号土塙墓

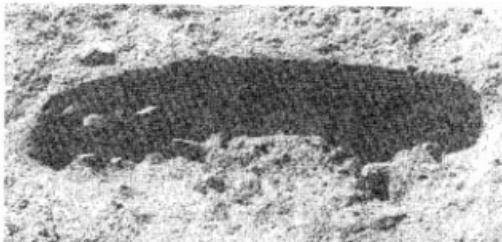
調査区中央部にあり、塙口部は125cm×82cmで、隅丸長方形を呈し、長軸方向はN 39°Wである。塙内ほぼ中央部にベニガラの散布がみられた。このベニガラは土塙の確認前にみられたものでベニガラを中心に掘り進んで土塙を確認した。塙底は平坦で、浅く、出土遺物はない。



第170図 69号土塙墓 (東→)



第171図 69号土塙墓



第172図 70号土塙墓 (東→)

70号土塙墓

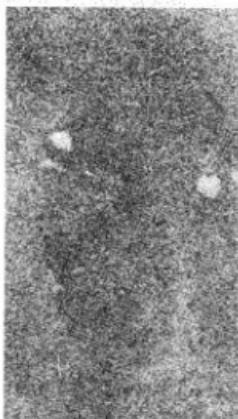
調査区南東の少しやかな斜面にあり、塙口部は 147cm×68cmで、長い梢円形を呈し、長軸方向はN 175°Wである。北側にベニガラの散布がみられた。出土遺物はない。

- 1 : 炭化物が混入し、汚れのある暗褐色土
- 2 : 炭化物・コーム粒子が混入し、やや黄色味のある黒褐色土
- 3 : 炭化物が混入する暗黄色土
- 4 : 炭化物が混入し、黄色味の強い暗褐色土

71号土塙墓

調査区南東、17号の南にあり、塙口部は125cm×52cmで、細長くほぼ闊丸長方形を呈し、長軸方向はN 66°Wである。出土遺物はない。

- 1 : 暗黄色土
- 2 : 黄色味のある暗褐色土
- 3 : 黄色味の強い暗褐色土
- 4 : 3倍よりやや深い

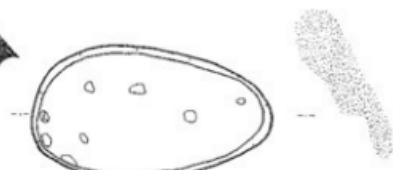


第174図 71号土塙墓(東→)

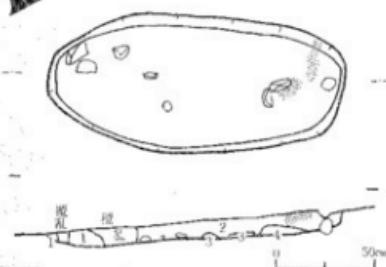
72号土塙墓

71号の南、ゆるやかな斜面にある。塙口部は120cm×67cmで、ほぼ椭円形を呈し、長軸方向はN 63°Wである。出土遺物はない。この土塙墓は道路際にあり、約30cm東側にベニガラが80×20cmの範囲で散布していた。道路によってこわされていったものである。

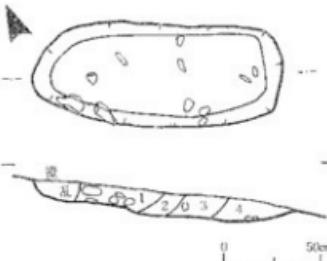
- 1 : 炭化物が混入し、黄色味の強い暗褐色土
- 2 : 1よりやや黄色味が弱い
- 3 : 炭化物が混入し、若干ぼく、暗褐色土
- 4 : 炭化物が混入し、路土っぽく、褐色味のある暗黄色土



第177図 72号土塙墓



第173図 70号土塙墓



第175図 71号土塙墓



第176図 72号土塙墓(東→)

73号土塙墓

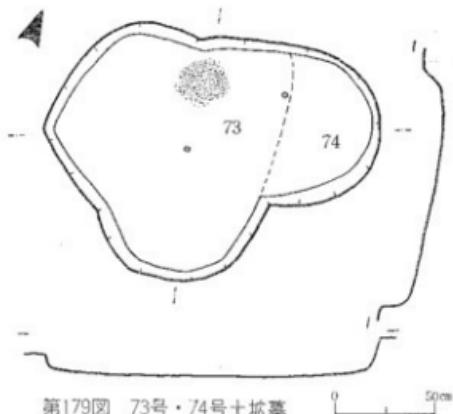
74号と重複し、74号より新しい。塙口部は約125cm×約80cmほどで、小判形を呈すると思われる。長軸方向はN 0°W前後であろう。塙内北側にペニガラの散布がみられ、中央部と北東側に勾玉と丁字状の刻線のある玉が検出された。勾玉はヒスイ製、玉は緑色凝灰岩製である。



第178図 73号・74号土塙墓(南) (南→)

74号土塙墓

73号と重複し、73号より古い。塙口部は165cm×約85cmで、西側は変形であるが、小判形を呈し長軸方向はN 70°Wである。土器片が1点出土している。



第179図 73号・74号土塙墓



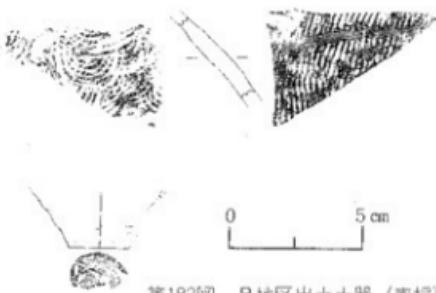
第180図 73号土塙墓出土勾玉・玉



第181図 74号土塙墓出土土器

出土遺物

B地区出土の遺物は第182図の表採遺物を除いて、全て土塙墓内出土である。第182図1は須恵器壺の破片で、2は回転糸切底、無調整の赤褐色土器である。土塙墓内出土土器ではほぼ復元可能なものは四個体で、玉類は十五個で、石礫が一個出土している。



第182図 B地区出土土器(表採)

V まとめ

1. 遺物について

A 地区

昭和29年4月、現在地に中学校を建築するため基礎工事をした際、縄文時代晚期の遺物が出土し、翌30年8月に一部発掘調査を行ない、組石造構が確認されている。この調査区と隣接しているのがA地区調査区である。

A地区は、西側に小沢の入り込んだ場所で、北半部に集石がみられ、出土遺物の大部分はこの集石造構の範囲からのものである。層位的な出土遺物の分類は困難であったが、土器実測図、拓影図には出土層を記した。土器型式は故山内清男博士による大洞B式～A'式式の型式分類を参考にI類～Ⅵ類土器群に類別したものである。深鉢形土器、台付鉢形土器の破片が多い。I類土器は大洞B式、II類土器は大洞B C式、III類土器は大洞C式、IV類土器は大洞C₂式、V類土器は大洞A式、VI類土器は大洞A'式にそれぞれ比定出来るもので、各類の中でも細別可能なものもある。Ⅵ類土器は後期に属する土器群である。第54図1～4は小形土器であるが、3、4は作りの悪い、肉厚状の土器で10の壺形土器はIII類土器群に属するものであろう。I類～IV類土器群は第2層（上層）～第6層（下層）に混入するが、V類、VI類土器群は第2層、集石造構上層部で多くの出土を見る。下層部では出土していない。土製品は土偶および土器片を利用した円板状土製品である。石器は石鏃、石錐、石匙、ヘラ状石器、槍先状石器、凹石、磨製石斧、石剣、石棒等が出土しているが、中でも凹石の出土量が多い。他に円板状石製品が19個出土している。

B 地区

B地区出土の遺物は、土塙墓内出土のもので、24号土塙墓埋土からII類土器群の土器片が出土したのが、型式類別の出来る唯一のものである。

2. 造構について

集石造構

前述したように、集石の範囲は調査区内では東西約18m、南北約35mにわたって確認されたもので、その広がりは西側、校舎方向の北東側に延びると考えられる。集石の堆積は埋土中で約20～30cmであるが、沢部については石の数が少なくなり小疊であったが、下層部まで集石はみられた。特に沢部にあたる8A3、9A1、9B1、9A2、11C3、12C1グリッド内からの遺物出土量は全遺物量の約55%である。このようにしてみると、①集石の範囲は遺物出土範囲と共に通する。②遺物、特に土器（片）の出土状態等に造構の性格を示すあり方がない。③集石の中に意識的に配置された状況、規則性が見受けられない。④集石造構の下に土塙墓等の造構がない。以上のようなことから、この集石造構の範囲は沢部を利用した捨て場としての造構ではないかと考える。昭和30年に中庭の調査をした際、確認された組石造構はA地区集石造構の一部、つまり集石の北東端であると

考えた方が妥当と思われる。集石の石は、Ⅱ章で述べたように寒風山火山によるローム層の上部に混入する亜円礫と考えられ、居住地域等の場をつくるため排除されたものであろう。

土 坟 墓

土塚墓として確認出来たものは、A地区で20基、B地区74基で、重複し合う土塚墓が多い。

① 土塚墓の形態

A・B地区合計94基のうち、形態が判別出来たものは93基である。基本型は三タイプが主体であり、多少の変形があっても、基本型に近似すると考えられるものも、類別したものもある。基本型も入れ、A～Fタイプに分類した。

〈Aタイプ—小判形〉 向い合う長辺はほぼ平行し、短辺は両端にゆるく半円を描くようにふくらむもの。

〈Bタイプ—椭円形〉 向い合う辺がゆるく外側にふくらみ、角度を全くもたないもの。

〈Cタイプ—隅丸長方形〉 向い合うそれぞれの辺が直線的ではなく平行し、長辺と短辺がほぼ直交するもの。

〈Dタイプ—隅丸方形〉 Cタイプの長辺と短辺の長さの違いがそれほどないもの。

〈Eタイプ—円形〉 ほぼ円形を呈するもの。

〈Fタイプ—変形〉 A～Eタイプに入らないもの。

これらのA～Fタイプの出現頻度（土塚墓数）は次のような比率をもつ。

A地区 A : B : C : D : E = 8 : 7 : 3 : 1 : 1

B地区 A : B : C : D : E : F = 42 : 12 : 14 : 3 : 2 : 1

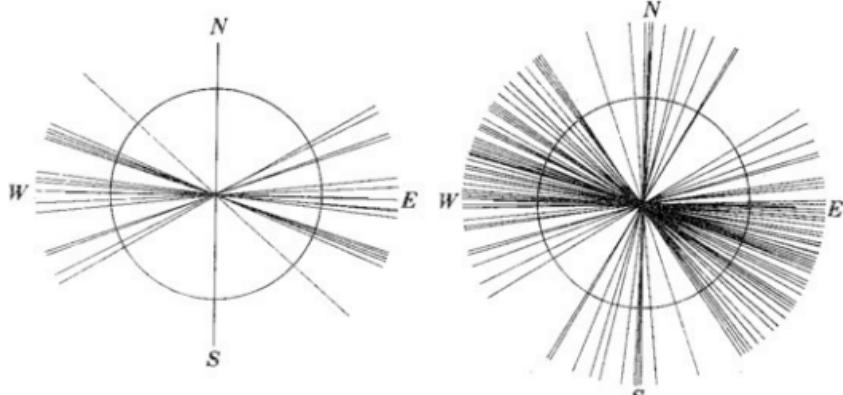
Aタイプ、Bタイプの中には、形態類別の許容を越えない程度の変形のものも含まれるが、小判形土塚墓が約半数で椭円形、隅丸長方形と続く。B地区での長い小判形土塚墓の多いのが目立つ。

② 土塚墓の規模

B地区的土塚墓には、埴口部での長軸が170cm以上のものが14基あり、秋田県柏子所貝塚では8基の土塚墓が確認され、人骨の埋葬形態は屈葬である。土塚墓の大きさは長軸が100cm～142cmのもので、成年の人骨が三体である。A・B地区を概観すると、埴口部の大きさから屈葬が基本的であると考えられるが、上記、14基の土塚墓については伸展葬とみることもできる。

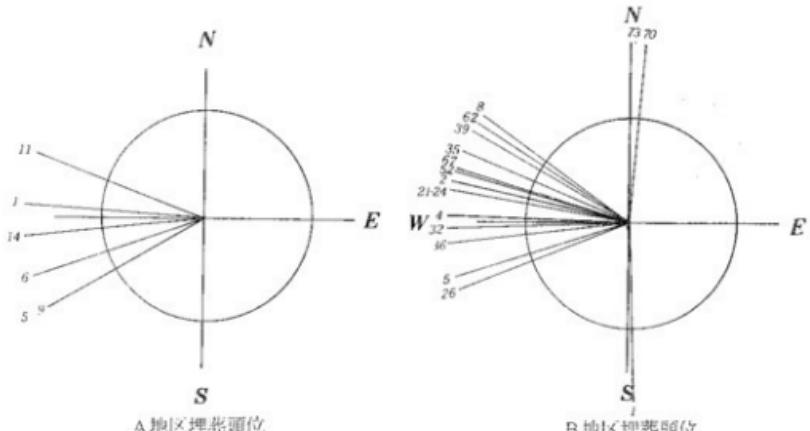
③ 土塚墓の長軸方向

A地区20基、B地区74基の土塚墓のうち、重複しているものについても、形態を推定し、長軸方向を出してみた。A地区はN48°W～N120°Wの範囲にある。B地区はN36°W～N123°Wに大部分は集中するが、N20°W～N30°Eにその範囲を示すものがある。本遺跡においては、概略この2方向性をもつ土塚墓群と考えられる。この2方向のあり方はどのような埋葬の違いに起因するのか、今後の課題である。



A地区土塚墓長軸方向

B地区土塚墓長軸方向



第183図 土塚墓の長軸方向・埋葬頭位

④ 土塚墓の埋葬頭位

第183図の頭位方向は土塚墓内のベニガラ散布の位置によるもので、A地区ではベニガラの認められたのは7基で、そのうち埋葬頭位のわかるものは6基で、北西～南西の西頭位である。B地区はベニガラの認められたのは18基で、頭位方向の判明したものは17基で北西～南西の西頭位の土塚墓は14基、北頭位は2基、南頭位が1基である。

地中出土遺物は上器、玉類、石鐵であるがその出土状態から埋葬頭位は必ずしも決められないものがある。

〈ベニガラ散布位置〉

A地区土塚墓

西位置…1・5・6・9・11・14

B地区土塙墓

西位置…2・4・5・8・21・24・26・32・35・36・39・52・62・67

北位置…70・73

南位置…1

〈玉類出土位置〉

玉類の出土土塙墓はA地区2基、B地区7基である。A地区の2基(11・14)、B地区の2基(67・73)はベニガラと作出したもので頭位方向が確認できるが、他の5基については、はっきりしない。

〈石鎚の出土位置〉

石鎚の出土したのはB地区41号土塙墓だけであり、底底直上から出土したもので西位置である。

〈土器の出土位置〉

B位置

東位置…24

西位置…4

北位置…32・48

東位置出土の24号はベニガラの散布から西頭位と考えられるものである。北位置の32号、48号は塙内中央部北壁で検出したもので32号は西にベニガラの散布がみられる土塙墓である。副葬品としての土器が頭位方向と一致するのは4号のみである。

⑤ 土塙墓の構造

構造については、上部構造として石を集積したもの、または並列したものはない。塙内の埋土は暗褐色土、黄褐色土が主で、埋土には炭化物が混入する。塙底は、ほとんどが平坦で、場所により傾斜を有するものもある。A地区、B地区の南面にある土塙墓は一部、礫層を掘り込んでいるため、塙底に礫が一面に見られるものもある。長い小判形を呈する土塙墓の壁は立ち上がりがよく、深いものが大部分である。

⑥ 土塙墓の分布

上新城中学校遺跡の発掘調査は部分的ではあるが、2次にわたる調査の結果、時間的差はあるにしろ、A地区、B地区2ヶ所の墓域が確認された。いずれも南面し、緩傾斜地も含む平坦地の場所である。特にB地区における土塙墓群は重複するものが多い。A地区、B地区的土塙墓群の範囲には、その覆土に遺物がない。重複関係の多いB地区については、土塙墓の広がりが西側に及ぶと予想されるため、配列を決定づけるまで至らないが、調査区東側の重複する土塙墓群の新旧関係で観察すると、比較的小形である梢円形を呈するものが古く、土塙墓を根本的にみると、長い小判形を呈するものが新しいようである。このように土塙墓の形態、新旧関係で配列を推定すると、調査区西側に中心をもち、環状に分布する予想も成り立つが、はっきりしない。時間的差を考慮に入れて

もこれ程までにも、重複して墓を配備しているということは、何らかの規制のあったことを伺うことができる。

上新城中学校遺跡の今までの調査で、墓域、捨て場を確認しているが、住居地は確認できなかつた。A地区、B地区の墓域の中間域にあり、A地区の捨て場に近い現中学校舎の地域がそれであろうか。



第184図 上新城中学校遺跡遺構構想図

上 墓 菟 一 覧 表 (1)

A 地 区					
土塙番号	形態	長軸方向	頭位	墳口部(cm)	備考
1	小判形	N 86° W	西	113×60	ベニガラ
2	小判形	N 72° W		130×67	
3	楕円形	N 83° W		127×62	
4	小判形	N 71° W		120×55	
5	小判形	N 120° W	南西	142×65	ベニガラ
6	隅丸長方形	N 109° W	西	102×54	ベニガラ
7	円形	N 93° W		75×70	
8	椭円形	N 67° W		127×70	
9	楕円形	N 120° W	南西	140×77	ベニガラ
10	小判形	N 70° W		83×50	
11	小判形	N 69° W	北西	110×82	ベニガラ・小玉8個
12	椭円形	N 48° W		115×75	
13	楕円形	N 85° W		135×85	ベニガラ
14	隅丸方形	N 96° W	西	95×67	ベニガラ・勾玉1個・小玉4個
15	椭円形	N 117° W		220×105	
16	小判形	N 110° W		140×70	
17	椭円形	N 89° W		150×115	
18	隅丸長方形	N 89° W		115×75	
19	小判形	N 67° W		130×70	
20	隅丸長方形	N 110° W		127×55	
B 地 区					
1	小判形	N 1° W	南	147×77	ベニガラ
2	小判形	N 77° W	西	193×63	ベニガラ
3	隅丸長方形	N 90° W		145×65	
4	小判形	N 88° W	西	180×73	ベニガラ・土器
5	小判形	N 108° W	南西	120×71	ベニガラ
6	小判形	N 60° W		140×70	小玉4個
7	小判形	N 100° W		195×80	
8	小判形	N 54° W	西	180×80	ベニガラ
9	小判形	N 51° W		147×78	
10	小判形	N 65° W		160×80	
11	小判形	N 87° W		140×70	
12	隅丸長方形	N 76° W		165×82	
13	椭円形	N 82° W		115×68	
14	小判形	N 70° W		140×67	
15	椭円形	N 151° W		112×68	
16	隅丸方形	N 168° W		80×55	
17	隅丸長方形	N 70° W		128×47	
18	小判形	N 165° W		150×73	
19	隅丸長方形	N 89° W		160×70	
20	小判形	N 97° W		146×72	
21	小判形	N 80° W	西	155×80	ベニガラ
22	隅丸長方形	N 118° W		145×76	
23	隅丸長方形	N 93° W		168×82	
24	隅丸長方形	N 80° W	西	178×83	ベニガラ・土器
25	小判形	N 70° W		130×55	
26	椭円形	N 112° W	西	170×117	ベニガラ

上 墓 簿 一 覧 表 (2)

上墳墓番号	形態	長軸方向	頭位	址口部(cm)	備考
27	小判形	N 20° W		140×70	
28	隅丸方形	N 118° W		95×67	
29	小判形	N 85° W		97×38	
30	隅丸長方形	N 75° W		136×78	
31	隅丸長方形	N 92° W		140×70	
32	隅丸長方形	N 97° W	西	155×92	ベニガラ・土器
33	小判形	N 54° W		185×82	
34	小判形	N 6° W		125×63	
35	小判形	N 67° W	北西	147×63	ベニガラ
36	小判形	N 92° W	西	130×76	ベニガラ
37	小判形	N 150° W			
38	小判形	N 59° W		140×72	小玉1個
39	小判形	N 60° W	北西	160×75	ベニガラ・炭化物
40	楕円形	N 37° W		85×65	
41	小判形	N 89° W		120×65	石疊1個
42	小判形	N 123° W		127×65	
43	変形	N 72° W		160×130	
44	小判形	N 73° W		180×75	
45	楕円形	N 58° W		140×80	勾玉1個・玉1個
46	楕円形	N 159° W		160×85	
47	小判形	N 88° W		130×70	
48	小判形	N 75° W		177×93	土器
49	小判形	N 179° W		140×70	
50	変形	N 38° W		170×80	
51	隅丸方形	N 79° W		195×150	
52	小判形	N 74° W	西	145×77	ベニガラ
53	小判形	N 83° W		195×80	
54	楕円形	N 73° W		110×73	
55	小判形	N 42° W		107×70	
56	小判形	N 49° W		143×75	
57	楕円形	N 45° W		120×65	
58	隅丸長方形	N 79° W		160×80	勾玉1個・小玉1個
59	小判形	N 99° W		185×78	
60	小判形	N 36° W		130×80	
61	小判形	N 175° W		100×65	
62	楕円形	N 57° W	北西	105×75	ベニガラ
63	隅丸長方形	N 71° W		113×65	
64	不明	N 0° W		120×65	炭化物
65	小判形	N 93° W		130×70	
66	楕円形	N 79° W		120×70	
67	小判形	N 73° W	西	130×55	ベニガラ・小玉3個
68	小判形	N 58° W		170×70	
69	隅丸長方形	N 39° W		125×82	ベニガラ
70	楕円形	N 175° W	北	147×68	ベニガラ
71	隅丸長方形	N 66° W		125×52	
72	楕円形	N 63° W		120×67	
73	小判形	N 0° W	北	125×80	ベニガラ・玉1個・小玉1個
74	小判形	N 70° W		165×85	

参考文献

- 大和久義平「柏子所貝塚」昭和41年 秋田県文化財調査報告書 第8集 秋田県教育委員会
能代市教育委員会
- 八幡一郎 「新版考古学講座 第3巻」昭和44年 雄山閣
- 青原俊行 「上新城中学校遺跡とその周辺遺跡」昭和48年 秋田市教育委員会
- 村越、市川、三宅、鈴木 「亀ヶ岡遺跡発掘調査報告書」昭和49年 青森県埋蔵文化財調査報告
書 第14集 青森県教育委員会
- 野村 崇 「札苅遺跡」昭和49年 木古内町教育委員会
- 野村 崇 「札苅」昭和51年 北海道開拓記念館
- 杉山、成田、三浦「源常平遺跡」昭和53年 青森県埋蔵文化財調査報告書 第39集 青森県教育
委員会
- 富樫、島山、大友「湯出野遺跡」昭和53年 秋田県文化財調査報告書 第53集 秋田県教育委員会
- 島山、橋本 「梨ノ木塚」昭和54年 秋田県文化財調査報告書 第63集 秋田県教育委員会

A 地区図版



昭和30年頃 上新城中学校遺跡航空写真



図版1 昭和54年 上新城中学校遺跡航空写真



図版2 上、上新城中学校遺跡遠景
下、上新城中学校遺跡地層